

アイヌ民俗文化財
ユーカラシリーズ 44

金成マツ筆録 アイヌ英雄叙事詩
金色の羽の若き姉
カニラブ ノカ ポン アコロ サポ

高橋 靖以 訳

北海道教育委員会

金色の羽の若き姉

カニラブ ノカ ポン アコロ サポ

金成マツ

Kani rap noka pon a-kor sapo

金色の羽の若き姉

高橋靖以 訳

目次

アイヌ英雄叙事詩 金色の羽の若き姉	1
例言	5
原テキスト	5
表題	5
編集要綱	5
分担	7
参考文献	8
物語 金色の羽の若き姉	9
第1章 姉の養育	9
1.1 笹竹の家	9
1.2 ポイヤウンペの成長	9
1.3 海の神の訪問	10
第2章 姉の語り	10
2.1 姉の正体	10
2.2 ポイヤウンペの出自	10
2.3 伯父の謀略	11
2.4 戦いの発端	12
第3章 戦闘	13
3.1 岩山の戦場	13
3.2 ポイヤウンペの参戦	13
3.3 伯父の最期	15
第4章 別れと帰還	15
4.1 姉との別れ	15
4.2 シヌatapカの神居	16
4.3 兄との暮らし	16
金色の羽の若き姉	19
第1章 姉の養育	21
1.1 笹竹の家	21
1.2 ポイヤウンペの成長	23
1.3 海の神の訪問	28
第2章 姉の語り	33
2.1 姉の正体	33
2.2 ポイヤウンペの出自	34

金色の羽の若き姉

2.3	伯父の謀略	40
2.4	戦いの発端	49
第 3 章	戦闘	61
3.1	岩山の戦場	61
3.2	ポイヤウンペの参戦	68
3.3	伯父の最期	80
第 4 章	別れと帰還	85
4.1	姉との別れ	85
4.2	シヌタブカの神居	88
4.3	兄との暮らし	95

例言

1. 原テキスト

本書に収録されているアイヌ語テキストは、金成マツ（1875-1961）によって記された英雄叙事詩のテキストである（テキストの末尾には、昭和7年5月16日に筆録が終了したことを示す記載がある）。このテキストが収録されている手帳は、萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）によって所蔵されている。ただし、本編集者らは影印によって編集・翻訳をおこない、手帳は直接閲覧していない。

2. 表題

このテキストに関しては、明示的なジャンル名の記載はない。物語の表題は次のように書かれている。

Kani Rapnoka pon Akor sapo^{*1}

この表題は、「金の羽の形、年少の私の姉」のような並列的な構造とも、「金の羽の形が小さい私の姉」のような構造とも解釈することができる。一方、物語の内容からすると、前者の解釈が妥当と考えられる。なお、kani rap noka「金の羽の形」は小袖の模様を指す表現である。

手帳のINDEX欄において、金田一京助はこの表題を次のように訳している。

金翅の形ある我が若き姉の物語

本書では金田一の翻訳を参考とし、次のような表題とした。

アイヌ語表題 Kani rap noka pon a-kor sapo

日本語表題 金色の羽の若き姉

3. 編集要綱

原テキストの冒頭部分を複製して p.6 に掲載した（影印）。この部分を忠実に再現すると、p.7 のようになる（翻刻）。なお、テキストの冒頭には、この手帳に収録されている三番目の物語であることを示す「3」という数字が記されている。

本書ではこれを以下の要領で編集し、対訳をおこなった。

- (a) 叙事詩の詩句を再現することを意図し、1行が4音節ないし5音節に収まるように改行をおこなった。しかしながら、例外も多く、6音節以上になることがある。また、詩句の再現が困難であり、恣意的にならざるをえなかった場合がある。
- (b) 文の先頭と固有名詞については大文字を使用した。そのほかの大文字はすべて小文字に置き換えた。
- (c) ピリオド、コンマ、コロンのダッシュなどを適宜補った。また、引用符を加えた。
- (d) 語の切れ目に従い、原テキストの分かち書きを変更した。また、原テキストにおいて、改行により分断されて表記されている語は、もとの形を再現して示した。
- (e) 2行の詩句にまたがる動詞については、1行目の末尾にハイフンを補った。
- (f) 人称接辞と人称語幹の境界にハイフンを挿入した。
- (g) 各行（詩句）に通し番号をつけ、欄外に手帳のページ番号を示した。

^{*1} kani「金の」、rap「羽」、noka「形象」、pon「～が小さい」、akor「私が～を持つ」、sapo「姉」。

Kani Rapnoka pon Akor sapo

pon Akor Sapo Ireshba wa okai
 Anko Ireshba An chise ene okai
 i tuima ashtop hanke ash top
 kitaike Aukoshina nei oshketa
 iramasure no usa ritem
 mun usa kor ham Abirashba
 nei oshke Aiyereshu pon Akoro
 Sapo okutchi urar urar tumu
 yayomare kani kosonte kosonte
 kurka kanirap Noka chietom
 te kurka shike tu kamui chup-
 ki re kamui chupki Eshima
 ka kamui otobi ekimui kashi
 Sarambe kane chiesurure At
 tapkashi shukush rayochi
 chieomare attapkashi Ekai
 rayochi chieomare kimui
 kashita unottasare reubokita
 kamui Sannanu shukushtoi
 kunne komak na tara nubu
 rbe sone Nubut channoye Eshi
 ru tomta nuina kane Sara
 turembe kabapsai kunne Eser
 makkashi Ear Utasa mukke

原テキスト「金色の羽の若き姉」の冒頭部分（翻刻） II.1-53.

- (h) 物語の内容に従い全体を4つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。また、それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (i) 原テキストはローマ字表記であるが、片仮名によるアイヌ語表記を新たに加えた。
- (j) 各行にアイヌ語の逐語訳を加えた。逐語訳は極めて便宜的なものである。アイヌ語の文法を学んでから利用することが望ましい。
- (k) 脚注は最少限にとどめた。
- (l) 「物語 金色の羽の若き姉」を本文の前に加えた。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示すものである。

4. 分担

編集に当たったの分担を示す。

- (a) 編集全般

高橋靖以

- (b) 原テキストの解説・翻訳

金色の羽の若き姉

高橋靖以

(c) 片仮名アイヌ語表記

切替英雄

(d) 逐語訳

切替英雄・高橋靖以・蓮池悦子

(e) 物語 金色の羽の若き姉

高橋靖以

(f) 組版（フォントの選定、 $\text{pL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ ）

山下浩一・切替英雄

5. 参考文献

テキストの翻訳にあたって参考にした文献を以下に示す。

- (a) 金成まつ（筆録）・金田一京助（訳注）『アイヌ叙事詩ユーカラ集』I-VII. 三省堂. 1959-1966年.
- (b) 金田一京助『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』II. 東洋文庫. 1931年.
- (c) 久保寺逸彦『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』岩波書店. 1977年.
- (d) 田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館. 1996年.
- (e) 服部四郎（編）『アイヌ語方言辞典』岩波書店. 1964年.
- (f) ジョン・バチラー『アイヌ・英・和辞典（第4版）』岩波書店. 1938年.

物語 金色の羽の若き姉

第1章 姉の養育

1.1 笹竹の家

1 年少の姉が私を育てていた。私は育てられていた。家の様子はこのようであった。遠くに生い茂る笹竹、近くに生い茂る笹竹の先端が結わえ付けられている。その中に、何とも好ましいことに、軟らかい草や露の葉などが敷かれている。その中で私は育てられた。

18 年少の姉は、たちこめた靄、その靄の中に身体を入れている。姉の金の小袖、その小袖の表面は、金の羽の形象で輝いている。その形象の上で、二つの神光、三つの神光が明るく輝いている。

30 神々しい髪は、頭の上を絹の糸のように覆っている。片方の肩の上には、光を帯びた虹がかかっている。もう片方の肩の上には、頭の折れた虹がかかっている。二つの虹は頭の上で交叉している。その下には、神々しい顔が日光のように光り輝いている。

46 霊能力にすぐれた者であるらしく、霊能力を身体の中に隠している。姿をあらわしている憑き神は、蝙蝠の群れのように、背後で飛び交っている。姿を隠している憑き神は、星のきらめきのように、背後で輝いている。どのように形容することもできないほど美しい。

61 毎日、姉は魚の残骸、鹿の残骸を探し出して私を育てた。山菜を採ったり、木の実を集めたりして私を育てた。炉の前に私は座り、横になっていた。

1.2 ポイヤウンペの成長

72 今は、少しばかり、私は成長した。並みの小さな小袖、並みの帯、儀礼用の刀剣、小さな刀、並みの小さな兜で私は育てられたが、私は気品を備えているようであり、私の身のまわりは、光輝き、照り輝いている。たちめた靄、その靄の中に私は身体を入れていた。

89 金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、なんと私を可愛がることか。夜も、昼も、首の根元も

無くなるほどつむいて、二つのうなずき、三つのうなずきを私に対して繰り返し、私を撫でた。あるときは、どのように思ったのか、「弟よ、心臓よ。」と言って私を引き寄せて撫でた。私の上に二つの濃い涙、三つの濃い涙を落とした。

どうしてそのようにするのか、私にはわからなかった。私はいかなる生まれの者、いかなる育ちの者であって、どこから来た者であって、この山の奥、奥山の上でただ二人だけで暮らしているのか。心の中で、本当に不思議に思っていた。

金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、息のただ中に、心臓のただ中に私を結び付けるようにして可愛がった。毎日いつも、そのようにして、私たちは暮らしていた。

金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、よい心で私の方へ顔を上げようとした。すると、このような神、このような貴人がみずからを差し置いて、あたりまえに私に感心するもの、私を称賛するものであるならば、さもあるうが、私の前へ視線を低く落としていた。

そして、姉は口の中で、独り言を次のように言った。

「これは現実のことでしょうか。この者は何とすぐれた容貌をしていることでしょうか。何ということでしょうか。ただの人間と呼ばれる者が、すぐれた容貌も、すぐれた品格も備え、ますます立派になり、驚いたことに、目を見張るように成長したのですね。噂に聞いた、祭祀を受ける神が、地表に降りてきたならば、まさにこのような姿なのでしょう。このような姿の者が、この世に生を受けた、ただの人間だということでしょうか。」

と何度も独り言を言った。

またあるときには、
「かわいそうに。このようなことがあるものではないでしょうか。悪党の子孫、悪人の子孫たちが、一軒の家で、一族たちに、妬み嫉むにしても、乱心するにしても、ただならぬことをしたのですね。私

110

127

134

150

177

がいなかったら、長い間、後に残された者は酷い目にあうところでした。」

と独り言を言った。

197 姉は涙を拭ったが、何を言っているのか、私にはわからなかった。

1.3 海の神の訪問

201 そのように、私たちは暮らしていたが、あるときに、何の音であろうか。山の奥、ずっと奥にある山の頂きで、二つの轟音、三つの轟音が鳴り響いた。二柱の神が死ぬ音、三柱の神が死ぬ音が絶え間なく続き、国土に響き渡った。

216 すると、金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、二つの悲しみの表情、三つの悲しみの表情を顔に浮かべていたが、その間に、遙か沖から、神が上陸する音が鳴り響いた。

227 驚いたことに、並みの勇者であるならば、さもあるうが、真の勇者であるらしく、二柱の尊い神、三柱の尊い神を、みずからの上に従えている。それに伴う神風が二つの旋風、三つの旋風となって巻き起こった。林にあたる風はうなり響いた。

242 今は、私たちの小さな笹竹の家も、風が吹きはがしてしまうように思われた。私たちとは別のところへ上陸するものであるならば、さもあるうが、私たちの小さな笹竹の家の、正面に向かって上陸するものであるようだ。年少の姉はその音を聞いて畏まり、髪を裾を地面につけるようにしていたが、その神の出す音は、私たちの小さな笹竹の家の西の屋根の上で鳴り止んだ。何の音も、何の声もしなくなった。あたりは静まり返った。

268 鍋が煮立つほどの時間、その時間を過ぎた頃に、年少の姉は頭を上げて、畏まりながら拝礼をして、承諾の返事をした。それと同時に、また、何者かが屋根の上から神風を走らせた。上陸してきた時と同じように、また、去っていく音が鳴り響いた。その音が響いた後、あたりは静かになった。

286 すると、金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、私の方へ振り向いて、私を撫でながらこのように言った。

第2章 姉の語り

2.1 姉の正体

292 「さてさて、人間の弟、私が育てた弟よ、話しますから聞いてください。まだあなたは幼いから、まだ、あなたに教えようとは思っていなかったの

ですが、今は厄介な話、厄介な出来事が起こったのです。それで、今、駆け足で、急いで、あなたに教えて聞かせます。よく聞きなさい。あなたはよい血筋の者ですから、どんなに幼くとも、あなたは利口であるのでしょう。

私は人間であるから、あなたを育てていたのではありません。天空から、人間の世界で仕事をするために、一年に一度、降ろされる郭公なのです。

2.2 ポイヤウンペの出自

私たちは大勢で降りてきましたが、まさにその時に、トミサンペチの川の源流にある、神がこしらえた険しい崖、その崖の下に、円い淵があるのです。その淵の上で、一人の幼い男の子一人の幼い女の子、神のような姿をした者たちが、二人で遊んでいました。もうしばらく、そのまま遊んでいると、怖ろしい淵、底無しの淵に二人とも落ちてしまいそうな様子です。子供たちは、まだとても若い者たちで、分別のない者たちです。どきどきするようなことも、そうではないことも、少しもわからない者たちであることを、私は見て取りました。

私はとても不思議に思いました。どこから、このずっと山奥に、このような子供たちがやって来て、一緒に遊んでいるのか、と私は思いました。そして、見たところ、驚いたことに、トミサンペチ、シヌタブカで、昔のことですが、あなたの父は人間ではあるのですが、その容貌、その勇氣、その雄弁は神々の中でも、人間たちの中でも、匹敵するものが一人もおりませんでした。

それからまた、天空の狼の神は二人の兄弟で、二人の姉妹であるのです。そして、年下の娘は、神々の中で自分にふさわしい相手を探したのですが、ふさわしいと思う相手が一人もおりませんでした。そこで、人間の国土、その国土の上を見回したところ、まさしく、あなたの父の容貌に心を惹かれ、強い恋心を抱きました。

それで、そのことを兄たちや姉に相談すると、反対されたのですが、そのことに腹を立て、死のうとして、何も食べずに、泣きながらふさぎ込みました。『これほどの神、これほどの貴人を夫として与えられないのであれば、神の世界に未練はありません、死にたいと思います。』と考えたのです。

そのことを神々は大層心配して、承諾の返事を

317

329

361

384

405

424

すると、娘はとても喜び、家とともに、宝物とともにトミサンペチ、シヌタブカに降り立って、あなたの父と夫婦になりました。まさしく、並び立つ神、並び立つ容貌、似つかわしい顔、似つかわしい姿であり、その神の噂が、二つの世界を越えて、三つの世界を越えてひろがりました。それを遠方の者、近隣の者が一緒になって憎み、あなたの両親は妬まれ、嫉まれました。

454 それで、生きている間は戦いばかり、戦闘ばかりの歳月をおくりました。その戦いが休止したときに、ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄と、あなた、あなたの妹の三人を産みました。そして、まことにあなたたちを可愛がって育てていたのですが、あまりにも、戦いばかり、戦闘ばかりの苦しい日々が続くものですから、大層疲労してきました。妬まれているものですから、危惧ばかり、憂慮ばかりをしていたのです。

2.3 伯父の謀略

482 落ち着いて、安心して暮らすことができませんから、ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄は、少し成長し分別のつく年頃になると、あなたの両親は彼一人を神の住まいに残しました。それから、あなたとあなたの妹は、ともに、これまでと同じように幼いものですから、あなたたちの伯父、館の東にいる者の夫婦のところへ託しました。そして、あなたたちがよい養育を受けられるように言い残して、あなたの両親は神々のもとへ立ち去ったのです。ですが、その後、あなたたちの伯父はまことに性悪の者であり、あなたたちが大きくなって、トミサンペチの神の住まいにぎっしりと詰まっている神宝で、あなたたちが良い思いをすることを妬んだのです。

520 そこで、まだあなたたちが幼いうちに、どうかしてあなたたちを殺したいと思いました。あなたたちを殺して、あなたたちがいなくなったら、神の住まいを手に入れたいと思いました。あなたたちを殺すことも危ぶんで、遠く、トミサンペチ、シヌタブカの源流にある険しい崖の頂きで、あなたたちを崖から落とすために、あなたたちを欺いて、『ここでしばらく遊んでいなさい、すぐに戻って来るから。』と嘘をついて、別の場所へ逃げてしまったのです。あなたたちは何も知らずに一緒に遊んでいたのです。私はすべてを見抜きました。

556 もう少し救い出すのが遅れたら、あなたたちは

二人で淵の底へ落ちてしまい、淵の底で腐ってしまっても、誰も気付かないでしょう。見ると、あなたの父が祈る神は大勢いるのですが、一柱の神も、振り向く神はいないのです。そこで、私が助けに向かったのです。

その間に、神がこしらえた岩山、その岩山の頂に、天空から尊い神の子供たちが遊びに降りてくるのです。その時もまた、遊びに降りてきたときに、雷神の年少の子供が、まことにあなたの妹を憐れに思い、いとおしく思って、天空へあなたの妹を連れて行きました。そして、神々のところで可愛がられ、立派に育てられているのです。もうしばらくして大きくなったら、トミサンペチ、シヌタブカへ降ろされるでしょう。

私はあなたを憐れに思い、郭公であるのですが、605 このように人間としてあなたを育てていたのです。あなたたちの悪い伯父は、以前から、あなたたち二人が淵の底へ落ちて死ぬことばかりを望んでいたのです。

619 神の住まいには、ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄が、ただ一人で暮らしていたのですが、殺して亡き者にしようと思っても、今はもうまことに勇敢な者になりましたから、どのように殺していいかわかりません。そこで、ポンヤイエピリカを騙して、あなたたち二人がさらわれたのだ、と嘘をつきました。

638 その嘘に、ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄は大いに驚いて、本当のことだと信じました。あなたたちの伯父は、あなたの兄があなたたちを探すために、どこかの村へ行ったならば、その後で、神宝の最もよいものを選び出し、盗み出そうと、笑いそうになりながら、勢い込んで嘘をつきました。すると、ポンヤイエピリカ、背負われた子供は、幼い子であっても、分別のある者であるので、金の皮の縄で、神の住まいの窓も戸口もしっかりと閉めて、縛りました。

666 それから、二つのまわりの村、三つのまわりの村を探し回りましたが、まったく行方がわかりません。そこで、ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄は、二つの海をめぐる、三つの海をめぐる、あなたたちを探しました。

678 その後で、あなたたちの悪い伯父は、神の住まいの戸口も窓もほどこうとしましたが、まったくほどくことができません。そこで、ただ一振りの

刀で金の皮の縄を切ろうとすると、その刀はすべて刃がごぼれ落ち、折れてしまいました。ただ一振り
の刀は、すべて上から折れてしまいました。薪取りの斧や炊事に使う刃物、何であつても刃が
ついているものは、すべて壊してしまいました。

704 まことに、性悪である者ですから、以前から、粗末な器の一つも、それ以上のものも、見たことが
ない者であり、何かよいことも一つもないのです。それで、ただ一振り
の刀も、すべて壊してしまつたのです。大いに怒りましたが、どのように
すればよいのかわかりません。

2.4 戦いの発端

722 そこで、二つの沖の国、三つの沖の国が起ち上がり
ました。それを招き寄せて、トミサンペチの神の住まいに戦いを巻き起こして、『神の住まいの
戸口や窓をほどくことができる者がいたら、トミサンペチの頂きの上に、
天空から、神々のところから降ろされた神宝を、すべてレプンクルの国土
へ運ぼう。そうしたならば、断崖にある館の中でよく眠るように、安心できるのだ。』と計略をめぐ
らせたのです。

750 その計略に大勢の者たちが賛成し、歓喜したの
です。山を通る戦いは別のものとして、沖を通る戦いは別のものとして上陸しました。すると、そ
の間に、ポンヤイエピリカ、またとない勇者は、あるところでは、何
度も頭を振られ、腹を立てさせられ、幼少の頃から、戦いばかり、戦
闘ばかりの歳月をおくり、今はようやく戦いを終わらせ、凶事を終わ
らせて上陸しました。

774 まさにその時に、トミサンペチ、シヌタブカに
上陸する戦いに、道の途中で遭遇したのです。そこでようやく、あなた
たちの伯父が、あなたたちの援助をした性悪の人間、邪心を抱く人間
であることを知りました。そして、トミサンペチのずっと川の源流の
神の如き横山、神がこしらえた岩山、その岩山の頂に、戦いの場が
移ってきました。そして、戦闘する物音を、私たち二人は聞いたの
です。

798 あなたの伯父は、一人前の男にあなたが育つた
ならば、あなたが武装し、身を固めるもの、腰に差すものも、着物も
何もかも、天空から、神々のところから、トミサンペチの頂きの上
に降ろされたものを、金の唐櫃に入れました。そして、あなたのため
にとつておいた物であっても、すべて盗

み出し、自分が着ているのです。あなたの装束は、あなたが身に
着けてこそ美しいように思います。

825 たつた今、遙か沖から上陸して、私たちの小さな
家の軒までやって来た者は、海の神、尊い神であり、人間の村、
ヤウンクルの村に上陸して、私たちに知らせを持ってきたのです。
ポンヤイエピリカ、年少のあなたの兄は、長い間、戦いばかり、
戦闘ばかりの歳月をおくつたものですから、今はもう、ひどく
疲れて、戦いの途中で敗れてしまいそうに思われます。ですから、
悪人のレブンペたちは大勢いるものですから、ヤウンクルの村が
心配です。『はやく、郭公の女神、人間の男の子、急いで駆けつ
けていただきたいのです。一柱の神も、振り向く神はいないよう
に思われます。』と尊い神が言いました。

868 そこで、これから、年少のあなたの兄の戦いに、
戦闘に、私は駆けつけることにします。どのような声や物音が
したとしても、決して動かずにここにいてください。戦いが
終わったならば、ただしばらくの間だけでも、会うことができる
でしょう。

887 私はすぐに神々のもとへ立ち去るつもりです。
私は神ですから、神々のところで結婚すべき者であるのです。
神々のところにも、いつまでも、変わることもなく、あなたを
見守りながらいるつもりです。いつどんなときも、何か気にか
かることがあるときには、いつも、私は急いで駆けつけるつも
りです。あなたが一人前の男に成長したら、あなたが削つた木幣、
乾いた酒粕でも、私を祭ってくれたら、それ以上嬉しいことは
ありません。

918 今はまだ、あなたは幼すぎます。武装なしに、
戦いの場にあなたがついてきたとしても、何にもなりません。
まことに危険です。おとなしく、ここで避難していなさい。」

姉はこのように言って、私を抱きかかえた。「弟よ。」と、「心臓よ。」
と言って、二回、三回と私を引き寄せて撫でた。私の顔に口づけ
をして、私の上に二つの濃い涙、三つの濃い涙を落とした。

943 ただ聞いていただけではあるが、何と
いうことか、何としたことか。なるほど、私たちが暮らしている
有様を私は不思議に思っていたが、まことに、この場所で、
人間の姉、同じ腹から生まれて、私を育てていた者こそが、
金の羽の形象を身にまとつた年少の姉であると思つていた。
しかし、驚いたことに、そのような理由があつて、郭公の姉

が私の命を救い、私を立派に育ててくれたということなので、「姉さんよ。」と私は泣き喚いた。私の泣き声が響いた。

974 姉もまた、泣いて死んでしまいそうなほど、私の上で号泣した。二つのよいこと、三つのよいことを私に教えた。それから、家の外に飛び出し、戦いの場へ、戦闘の場へ音を走らせて飛んでいった。

986 姉が立ち去った後で、私はあれこれと物思いにふけた。いまましい、いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が悪い伯父、尻の切れた奴であるのか。何の理由があって、同じ家であるのに、同じ一族であるのに、私を嫉むことをするのだろうか、と怒りの気持ちを私は抱いた。

1004 いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が、ポンヤイエピリカ、年少の兄であるのか。かわいそうに、攻撃を受けているというので、私の泣き声が響いた。私はさっと立ち上がり、外へ飛び出した。

第3章 戦闘

3.1 岩山の戦場

1016 木原の上を、よく走る投げ輪のように、私は跳びはねながら走っていった。そして、噂に聞いた、神のこしらえた岩山、その岩山のふもとに到着した。岩山の頂で、敵との戦い、敵との戦闘、その音が鳴り響いた。私の泣く声が神の昇天のように響いた。そして、岩肌に沿って、手足で這うようにして私は上り、ずっと高いところへ上った。そして、眺めたところ、まさしく、どこの者たちが攻撃をかけているのか、虫が湧き出るかのような集団である。

1046 その集団の傍らに、金の羽の形象を身にまとった年少の姉がおり、まさしく、戦いというもので、頭の上の髪が乱れている。その傍らで、小さな靄の小山が刀を振るっている。二つの靄の中心、三つの靄の中心を、私は目で散らして見ようとしたが、二度、三度、見ようとしても、人間の姿を見定めることができない。長い間、見定めようとしたあげく、靄の中心で、私の目の前が急に暗くなった。

1068 噂に聞いたポンヤイエピリカ、年少の兄、もっと成長した者のことを言っているのだと思っていたが、今年あたりに少し私を越えて成長した者であり、金の小袖を身にまとっている。金具の付いた帯を胴に巻きつけている。神から拝受した刀

で脇の下があざやかに目立っている。金の小さな兜、その兜の紐をきつく締めている。兜の縁で顔が光り、明るく輝いている。

ひどく疲れているらしく、顔色は生気を失っている。長い間、激しく戦っていたものであるから、宝刀の柄の上に古く付いた血は、黒い血糊となって、柄を覆っている。新しく付いた血は、赤い血糊となって、柄を覆っている。戦いというもので、頭の上の髪が乱れている。

軍勢の背後に、噂に聞いた悪い伯父、尻の切れた奴がおり、たちこめた靄、その靄の中を私は目で散らして見ると、大きな成人の男が金の小袖を着ており、小袖の襟元と裾には、幅の広い平金が取り付けられている。平金の上は二つの金の模様、三つの金の模様で輝いている。

肩の上から、垂れ下がった木鈴が、着物の真中で切り揃えたように並び、着物の真中から垂れ下がった木鈴が、着物の裾の上を取り巻いている衣装を上に着ている。金具の付いた帯を胴に巻きつけている。

神から拝受した刀は、鞘が長く反っている。鞘の上には、雷神の夫婦の神が絡みついている。男神は鐙の縁の上に角を高々とあげ、女神はそれに顎を載せ、神光が明るく輝いている。私はそれを好ましく思った。

鞘の真中には、金の小さな狼がおり、金の毛皮、その毛皮の表面は神光で輝いている。そして、尻尾を長く伸ばしている。生きていた神のように居座っている。鞘の端では、夏の狐が毛の抜けた身体を付けている。身体の上には、二つの皮の皺、三つの皮の皺が、二つの横木のように、三つの横木のように伸びている。下の歯茎が上の歯茎を過ぎて交叉している。毛の抜けた耳、その耳の先端には、毛の束が抜け残っている。生きていた神のように、目の中は正気ではない。尻尾の付け根にも、尻尾の先端にも、毛の束が抜け残っている。生きていた神として居座っている。私はそれを好ましく思った。

伯父は薄造りの兜、その兜の紐をきつく締めている。噂に聞いた装束は何と美しいことかと、驚きの気持ちを私は抱いた。

3.2 ポイヤウンペの参戦

私の泣き声が響いた。ポンヤイエピリカ、年少の兄と、金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、

1094

1112

1130

1141

1158

1190

1206

一斉に私の方へ振り向いた。ひどく驚いたものだから、こちらを見て、大きく目を見開いた。

1218 年少の兄は、いかなる神、いかなる貴人を目撃したのだろうか。二つの靄の中心、三つの靄の中心を私に対して散らした。二度、三度、散らしても、人間の姿として私を見定めることができない。長い間、私を見定めようとしたあげく、このような神、このような貴人が自らを差し置いて、いかなる神、いかなる貴人を称賛するものであろうか。私の手前へ視線を低く落としている。隅々まで私を眺めた。

1244 年少の姉は、跳ね回りながら、このように言った。
「これはこれは、私が育てた弟、神である者、言い付けに背くことをするのですか。まことに驚きました。あなたを教え諭したのに、すぐに私の後からやって来て、このようにするのですか。装束を着ることもなく、武装することもなく、背負われた子供、背負われた幼児であるあなたが、この激しい戦いの場にやって来て、どうするのでしょうか。とても危険です。さあ帰りなさい。まことに危険です。削られた険しい岩に沿って、どのようにして上ってきたのですか。」
姉はこのように言って、とても驚いたが、私は聞こえないふりをした。

1283 二つの集団の背後から、三つの集団の背後から、悪い伯父に対して私は背を伸ばしたり、背を低くしたりした。私の泣き声が響いた。悪い伯父は、私を目撃すると、隅々まで私を眺めた。あたりまえに、私に驚くものであるならば、さもあるが、こちらを見て大きく目を見開いた。大勢の者たちが私の方へ目を向けた。

1303 並みの小さな兜を私は脱いで、悪い伯父の方へ向かって遠く扇ぎ、近く扇いだ。すると、悪い伯父の胴の上で、金具の付いた帯がほどける音、離れる音が、金属の響きをたてた。神から拝受した刀、薄造りの兜は、みずからの意志に従って身体から外れた。金の小袖も、みずからの意志に従って起き立ったように私は思った。

1325 私の胴の上で、並みの帯が切れる音が鳴った。並みの小袖が私の身体から離れた。それと入れ替わって、私の身体の上には、金の小袖の大きな布がひろがった。金具の付いた帯が私の胴に巻きついた。神から拝受した刀を私はさっと帯に差し、

薄造りの兜、その兜の紐をきつく締めた。驚いたことに、以前よりもなお一層、今は、最も美しさを備えているらしく、たちこめた靄、その靄の中に私は身体を入れている。私の周囲では、神光が明るく輝いている。

伯父は裸の身体になり、尻を曲げて集団の陰へ隠れた。ひそかな笑い、ひそかな嘲笑を私は浮かべた。今はもう、私は泣くのを止めた。

年少の兄、年少の姉はまことに感嘆したものであるから、私の方へ目を向けている。年少の姉は、跳ね回りながら、二つのうなずき、三つのうなずきを私に繰り返した。姉は鼻を押さえ、口を押さえた。

「これは現実のことでしょうか。あなたは霊能力にすぐれた者なのですね。このような者が、憑き神の力のためか、何ということでしょうか。このようなことを、驚いたことに、するのでしょうか。どうして、私は神と呼ばれる者なのですが、とても、私が育てた弟の憑き神の力には及ばないのですね。」

姉はこのように言った。

年少の兄は今も、私を抱きかかえそうな様子であるが、戦いに忙しいので、私を見ただけであるが、目元に涙を浮かべている。

神から拝受した刀の鞘の末端を私は遠く引きずった。私の刀の鏗の音が鳴り響いた。今こそは、戦いというものを私は理解した。

年少の姉の傍らに、私は神の力で走らされた。大勢の者たちが、私の刀の先で、音を立てて斬られた。それと同時に、驚いたことに、いかなる神、いかなる貴人が私に憑いているのか、私の上空で轟音が鳴った。二柱の尊い神、三柱の尊い神が二つの強固な音、三つの強固な音を私の上空で鳴らした。尾のついたような風、二つの旋風、三つの旋風が戦場の上に吹き荒れた。

大勢の者たち、武装の軽い者たちは、風の先で枯れ葉が吹き飛ばされるかのようなのである。そして、今度は逆に、遠くの岩山、近くの岩山、遠くの木原、近くの木原の上に落とされた。岩で死ぬ者、木で死ぬ者、二つの神の死ぬ音、三つの神の死ぬ音が絶え間なく続いた。その音が冥界で鳴り響いた。

年少の兄、年少の姉は、あたりまえに驚くものであるならば、さもあるが、まことに仰天した様

1356

1367

1400

1408

1417

1441

1461

子である。大勢の者たちは私の上を眺め回した。二つの靄の中心、三つの靄の中心を私に対して散らしたが、私の身体を見ることはできない。大勢の者たちは手を高くかざし、低くかざし、互いに驚きの声を上げて、鼻を押さえ、口を押さえた。「何ということか。ポイヤウンペと呼ばれる者はずっと以前に殺されてしまったというが、どこから来た者が、僅かな者で、憑き神の力のためか、奮戦すること、奮闘することを、恐ろしいことに、驚いたことに、するのであろうか。」

大勢の者たちはこのように言って、騒いだ。

1502 ある者は、水に浸した昆布のように顔色を失った。自ら悔しがる声、互いに悔しがる声を出した。その者たちに向かって私は斬りかかり、斬り刻んだ。勇者のいない集団、頭領のいない集団であるから、しばらくすると、私は敵の集団を少数にした。そのようにして、犬にたかる虫さえも、土に群がる虫さえも、私は残らず殺した。戦いの後、戦闘の後、周囲は静まり返った。

3.3 伯父の最期

1524 戦場の端に、悪い伯父がおり、裸身をさらして、水に浸した昆布のように顔色を失っている。前額がふるえており、腰を抜かしている。私がそこに駆け寄ると、二十の拝礼、三十の拝礼を重ねた。ふるえながら、話の途中にむせかえった。話の途中に咽喉を詰まらせた。伯父は泣きながらこのように言った。

「これはこれは、私の甥よ。いかなる神、いかなる貴人に私は惑わされたのか。悪いおこないにしても、ただならぬことをしたのだが、神が罰するおこないであったので、今はもう、まことに、私はひどい懲らしめを受けた者であり、あなたの憑き神、あなたの奮戦には、遠く及ばなかった。まことに、今は、非を認めて、罪を詫びる。私はもう死ぬべき者、年老いた者であるから、私を憐れに思って、いかにあなたが怒りの気持ちを抱いていたとしても、命だけは奪わないでくれないか。」伯父がこのように言うと、激しい狂気がこみあげてきた。

1582 罵りの言葉、若々しい言葉、怒りの言葉を、ものを突くように、ものを切るように私は声に出し、その声が響いた。「何を言うのか。二回言ってみなさい。三回言ってみなさい。聞いてあげます。何と汚らわしいこ

とでしょう、何と忌々しいことでしょう。悪い伯父、尻の切れた奴、何の理由があって、先祖の言葉、残された言葉、その言葉を神々とともに踏みこじり、さらには、神の住まいを壊すために、戦いを、戦闘をトミサンペチシヌタプカに巻き起こしたのですか。

1612 幸いにも、尊い神が私を憐れに思い、私は神に育てられ、生きています。今さら、あなたがそのようなことを言っても、何にもなりません。さあ、ご覧なさい。よい心、よいおこないを、あなたがしていたら、父のように丁重に扱われて、神の如き晩年、よい晩年を過ごすことができたでしょう。しかし、今はもう、あなたには悪いおこないがあったのですから、死ぬにしても、あなたにふさわしい死をご覧なさい。」

私はこのように言った。

1641 伯父の切られた残骸が乱れ散った。死霊の昇る音が鳴り響いた。悪人であるので、憑き神が重いのであろうか。その音が響いた後、あたりは静かになった。

第4章 別れと帰還

4.1 姉との別れ

1651 その後で、年少の兄と、金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、一緒になって私を抱きかかえ、半ば泣いている。年少の兄は、今はようやく、「弟よ。」と「心臓よ。」と言って、私を引き寄せて撫でた。またとない勇者が、私の上へ二つの濃い涙、三つの濃い涙を落とした。兄は、神である姉にも感謝の意を表し、二十の拝礼、三十の拝礼を重ねた。

1674 金の羽の形象を身にまとった年少の姉は、二度も、三度も私を引き寄せて撫でた。二つのよいこと、三つのよいことを私に教え諭して、「これからはあなたが私を見守るのですよ。」と言って、泣きに泣いた。「姉さんよ、神の姉さんよ。」と私は言って姉を強く抱きしめた。私がそうすると、姉は私を撫でて、二回、三回と私に口づけをした。

1696 私は姉を強く抱きしめていたが、姉はなめらかな氷のように、私の腕の中を抜けて、天空へ駆け上がった。私が見ると、これまでは人間の姿であったのに、いわゆる郭公の神となり、金の鳥、その金の羽の上には、神光が明るく輝いている。金の爪は鋭く突き出している。鳥ではあるが、小さな目から落とす涙が、私の上に雨のように落ちてきた。

1724 私の上で、静かな羽ばたきを繰り返しおこなった。ずっと上空に飛んでいくと、私は年少の兄とともに、二人でいつまでも、金の郭公の神の後へ、二十の拝礼、三十の拝礼を泣きながら繰り返した。郭公はずっとかなたに消えてしまった。

4.2 シヌタプカの神居

1737 その後で、年少の兄は一緒に来るようにと言い、天空へ駆け上がった。私はその後について行った。私たちは戦いを終わらせ、戦闘を終わらせて、トミサンペチの川に沿って流れる風を伴い下っていった。私たちが下っていく音が鳴り響いた。

1751 行く手を見ると、噂に聞いた私たちの住まい、トミサンペチ、シヌタプカの頂きの平らな岩山が、天空を揺らしてそびえている。山の中腹まで、黒い霧、濃い霧がたなびいている。

1764 外にある櫓、その櫓の上に私たちは降ろされた。そして、眺めると、丸い小山の上に、金の家、金の柵が重なり合って建っている。まさしく、隅々まで、言葉に尽くせないほど美しく飾られている。柵にあたる風はばたばたと鳴り、地面にあたる風は轟音を立てる。私をそれを好ましく思い、驚きの気持ちを抱いた。まったく人間の住まいではないようであり、神の住まいを凌ぐほど美しい。

1788 このような様子であるから、なるほど、以前から思っていたが、いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が父と母であって、妬み嫉みを受けたのか。まだ若いうちに、両親が神々のもとへ立ち去ると、再び、悪い伯父、尻の切れた奴が、私たちが酷い目に遭わせた場所は、何と美しいことかと、私は心の中で泣き崩れた。

1808 話聞いた通り、窓も戸口も金の皮の縄で縛られていた。すると、その下に、壊れた刀や、何かの刃物の刃のこぼれたものが、折れて山のように積み重なっていた。そして、驚きの気持ちを私は抱いた。年少の兄は気合いを入れて、窓の縄をほどき、戸口の縄をほどいた。

1830 私たちは玄関の納屋に入った。神の匂い、宝物の匂いが激しい風となって、私たちは倒れそうになるほどだった。金の簾戸が垂れ下がる様子は、光り輝いている。私たちはそれをそよがせて、土間の上に、光とともに、靄とともにさっと入った。見ると、白い靄、黒い靄が家の中に満ちている。しばらくすると、靄が薄くなった。

1853 何ということか、今はじめて、私たちの家の中の

様子を私は知った。大きな家の棟木の下に、ぎっしりと、上座の上に、神宝、金の行器や並みの行器、金の箱や並みの箱が入り交じって並んでいる。それらは低い崖のように伸びている。宝列の上の方には、長者の差す刀、頭領の差す刀の二つの柄頭、三つの柄頭が並び、それらの刀は刀飾りを揺らしている。宝列の上で、神光が明るく輝いている。私はそれを好ましく思った。

金の床の表面は、照り輝いている。金の炬縁木が伸びる様子は、光り輝いている。右座の傍らで、宝列の端から続く金の女持ちの手函の大きな列が、下座の隅へ連なっている。その手前には、女の枕、金の枕が伸びている。その上の方に、いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が作ったものであろうか、金の刺繍衣、神々しい刺繍衣があり、その重みで上の掛け竿、下の掛け竿がたわんでいる。刺繍衣の表面は、二つの神光、三つの神光で明るく輝いている。私はそれを好ましく思った。

宝列の手前には金の寝台、仕切られた寝台が伸びている。その表面には神光が明るく輝いている。私はそれを好ましく思った。まことに、神の住まいを凌ぐほど美しい。驚きの気持ちを私は抱いた。

4.3 兄との暮らし

長い間、火が焚かれていなかったものであるから、神の住まいの中は静まり返っている。年少の兄は家の中を遠く掃き、近く掃き、塵を取り除いた。それから、二つの薪を抱え、三つの薪を抱えて、積み重なるほど薪を運んだ。埋もれた火、その火を高く掻き上げて、火をあかあかと燃やした。

それから、兄はよい炊事を手際良くおこなった。鍋が煮えると、それを下ろし、薄造りの御膳、薄造りの御椀を取り出した。よい食物、大きな山盛りの飯、底の方に入るものは小さくなり、上の方に盛られているものは大きくなっているものを、私に差し出した。私はそれを受け取って、低くかざし、高くかざし、拝礼して食べた。あまりに食物が無く、倒れそうな気がしていたものであるから、よい食物、おいしい食物で、心臓の上から心臓の下まで落ち着いた気持ちになった。まことに伸び伸びした気持ちになった。年少の兄も、自ら食事を盛りつけた。

私たちは食事をして、その食事の最中に、年少の兄は成長するまでの間に見たこと、聞いたこと、

1883

1914

1928

1948

1983

- 以前に父と母が話していたことなど、思い出すことすべてを、私に話して聞かせた。あるときは、私の表情は暗く沈み、二つの澄んだ涙、三つの澄んだ涙を流した。年少の兄も、自ら涙を流した。
- 2006 何ということか、何としたことか。いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が、父と、神である母であるのか。私は会うこともかなわずに、人間の国土の上で、あまりにも苦勞が絶えなかったのか。悪い伯父に言葉を残して、よいように計らって、神々のもとへ立ち去ると、その後で、悪い伯父が乱心し、邪心を抱くにしても、ただならぬことをしたのだ。
- 2032 その経緯から、年少の兄も、背負われた子供、背負われた幼児であるかのような者が、幼い心を悩ませて、戦いばかり、戦闘ばかりに立ち向かったのだ。私を探している間に攻撃を仕掛けられたのだと、まことに、憐れみの気持ちを私は抱いた。
- 2050 私たちは二人で、二つの悲しみの言葉、三つの悲しみの言葉を交わした。兄は悪い伯父を罵った。年少の兄は炉縁木の背後を踏みつけて、「何と汚らわしいことか、何と忌々しいことか。悪い伯父が、愚にもつかぬことを言って、あのようなことをしたのか。それから、死ぬにしても、無惨な死に方をしたのだな。どのように、神々のところへ行って、ねぎらわれていることだろうか。」と言い、激しく怒った。
- 2076 このような次第で、郭公の姉が、成長の途中で私を育てた有様や、海の神が、このような次第で、郭公の姉に知らせを持ってきたことなどを、私が話すと、年少の兄は深く感謝した。「一人前の男に私が成長したら、酒や御神酒、木幣で神々を祭ることにしよう。」と兄は言った。
- 2095 そして、いかなる生まれの者、いかなる育ちの者が、話に聞いた妹であるのか。私とともにもう少しで死んでしまうところであったが、神の憐れみがあったからこそ、天空で育てられているのだ。はやく、土を散らして来てほしいものだ、ということも私たちは話した。
- 2112 仕切られた寝台、金の寝台、その寝台の上に私は座った。年少の兄は右座の傍らに座った。夜になると、宝物の光、宝器の光が日光のように家の中で照り輝いた。私はそれを好ましく思った。
- 2127 何ということか、何としたことか。金の羽の形象を身にまとった年少の姉が、私を育てたこと、私を可愛がってくれたことを私は思い出すと、夜中には、寝床の上で涙を拭った。妹のことを思い出すと、涙を拭った。
- その間に、年少の兄とともに遊ぶ声、笑う声が私たちの家の中でにぎやかに響いた。二つの若さ、三つの若さを競わせるように私は成長した。私たちはいつも変わることなく暮らしていた。年少の兄も私も、少しずつではあるが、ますます美しくなるようであり、お互いに相手の身体を見ることができない。たちこめた靄、その靄の中に私たちは身体を入れている。私たちはお互いに称賛の言葉を口にしている。年少の兄は、息のただ中に、心臓のただ中に結び付けるようにして私を可愛がっている。
- はやく、金の羽の形象を身にまとった年少の姉と、海の神を祭りたいものだ、と私たちは思いながら暮らしている。
- と、ここまで。

Kani rap noka pon a-kor sapo

金色の羽の若き姉

第 1 章

姉の養育

1.1 笹竹の家

p. 1

- 1 Pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉が
- 2 i-reshba wa
イ・レシバ ワ
我・育てる (接続)
私を育てて
- 3 okai-an ko
オカイ・アン コ
いる・我 (条件)
おり、
- 4 i-reshba-an.
イ・レシバ・アン.
我・育てられる
私は育てられていた。
- 5 Chise
チセ
家
家の様子は
- 6 ene okai i.
エネ オカイ イ.
このように ある こと
このようであった。
- 7 Tuima ash top
トゥイマ アシ トップ
遠い 立つ 笹竹
遠くに生い茂る笹竹、
- 8 hanke ash top
ハンケ アシ トップ
近い 立つ 笹竹
近くに生い茂る笹竹の
- 9 kitaike
キタイケ
頂き
先端が
- 10 a-ukoshina.
ア・ウコシナ.
互いに縛られる
結わえ付けられている。
- 11 Nei oshke ta
ネイ オシケ タ
その 中 (場所)
その中に、
- 12 iramasureno
イラマスレノ
好ましく
何とも好ましいことに、
- 13 usa ritem mun
ウサ リテム ムン
(列挙) 柔らかい 草
軟らかい草や
- 14 usa korham
ウサ コロハム
(列挙) 藪
藪の葉などが
- 15 a-birashba.
ア・ピラシバ.
広がる
敷かれている。
- 16 Nei oshke
ネイ オシケ
その 中
その中で
- 17 a-i-y-ereshu.
ア・イ・イエレシュ.
我・育てられる
私は育てられた。
- 18 Pon a-koro sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 19 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめた霧、
- 20 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
その霧の中に
- 21 yayomare.
ヤヨマレ.
自らを入れる
身体を入れている。

金色の羽の若き姉

- 22 **Kani kosonte**
カニ コソソテ
金 小袖
姉の金の小袖、
- 23 **kosonte kurka**
コソソテ クルカ
小袖 上
その小袖の表面は
- 24 **kani rap noka**
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象で
- 25 **chietomte.**
チエトムテ。
輝いている
輝いている。
- 26 **Kurkashike**
クルカシケ
上
その形象の上で、
- 27 **tu kamui chupki**
トゥ カムイ チュプキ
二つの 神 光
二つの神光、
- 28 **re kamui chupki**
レ カムイ チュプキ
三つの 神 光
三つの神光が
- 29 **eshimaka.**
エシマカ。
輝く
明るく輝いている。
- 30 **Kamui otobi**
カムイ オトビ
神 髪
神々しい髪は
- 31 **ekimuikashi**
エキムイカシ
頭上
頭の上を
- 32 **sarambe ka ne**
サラムベ カ ネ
絹 糸 (繫辞類)
絹の糸のように
- 33 **chiesurare.**
チエスルレ。
覆う
覆っている。
- 34 **Attapkashi**
アトタナカシ
片方の肩の上
片方の肩の上には
- 35 **shukush rayochi**
シュクシ ラヨチ
日光 虹
光を帯びた虹が
- 36 **chieomare.**
チエオマレ。
入る
かかっている。
- 37 **Attapkashi**
アトタナカシ
片方の肩の上
もう片方の肩の上には
- 38 **ekai rayochi**
エカイ ラヨチ
先端の折れた 虹
頭の折れた虹が
- 39 **chieomare.**
チエオマレ。
入る
かかっている。
- 40 **Kimuikashi ta**
キムイカシ タ
頭上 (場所)
二つの虹は頭の上で
- 41 **unottasare.**
ウノトタサレ。
喉を交叉させる
交叉している。
- 42 **Reuboki ta**
レウボキ タ
下 (場所)
その下には
- 43 **kamui sannanu**
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 44 **shukushtoi kunne**
シュクシトイ クンネ
日光 ように
日光のように
- 45 **komaknatara.**
コマクナタラ。
輝いている
光り輝いている。
- 46 **Nubur be sone**
ヌブル ベ ソネ
霊能力が強い もの らしく
霊能力にすぐれた者であるらしく、
- 47 **nubutchannoye**
ヌプトチャンノイエ
霊能力
霊能力を
- 48 **eshirutomta-**
エシルトムタ・
身体の中
身体の中に
- 49 **nuina kane.**
ヌイナ カネ。
隠す (程度)
隠している。

- 50 Sara turem be
サラ トウレム ベ
姿を現す 憑く もの
姿をあらわしている憑き神は
- 51 kabap sai kunne
カバプ サイ クンネ
蝙蝠 輪 ように
蝙蝠の群れのように
- 52 esermakkashi-
エセレマクカシ・
背後
背後で
- 53 earutasa.
エアルタサ.
交叉する
飛び交っている。
- 54 Mukke turem be
ムクケ トウレム ベ
姿を隠す 憑く もの
姿を隠している憑き神は
- 55 nochiu kiyai ne
ノチウ キヤイ ネ
星 光 (繫辞類)
星のきらめきのように
- 56 esermakkashi-
エセレマクカシ・
背後
背後で
- 57 ekiyaioma.
エキヤイオマ.
またたく
輝いている。
- 58 Ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どのように
- 59 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・褒める こと も
形容することも
- 60 isam kane.
イサム カネ.
無い (程度)
できないほど美しい。
- 61 Keshto an ko
ケシト アン コ
毎日 ある (条件)
毎日、姉は
- 62 chep hurkappo
チェプ フルカプポ
魚 骸
魚の残骸、
- 63 yuk hurkapu
ユク フルカプ
鹿 骸
鹿の残骸を

- 64 hunara wa
フナラ ワ
探す (接続)
探し出して
- 65 i-reshu.
イ・レシュ.
我・育てる
私を育てた。
- 66 Usa ratashkep kar
ウサ ラタシケプ カラ
(列挙) 山菜 採る
山菜を採ったり、
- 67 usa nikaop kar wa
ウサ ニカオプ カラ ワ
(列挙) 木の実 採る (接続)
木の実を集めたりして
- 68 i-eresukar.
イ・エレスカラ.
我・育てる
私を育てた。
- 69 Abe etok ne
アベ エトク ネ
火 前方 (繫辞類)
炉の前に
- 70 a-ehorari
ア・エホラリ
我・腰を据える
私は座り、
- 71 a-ehotke.
ア・エホトケ.
我・横になる
横になっていた。

1.2 ポイヤウンペの成長

- 72 Tane ne kusu
タネ ネ クス
今 (繫辞類) (理由・目的)
今は
- 73 semor borono
セモロ ボロノ
(否定) 大きく
少しばかり、
- 74 a-chishikupka.*¹
ア・チシクupa.
我・成長する
私は成長した。
- 75 yayan pon kosonte
ヤヤン ボン コソンテ
普通の 小さい 小袖
並みの小さな小袖、
- 76 yayan kut hene
ヤヤン クト ヘネ
普通の 帯 (例示)
並みの帯、

*¹ chishikupka に a-が接合する理由については未詳。

金色の羽の若き姉

- 77 **sosamotbe**
ソサモトベ
儀礼用の刀
儀礼用の刀剣、
- 78 **pon emush**
ボン エムシ
小さい 刀
小さな刀、
- 79 **yayan pon kasa**
ヤヤン ボン カサ
普通の 小さい 笠
並みの小さな兜で
- 80 **a-i-y-eresu yakka**
ア・イ・イエレス ヤッカ
我・育てられる (譲歩)
私は育てられたが、
- 81 **pirika-an kotom ne**
ピリカ・アン コトム ネ
美しい・我 ようである (繫辞類)
私は気品を備えているようであり、
- 82 **a-tomsamkonna**
ア・トムサムコンナ
我・身の周り
私の身のまわりは
- 83 **shikaye kane**
シカイエ カネ
光る (程度)
光輝き
- 84 **mike kane.**
ミケ カネ.
輝く (程度)
照り輝いている。
- 85 **Okutchi urar**
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちめた霧、
- 86 **urar tumu**
ウララ トウム
霧 中
その霧の中に
- 87 **a-yayomare kane**
ア・ヤヨマレ カネ
我・自らを入れる (程度)
私は身体を入れて
- 88 **an-an.*2**
アナン.
いる・我
いた。
- 89 **kani rap noka**
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 90 **pon a-koro sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は、
- 91 **ineapkusu**
イネアアクス
何と
なんと
- 92 **i-omap wa**
イ・オマフ ワ
我・可愛がる (接続)
私を可愛がる
- 93 **ikichi nankor a.**
イキチ ナンコラ.
する だろう (疑問)
ことか。
- 94 **Kunne hene**
クンネ ヘネ
夜 (例示)
夜も、
- 95 **tokap hene**
トカフ ヘネ
昼 (例示)
昼も、
- 96 **okkeu kurkan**
オクケウ クルカン
首 上
首の根元も
- 97 **isam kane**
イサム カネ
無い (程度)
無くなるほどうつむいて
- 98 **otu henkuror**
オトゥ ヘンクロロ
二つの うなずくこと
二つのうなずき、
- 99 **ore henkuror**
オレ ヘンクロロ
三つの うなずくこと
三つのうなずきを
- 100 **i-koanukar**
イ・コアヌカラ
我・置く
私に対して繰り返し、
- 101 **i-henkotba kane.**
イ・ヘンコトバ カネ.
我・愛撫する (程度)
私を撫でた。
- 102 **Makan yainu ko**
マカン ヤイヌ コ
どのように 考える (条件)
あるときは、どのように思ったのか、
- 103 **“Akpo sambe.”**
“アクポ サムベ.”
弟 心臓
「弟よ、心臓よ。」

*2 原ノートでは ananan と表記されているが、an-an と解釈する。

- 104 **ari itak kane**
アリ イタク カネ
(引用) 言う (程度)
と言って
- 105 **i-shikoruye.**
イ・シコルイエ.
我・撫でる
私を引き寄せて撫でた。
- 106 **I-kurkashike**
イ・クルカシケ
我・上
私の上に
- 107 **tu nubur nube**
トゥ ヌブル ヌベ
二つの 濃い 涙
二つの濃い涙、
- 108 **re nubur nube**^{*3}
レ ヌブル ヌベ
三つの 濃い 涙
三つの濃い涙を
- 109 **orankeranke.**
オランケランケ.
下ろす
落とした。
- 110 **Nep kusu**^{*4}
ネプ クス
何 (理由・目的)
どうして
- 111 **ene iki i ne ya**
エネ イキ イ ネ ヤ
このように する こと (繋辞類) (疑問)
そのようにするのか、
- 112 **a-erambetek.**
ア・エラムベテク.
我・知らない
私にはわからなかった。
- 113 **Nekona shiko p**
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
私はいかなる生まれの者、
- 114 **nekona baro p**
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
いかなる育ちの者
- 115 **a-ne wa**
ア・ネ ワ
我・(繋辞類) (接続)
であって、
- 116 **ne wa arki p**
ネ ワ アラキ プ
どこ (起点) 来る もの
どこから来た者
- 117 **a-ne wa**
ア・ネ ワ
我・(繋辞類) (接続)
であって、
- 118 **taban kimun iwor**
タバン キムン イウオロ
この 山の 奥地
この山の奥、
- 119 **iwor ka ta**
イウオロ カ タ
奥地 上 (場所)
奥山の上で
- 120 **ouse tun**
オウセ トウン
ただ 二人
ただ二人
- 121 **a-ne wa**
ア・ネ ワ
我・(繋辞類) (接続)
だけで
- 122 **okai-an ruwe**
オカイ・アン ルウエ
いる・我 跡
暮らしているのか、
- 123 **keutum ot ta**
ケウトウム オト タ
心 ところ (場所)
心の中で、
- 124 **shino**
シノ
まことに
本当に
- 125 **a-oyamokte kane**
ア・オヤモクテ カネ
我・不思議に思う (程度)
不思議に
- 126 **yainu-an.**
ヤイヌ・アン.
考える・我
思っていた。
- 127 **Kani rap noka**
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 128 **pon a-kor sapo**
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 129 **hese attom**
ヘセ アトトム
息 中
息のただ中に、
- 130 **sambe attom**
サムベ アトトム
心臓 中
心臓のただ中に

*3 re nubur と書かれているが、nube を補って解釈する。

*4 nepku と書かれているが、nep kusu と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 131 i-ekotekar kane.
イ・エコテカラ カネ。
我・結び付ける (程度)
私を結び付けるようにして可愛がった。
- 132 Keshto ramma
ケシト ラムマ
毎日 いつも
毎日いつも、そのようにして
- 133 okai-an.
オカイ・アン。
いる・我
私たちは暮らしていた。
- 134 Kani rap noka
カニ ラッ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 135 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 136 pirika ram ne
ピリカ ラム ネ
よい 心 (繫辞類)
よい心で
- 137 i-kohebumba
イ・コヘブムバ
我・起き上る
私の方へ顔を上げようと
- 138 kusu ne ko
クス ネ コ
(理由・目的) (繫辞類) (条件)
すると、
- 139 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神、
- 140 ene am bito
エネ アム ビト
このように ある 人
このような貴人が
- 141 hem shiehose
ヘム シエホセ
(否定) 自らを差し置く
みずからを差し置いて、
- 142 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 (繫辞類) (程度)
あたりまえに
- 143 i-erayap kuni p
イ・エラヤッ クニ ヲ
我・感心する すべき もの
私に感心するもの、
- 144 i-reka kuni p
イ・レカ クニ ヲ
我・褒める すべき もの
私を称賛するもの
- 145 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 146 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 147 i-tukaribo
イ・トゥカリボ
我・前
私の前へ
- 148 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を低く
- 149 atte kane.
アトテ カネ。
たたせる (程度)
落としている。
- 150 Koyaibabiror-
コヤイバビロロ・
自らの口
そして、姉は口の中で、
- 151 eitak hawe
エイタク ハウエ
話す 声
独り言を
- 152 ene okai i:—
エネ オカイ イ:—
このように ある こと
次のように言った。
- 153 “Sonno hetap ne
“ソンノ ヘタッ ネ
真に (疑問) (繫辞類)
「これは現実のことでしょうか、
- 154 okai be
オカイ ベ
ある もの
この者は
- 155 shiretok hene
シレトク ヘネ
美貌 (例示)
何とすぐれた容貌を
- 156 ne rok be kusu.
ネ ロク ベ クス。
(繫辞類) (完了) もの (理由・目的)
していることでしょう。
- 157 Konep tap teta
コネッ タッ テタ
何 これ ここで
何ということでしょうか、
- 158 atanan ainu
アタナン アイヌ
ただの 人間
ただの人間と

- 159 ari a-borse kuni p
アリ ア・ボロセ クニ プ
(引用) 呼ばれる すべき もの
呼ばれる者が
- 160 shiretok hetap
シレトク ヘタプ
美貌 (疑問)
すぐれた容貌も、
- 161 pirika hetap
ピリカ ヘタプ
よい (疑問)
すぐれた品格も備え、
- 162 ormashkino
オロマシキノ
ますます
ますます立派になり、
- 163 iramkursere
イラムクルセレ
恐ろしい
驚いたことに、
- 164 iramtoinere
イラムトイネレ
驚く
目を見張るように
- 165 kiba ruwe okai.
キバ ルウェ オカイ.
する 跡 ある
成長したのですね。
- 166 A-ye rok okai
ア・イエ ロク オカイ
言われる (完了) ある
噂に聞いた
- 167 chinomi kamui
チノミ カムイ
祭られる 神
祭祀を受ける神が
- 168 toi ka oterke yakne
トイ カ オテレケ ヤクネ
土 上 着地する (条件)
地表に降りてきたならば、
- 169 tap eashiri
タプ エアシリ
これ それこそ
まさに
- 170 a-koenemba p
ア・コエネムバ プ
似つかわしい もの
このような姿
- 171 ne ruwe ne.
ネ ルウェ ネ.
(繫辞類) 跡 (繫辞類)
なのでしょう。
- 172 Ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような姿の者が
- 173 ainu ne kusu
アイヌ ネ クス
人間 (繫辞類) (理由・目的)
この世に生を受けた
- 174 toi ka oterke
トイ カ オテレケ
土 上 着地する
ただの人間だと
- 175 kuni p he okai.”
クニ プ ヘ オカイ.”
すべき もの (疑問) ある
「いうのでしょうか。」
- 176 ari yaikoitak ranke.
アリ ヤイコイタク ランケ.
(引用) 独り言を言う (反復)
と何度も独り言を言った。
- 177 Makan ne ko,
マカン ネ コ,
どのように (繫辞類) (条件)
あるときには、
- 178 “Inunukashki
“イヌヌカシキ
可哀想に
「かわいそうに、
- 179 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このようなことが
- 180 hetap ne
ヘタプ ネ
(疑問) (繫辞類)
あるものでしょうか。
- 181 toyainu sani
トヤイヌ サニ
悪人 子孫
悪党の子孫、
- 182 wen ainu sani
ウェン アイヌ サニ
悪い 人間 子孫
悪人の子孫
- 183 utarorke
ウタロロケ
たち
たちが、
- 184 shine chise ta
シネ チセ タ
一つの 家 (場所)
一軒の家で、
- 185 ir utat ta
イリ ウタト タ
ひとつながり 人々 (場所)
一族たちに、
- 186 ukeshke ne yakka
ウケッケ ネ ヤクカ
互いに妬む (繫辞類) (譲歩)
妬み嫉むにしても、

- 187 hoiyo ne yakka
 ホイヨ ネ ヤクカ
 乱心する (繫辞類) (譲歩)
 乱心するにしても、
- 188 orsaureko
 オロサウレコ
 並大抵ではなく
 ただならぬことを
- 189 uwekarkar
 ウウェカラカラ
 互いにする
 した
- 190 shiri okai.
 シリ オカイ.
 様子 ある
 のですね。
- 191 Isam-an a chiki
 イサム・アン ア チキ
 いない・我 完了 (条件)
 私がいなかったら、
- 192 hushkotoi wano
 フシコトイ ワノ
 以前 (起点)
 長い間、
- 193 okake am be
 オカケ アム ベ
 後 あるもの
 後に残された者は
- 194 nesun
 ネスン
 こそ
 酷い目に
- 195 irammayaise.**⁵
 イラムマヤイセ.
 気の毒である
 あうところでした。」
- 196 ari yaikoitak kane.
 アリ ヤイコイタク カネ.
 (引用) 独り言を言う (程度)
 と独り言を言った。
- 197 Yainubebirba koroka
 ヤイヌベピリバ コロカ
 自ら涙を拭う (逆接)
 姉は涙を拭ったが、
- 198 hemanta ye
 ヘマンタ イエ
 何 言う
 何を言って
- 199 hawe ne ya
 ハウェ ネ ヤ
 声 (繫辞類) (疑問)
 いるのか、

- 200 a-erambetek kane.
 ア・エラムベテク カネ.
 我・知らない (程度)
 私にはわからなかった。

1.3 海の神の訪問

- 201 Okai-an awa
 オカイ・アン アワ
 いる・我 (展開)
 そのように私たちは暮らしていたが、
- 202 shinean i wano
 シネアニ ワノ
 ある とき (起点)
 あるときに、
- 203 nekon ne humi
 ネコン ネ フミ
 どのように (繫辞類) 音
 何の音
- 204 ne nankor a
 ネ ナンコラ
 (繫辞類) だろう (疑問)
 であろうか、
- 205 kimun iwor
 キムン イウオロ
 山の 奥地
 山の奥、
- 206 toop
 トオプ
 ずっと遠く
 ずっと奥にある
- 207 nuburi tapka un
 ヌブリ タツカ ウン
 山 頂き (方向)
 山の頂きで
- 208 tu otonrim
 トウ オトンリム
 二つの 轟音
 二つの轟音、
- 209 re otonrim
 レ オトンリム
 三つの 轟音
 三つの轟音が
- 210 otukitara.
 オトゥキタラ.
 生じる
 鳴り響いた。
- 211 Tu kamui rai hum
 トウ カムイ ライ フム
 二つの 神 死ぬ 音
 二柱の神が死ぬ音、
- 212 re kamui rai hum
 レ カムイ ライ フム
 三つの 神 死ぬ 音
 三柱の神が死ぬ音が

⁵ irammayaisere の誤記の可能性があるが、原ノートの表記のままとする。

- 213 arukeshure
アルケシュレ
継続する
絶え間なく続き、
- 214 moshiri kuttom
モシリ クトトム
国土 中
国土に
- 215 koturimimse.
コトウリミムセ.
響き渡る
響き渡った。
- 216 Humash chiki
フマシ チキ
音がする (条件)
すると、
- 217 kani rap noka
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 218 pon a-koro sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 219 tu okne ibor
トゥ オクネ イボロ
二つの 悲しむ 顔色
二つの悲しみの表情、
- 220 re okne ibor
レ オクネ イボロ
三つの 悲しむ 顔色
三つの悲しみの表情を
- 221 enuratkire kane
エヌラトキレ カネ
顔に浮かべる (程度)
顔に浮かべて
- 222 okai*⁶ awa
オカイ アワ
ある (展開)
いたが、
- 223 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 224 arhorebashi wa
アラホレバシ ワ
沖から (起点)
遙か沖から
- 225 kamui yan humi
カムイ ヤン フミ
神 上陸する 音
神が上陸する音が
- 226 keurototke.
ケウロトトケ.
響く
鳴り響いた。
- 227 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 228 saure rametok
サウレ ラメトク
軽輩の 勇者
並みの勇者
- 229 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 230 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 231 shino rametok
シノ ラメトク
まことに 勇者
真の勇者
- 232 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるらしく、
- 233 tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
二柱の尊い神、
- 234 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
三柱の尊い神を
- 235 shienkaotte.
シエンカオトテ.
自らの上にあらしめる
みずからの上に従えている。
- 236 Tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
連れる 神 風
それに伴う神風が
- 237 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの 渦になっている 風
二つの旋風、
- 238 re shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの 渦になっている 風
三つの旋風となって
- 239 shikotchaotte.
シコトチャオトテ.
自分の前に群がる
巻き起こった。

*⁶ 複数形動詞 okai が用いられている理由については未詳。

金色の羽の若き姉

- 240 Nitai kar be
ニタイ カラ ベ
林 する もの
林にあたる風は
- 241 koshiunataru.
コシウナタラ.
うなる
うなり響いた。
- 242 Tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今は
- 243 a-koro pon top chise hene
ア・コロ ボン トップ チセ ヘネ
我・持つ 小さい 笹竹 家 (例示)
私たちの小さな笹竹の家も
- 244 rera mesu
レラ メス
風 剥がす
風が吹きはがして
- 245 anke humash.
アンケ フマシ.
しようとする 気配がする
しまうように思われた。
- 246 I-oyake un wa
イ・オヤケ ウン ワ
我・よそ (方向) (起点)
私たちとは別のところへ
- 247 yam be ne yakne
ヤム ベ ネ ヤクネ
上陸する もの (繫辞類) (条件)
上陸するものであるならば、
- 248 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
さもあるうが、
- 249 a-koro pon top chise
ア・コロ ボン トップ チセ
我・持つ 小さい 笹竹 家
私たちの小さな笹竹の家の
- 250 attomsama
アトトムサマ
中
正面に
- 251 yayomare wa
ヤヨマレ ワ
自らを入れる (接続)
向かって
- 252 yam be ne humash.
ヤム ベ ネ フマシ.
上陸する もの (繫辞類) 気配がする
上陸するものであるようだ。
- 253 Pon a-koro sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 254 inu rok be
イヌ ロク ベ
聞く (完了) もの
その音を聞いて
- 255 oribak wa
オリバク ワ
畏まる (接続)
畏まり、
- 256 otop chinki
オトプ チンキ
髪 裾
髪の手を
- 257 eshitchiure kane
エシトチウレ カネ
頭を下げる (程度)
地面につけるようにして
- 258 okai*7 awa
オカイ アワ
ある (展開)
いたが、
- 259 nea kamui hum
ネア カムイ フム
その 神 音
その神の出す音は
- 260 a-kor pon top chise
ア・コロ ボン トップ チセ
我・持つ 小さい 笹竹 家
私たちの小さな笹竹の家の
- 261 banetubok ne
バネトウボク ネ
西の軒 (繫辞類)
西の屋根の上で
- 262 kohumshinikur-
コフムシニクル・
音の休止
鳴り
- 263 atte kane.
アトテ カネ.
たたせる (程度)
止んだ。
- 264 Nep humi ka
ネプ フミ カ
何 音 も
何の音も、
- 265 nep hawe ka isam.
ネプ ハウエ カ イサム.
何 声 も 無い
何の声もしなくなった。
- 266 Shittoyakan
シトトヤカン
地上一帯
あたりは

p. 6

*7 複数形動詞 okai が用いられている理由については未詳。

- 267 **kokishnatara.**
コキシナタラ。
静まる
静まり返った。
- 268 **Shu at bakno**
シュ アト バクノ
鍋 たつ まで
鍋が煮立つほどの時間、
- 269 **shu at kashuno**
シュ アト カシュノ
鍋 たつ 越えて
その時間を過ぎた
- 270 **shiran awa**
シラン アワ
有様である (展開)
頃に、
- 271 **pon a-kor sapo**
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 272 **hebuni wa**
ヘブニ ワ
顔を上げる (接続)
頭を上げて
- 273 **oribak kane**
オリバク カネ
畏まる (程度)
畏まりながら
- 274 **onkami**
オンカミ
拝礼
拝礼をして
- 275 **pirika ese ki.**
ピリカ エセ キ。
よい 承諾する する
承諾の返事をした。
- 276 **Koeramno sui**
コエラムノ スイ
同時に 再び
それと同時に、また、
- 277 **kanak an kuni p**
カナク アン クニ プ
誰 ある すべき もの
何者かが
- 278 **etubok ka wa**
エトウボク カ ワ
軒 上 (起点)
屋根の上から
- 279 **kamui mau bashte.**
カムイ マウ バシテ。
神 風 走らせる
神風を走らせた。
- 280 **Ene yap humi**
エネ ヤプ フミ
このように 上陸する 音
上陸してきた時と
- 281 **neino sui**
ネイノ スイ
ように 再び
同じように、また、
- 282 **oman hum konna**
オマン フム コンナ
行く 音こそ
去っていく音が
- 283 **keurototke.**
ケウロトトケ。
響く
鳴り響いた。
- 284 **Kohumokake**
コフモカケ
音の後
その音が響いた後、
- 285 **chakkosanu.**
チャクコサヌ。
静まり返る
あたりは静かになった。
- 286 **Humash chiki**
フマシ チキ
気配がする (条件)
すると、
- 287 **kani rap noka**
カニ ラッ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 288 **pon a-koro sapo**
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 289 **i-kohosari**
イ・コホサリ
我・振り向く
私の方へ振り向いて
- 290 **i-henkotba kane**
イ・ヘンコトバ カネ
我・愛撫する (程度)
私を撫でながら
- 291 **ene itak i:—**
エネ イタキ:—
このように 言う こと
このように言った。

第2章

姉の語り

2.1 姉の正体

- 292 “Koninkara kusu
“コニンカラ クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 293 ainu akpo
アイヌ アクポ
人間 弟
人間の弟、
- 294 a-resu akpo
ア・レス アクポ
我・育てる 弟
私が育てた弟よ、
- 295 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 (条件)
話しますから
- 296 pirikano nu yan.
ピリカノ ヌ ヤン.
良く 聞く (命令)
聞いてください。
- 297 Naa e-pon kusu
ナア エ・ポン クス
まだ 汝・幼い (理由・目的)
まだあなたは幼いから、
- 298 naa somo
ナア ソモ
まだ (否定)
まだ、
- 299 e-bashkuma-an kuni
エ・バシクマ・アン クニ
汝・言い聞かせる・我 ように
あなたに教えようとは
- 300 a-ramu*¹ awa
ア・ラム アワ
我・思う (展開)
思っていなかったのですが、
- 301 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今は
- 302 hokamba orushbe
ホカムバ オルシベ
難しい 話
厄介な話、
- 303 hokamba p
ホカムバ プ
難しい もの
厄介な出来事が
- 304 ukohetuku.
ウコヘトウク.
共に起こる
起こったのです。
- 305 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
それで、
- 306 tane
タネ
今
今、
- 307 terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
駆け足で、
- 308 kimatek tuika ta korachi
キマテク トウイカ タ コラチ
慌てる 上 (場所) ように
急いで、
- 309 ubashkuma-an wa
ウバシクマ・アン ワ
言い聞かせる・我 (接続)
あなたに教えて
- 310 e-nure-an na.
エ・ヌレ・アン ナ.
汝・聞かせる・我 ぞ
聞かせます。
- 311 Pirikano nu yan.
ピリカノ ヌ ヤン.
良く 聞く (命令)
よく聞きなさい。
- 312 Ebenubur*² be
エベヌブル ベ
霊能力が強い もの
あなたはよい血筋の者

p. 7

*¹ ara と書かれているが、a-ramu と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 313 e-ne kusu
エ・ネ クス
汝・(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 314 nekona e-pon yakka
ネコナ エ・ポン ヤクカ
どのように 汝・幼い (譲歩)
どんなに幼くとも、
- 315 ramuam be
ラムアム ベ
利口である もの
あなたは利口である
- 316 e-ne nankoro.
エ・ネ ナンコロ.
汝・(繫辞類) だろう
のでしょう。
- 317 Aokai anakne
アオカイ アナクネ
我 は
私は
- 318 konep ainu
コネプ アイヌ
何 人間
人間
- 319 a-ne wa
ア・ネ ワ
我・(繫辞類) (接続)
であるから、
- 320 e-reshu-an
エ・レシュ・アン
我・汝を育てる
あなたを育てていた
- 321 ruwe ka somo ne.
ルウェ カ ソモ ネ.
跡 も (否定) (繫辞類)
のではありません。
- 322 Kanto orowa
カント オロワ
天 (始点)
天空から、
- 323 ainu moshiri un
アイヌ モシリ ウン
人間 国土 (方向)
人間の世界で
- 324 koiraukituiba kusu
コイラウキトゥイバ クス
働く (理由・目的)
仕事をするために、
- 325 shine ba ot ta
シネ バ オト タ
一つの 年 ところ (場所)
一年に

- 326 arshino ranke
アッシノ ランケ
一度 (反復)
一度、
- 327 a-rapte kakkok
ア・ラプテ カクコク
下ろされる 郭公
降ろされる郭公
- 328 a-ne ruwe ne.
ア・ネ ルウェ ネ.
我・(繫辞類) 跡 (繫辞類)
なのです。

2.2 ポイヤウンペの出自

- 329 Inne a-tobaha ne
インネ ア・トバハ ネ
大勢である 我・集団 (繫辞類)
私たちは大勢で
- 330 rap-an awa
ラプ・アン アワ
降りる・我 (展開)
降りてきましたが、
- 331 koekarino
コエカリノ
巡り合わせて
まさにその時に、
- 332 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチの
- 333 bet etokoho
ベト エトコホ
川 前方
川の源流にある
- 334 kamui kar wen shiri
カムイ カラ ウェン シリ
神 つくる 悪い 断崖
神がこしらえた険しい崖、
- 335 nei chorobokey
ネイ チョロボケ
その 下
その崖の下に、
- 336 shikari hattar
シカリ ハッタラ
円い 淵
円い淵が
- 337 an ruwe ne.
アン ルウェ ネ.
ある 跡 (繫辞類)
あるのです。
- 338 Nei hattar enka ta
ネイ ハッタラ エンカ タ
その 淵 離れた上 (場所)
その淵の上で

*2 ebunubur と書かれているが、ebenubur と解釈する。

- 339 shine pon hekachi
シネ ボン ヘカチ
一つの 小さい 子供
一人の幼い男の子と
- 340 shine pom matkachi
シネ ポム マトカチ
一つの 小さい 少女
一人の幼い女の子、
- 341 kamui shin ne
カムイ シン ネ
神 様子 (繫辞類)
神のような姿を
- 342 okai be
オカイ ベ
ある もの
した者たちが、
- 343 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人で
- 344 shinot koro okai.
シノト コロ オカイ.
遊ぶ (同時) ある
遊んでいました。
- 345 Naa ponno
ナア ポンノ
まだ 少し
もうしばらく、
- 346 shinotba yakne
シノトバ ヤクネ
遊ぶ (条件)
そのまま遊んでいると、
- 347 a-shitoma^{*3} hattar
ア・シトマ ハトタラ
恐ろしい 淵
怖ろしい淵、
- 348 asam sak hattar
アサム サク ハトタラ
底 欠く 淵
底無しの淵に
- 349 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人とも
- 350 koarembuina
コアレムブイナ
全く崩れ落ちる
落ちてしまいそうな
- 351 kunine shiran.
クニネ シラン.
ように 有様である
様子です。
- 352 Hekattar utar anakne
ヘカトタラ ウタラ アナクネ
子供 たち は
子供たちは
- 353 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
まだとても
- 354 naa nokam be ne
ナア ノカム ベ ネ
まだ 幼い もの (繫辞類)
幼い者たちで、
- 355 ramu isam be utar ne.
ラム イサム ベ ウタラ ネ.
心 無い もの たち (繫辞類)
分別のない者たちです。
- 356 Konep a-eyaikibip pe hene
コネプ ア・エヤイキビプ ペ ヘネ
何 怯える もの (例示)
どきどきするようなことも、
- 357 somo p hene
ソモ プ ヘネ
(否定) もの (例示)
そうではないことも、
- 358 ponno ka
ボンノ カ
少し も
少しも
- 359 erametek be ne ruwe
エラムベテク ベ ネ ルウェ
知らない もの (繫辞類) 跡
わからない者たちであることを
- 360 a-eraman.
ア・エラマン.
我・知る
私は見て取りました。
- 361 Shino a-oyamokte.
シノ ア・オヤモクテ.
まことに 我・不思議に思う
私はとても不思議に思いました。
- 362 Kone wa tapne
コネ ワ タプネ
どこ (起点) このように
どこから、
- 363 toop
トオプ
ずっと遠く
このずっと
- 364 kimun iwor ta
キムン イウオロ タ
山の 奥地 (場所)
山奥に、
- 365 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような子供たちが

^{*3} 原ノートでは、i が脱落した ashtoma という形で表記されている。

金色の羽の若き姉

- 366 arki wa
アラキ ワ
来る (接続)
やって来て、
- 367 utura shinot shiri
ウトウラ シノト シリ
一緒に 遊ぶ 様子
一緒に遊んで
- 368 okai i ta an
オカイ イ タ アン
ある こと これ ある
いるのか
- 369 ari yainu-an kusu
アリ ヤイヌ・アン クス
(引用) 考える・我 (理由・目的)
と私は思い、
- 370 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
見たところ、
- 371 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 372 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 373 Shinutapka ta
シヌタヅカ タ
(地名) (場所)
シヌタヅカで、
- 374 teeta kane
テエタ カネ
以前 (程度)
昔のことですが、
- 375 e-koro ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父は
- 376 bito iki korokaiki
ビト イキ コロカイキ
人 する (逆接)
人間ではあるのですが、
- 377 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌
その容貌、
- 378 koro rametok
コロ ラメトク
持つ 勇気
その勇気、
- 379 koro bawetok
コロ バウエトク
持つ 雄弁
その雄弁は
- 380 kamui ot ta hene
カムイ オト タ ヘネ
神 ところ (場所) も
神々の中でも、
- 381 ainu ot ta hene
アイヌ オト タ ヘネ
人間 ところ (場所) (例示)
人間たちの中でも
- 382 ebetturashi p
エベトウラシ プ
匹敵する もの
匹敵するものが
- 383 shinen ka isam.
シネン カ イサム.
一人 も いない
一人もおりませんでした。
- 384 tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
それからまた、
- 385 kanto ot ta
カント オト タ
天 ところ (場所)
天空の
- 386 horkeu kamui
ホロケウ カムイ
狼 神
狼の神は
- 387 tu irwak ne wa
トゥ イリワク ネ ワ
二つの 兄弟 (繫辞類) (接続)
二人の兄弟で、
- 388 tu turesh ne wa
トゥ トウレシ ネ ワ
二つの 妹 (繫辞類) (接続)
二人の姉妹
- 389 okai ko
オカイ コ
ある (条件)
であるのですが、
- 390 poniune menoko
ポニウネ メノコ
年下の 女
年下の娘は
- 391 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神々の中で
- 392 yaikotomka p
ヤイコトムカ プ
自らにふさわしい もの
自分にふさわしい相手を
- 393 hunara yakka
フナラ ヤッカ
探す (譲歩)
探したのですが、

- 394 **sambe ramuoshma p**
サムベ ラムオシマ プ
心臓 同意する もの
ふさわしいと思う相手が
- 395 **shinep ka isam.**
シネプ カ イサム.
一人 も いない
一人もおりませんでした。
- 396 **Tam be kusu**
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 397 **ainu moshiri**
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の国土、
- 398 **moshiri so kurka**
モシリ ソ クルカ
国土 平面 上
その国土の上を
- 399 **uwambare a kusu**
ウワムバレ ア クス
見て調べる 完了 (理由・目的)
見回したところ、
- 400 **tap eashiri**
タップ エアシリ
これ それこそ
まさしく、
- 401 **e-kor ainu**
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父の
- 402 **koro shiretok**
コロ シレトク
持つ 美貌
容貌に
- 403 **koyairamotari**
コヤイラモタリ
心を惹かれる
心を惹かれ、
- 404 **sonno oshikote.**
ソンノ オシコテ.
真に 惚れる
強い恋心を抱きました。
- 405 **Tam be kusu**
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
それで、
- 406 **tapne ne i**
タップネ ネ イ
このように (繫辞類) こと
そのことを
- 407 **yubutari**
ユブタリ
兄たち
兄たちや
- 408 **saha or un**
サハ オロ ウン
姉 ところ (方向)
姉に
- 409 **eikorankoro awa**
エイコラムコロ アワ
相談する (展開)
相談すると、
- 410 **a-kokobankara awa**
ア・ココバンカラ アワ
拒否される (展開)
反対されたのですが、
- 411 **nei am be**
ネイ アム ベ
その ある もの
そのことに
- 412 **rushka kusu**
ルシカ クス
怒る (理由・目的)
腹を立て、
- 413 **rayeshinu**
ライエシヌ
(不明)
死のうとして*4
- 414 **somo ibe no**
ソモ イベ ノ
(否定) 食事する (接続)
何も食べずに
- 415 **chishkohemuimuye.**
チシコヘムイムイエ.
泣いて臥せる
泣きながらふさぎ込みました。
- 416 **'Ene an kamui**
'エネ アン カムイ
このように ある 神
『これほどの神、
- 417 **ene am bito**
エネ アム ビト
このように ある 人
これほどの貴人を
- 418 **somo a-i-kore ko anakne**
ソモ ア・イ・コレ コ アナクネ
(否定) 我・与えられる (条件) は
夫として与えられないのであれば、
- 419 **kamui ot ta**
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神の世界に
- 420 **somo yairamhekote-an**
ソモ ヤイラムヘコテ・アン
(否定) 心を結びつける・我
未練は

*4 この解釈については未詳。

金色の羽の若き姉

- 421 kusu ne
 クス ネ
 (理由・目的) (繫辞類)
 ありません、
- 422 rai-an kusu ne.
 ライ・アン クス ネ.
 死ぬ・我 (理由・目的) (繫辞類)
 死にたいと思います。』
- 423 ari yainu.
 アリ ヤイヌ.
 (引用) 考える
 と考えたのです。
- 424 Ne wa am be
 ネ ワ アム ベ
 (繫辞類) (接続) ある もの
 そのことを
- 425 kamui utara
 カムイ ウタラ
 神 たち
 神々は
- 426 shino eramusarak kusu
 シノ エラムサラク クス
 まことに 動揺する (理由・目的)
 大層心配して、
- 427 a-koramuoshma aike
 ア・コラムオシマ アイケ
 承諾される (条件)
 承諾の返事をする、
- 428 shino nubetne wa
 シノ ヌベトネ ワ
 まことに 喜ぶ (接続)
 娘はとても喜び、
- 429 chise tura
 チセ トウラ
 家 とともに
 家とともに、
- 430 ikoro tura
 イコロ トウラ
 宝物 とともに
 宝物とともに
- 431 Tomisambechi
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンペチ、
- 432 Shinutapkashi
 シヌタツカシ
 (地名)
 シヌタツカに
- 433 chioranke wa
 チオランケ ワ
 下りる (接続)
 降り立って、
- 434 e-koro ainu tura
 エ・コロ アイヌ トウラ
 汝・持つ 父 とともに
 あなたの父と
- 435 uhekotba.
 ウヘコトバ.
 連れ添う
 夫婦になりました。
- 436 Tap eashiri
 タプ エアシリ
 これ それこそ
 まさしく、
- 437 ubak kamui ne
 ウバク カムイ ネ
 対等の 神 (繫辞類)
 並び立つ神、
- 438 ubak shiretok ne
 ウバク シレトク ネ
 対等の 美貌 (繫辞類)
 並び立つ容貌、
- 439 ukotom nanka
 ウコトム ナンカ
 ふさわしい 顔面
 似つかわしい顔、
- 440 ukotom shirika
 ウコトム シリカ
 ふさわしい 表面
 似つかわしい姿
- 441 ne wa
 ネ ワ
 (繫辞類) (接続)
 であり、
- 442 nei kamui asuruhu
 ネイ カムイ アスルフ
 その 神 尊
 その神の尊が
- 443 tu moshiri kama
 トウ モシリ カマ
 二つの 国土 越える
 二つの世界を越えて、
- 444 re moshiri kama
 レ モシリ カマ
 三つの 国土 越える
 三つの世界を越えて
- 445 chihobunire.
 チホブニレ.
 起きる
 ひろがりました。
- 446 Ne wa am be
 ネ ワ アム ベ
 (繫辞類) (接続) ある もの
 それを
- 447 tuima okai be
 トウイマ オカイ ベ
 遠い ある もの
 遠方の者、
- 448 hanke okai be
 ハンケ オカイ ベ
 近い ある もの
 近隣の者が

- 449 euyairamta-
エウヤイラムタ・
自らの心
一緒に
- 450 utekambare
ウテカムバレ
互いの手を取る
なつて憎み、
- 451 e-kor ainu umurek
エ・コロ アイヌ ウムレク
汝・持つ 父 夫婦
あなたの両親は
- 452 a-ukokeshke
ア・ウコケシケ
皆に妬まれる
妬まれ、
- 453 a-ukoebokba.
ア・ウコエボクバ。
呪われる
嫉まれました。
- 454 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
それで、
- 455 shukup turashi
シュクパ トウラシ
成長する 沿つて
生きている間は
- 456 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 (限定)
戦いばかり、
- 457 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 (限定)
戦闘ばかりの
- 458 eritne shukup*⁵ kichi rok i
エリトネ シクパ キチ ロク イ
つらい 成長 する (完了) こと
歳月をおくり、
- 459 ne tumi utur
ネ トウミ ウトル
(繋辞類) 戦い 間
その戦いが
- 460 eshini i ta
エシニ イ タ
休む とき (場所)
休止したときに、
- 461 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 462 pon e-kor yubi newa
ボン エ・コロ ユビ ネワ
小さい 汝・持つ 兄 と
年少のあなの兄と
- 463 eani newa
エアニ ネワ
汝 と
あなた、
- 464 e-tureshipo tura
エ・トゥレシポ トウラ
汝・妹 ともに
あなたの妹の
- 465 rembish echi-ne wa
レムビシ エチ・ネ ワ
三人 汝ら・(繋辞類) (接続)
三人を
- 466 ukosapte wa
ウコサパテ ワ
産む (接続)
産んで、
- 467 shino
シノ
まことに
まことに
- 468 echi-ukoomap wa
エチ・ウコオマパ ワ
汝ら・皆で可愛がる (接続)
あなたたちを可愛がって
- 469 echi-reshba*⁶
エチ・レシバ
汝ら・育てる
育てていた
- 470 ruwe ne koroka
ルウェ ネ コロカ
跡 (繋辞類) (逆接)
のですが、
- 471 mashkino
マシキノ
あまりに
あまりにも、
- 472 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 (限定)
戦いばかり、
- 473 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 (限定)
戦闘ばかりの
- 474 eritne shikuppa p
エリトネ シクパ パ
つらい 成長する もの
苦しい日々が続く

*⁵ shu の右斜め上に横線が引かれている。*⁶ echireshiba と書かれているが、echi-reshba と解釈する。

金色の羽の若き姉

475 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
ものですから、

476 shino shinkiba
シノ シンキバ
まことに 疲れる
大層疲労して

477 hemem ki.
ヘメモ キ.
も する
きました。

478 Usa a-ukobokba p
ウサ ア・ウコエボクバ プ
(譲歩) 呪われる もの
妬まれているもの

479 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
ですから、

480 inkush batek
インクシ バテク
危険な予感 (限定)
危惧ばかり、

481 hotashnu batek kichi.
ホタッシュ バテク キチ.
不安 (限定) する
憂慮ばかりをしていたのです。

488 ponno ramuam be
ボンノ ラムアム ベ
少し 利口である もの
分別のつく年頃に

489 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
なると、

490 anihi shinen ne wa
アニヒ シネン ネ ワ
彼 一人 (繋辞類) (接続)
あなたの両親は彼一人を

491 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む ところ
神の住まいに

492 kohopba.
コホフバ.
残す
残しました。

493 Orowa
オロワ
(始点)
それから、

494 eani newa
エアニ ネワ
汝 と
あなたと

495 e-tureshipo
エ・トゥレシポ
汝・妹
あなたの妹は、

496 turanno
トゥランノ
ともに
ともに、

497 ubakno korachi
ウバクノ コラチ
同じくらいに ように
これまでと同じように

498 nokam be
ノカム ベ
幼い もの
幼いもの

499 echi-ne kusu
エチ・ネ クス
汝ら・(繋辞類) (理由・目的)
ですから、

500 echi-keusutu
エチ・ケウストウ
汝ら・伯父
あなたたちの伯父、

501 chashi ba un kuru
チャシ バ ウン クル
チャシ 上 ある 人
館の東にいる者の

p. 11

2.3 伯父の謀略

482 Ramuoshiroma no
ラムオンロマ ノ
落ち着く (接続)
落ち着いて、

483 ramushinne wa
ラムシンネ ワ
安心する (接続)
安心して

484 okai eaikap kusu
オカイ エアイカプ クス
ある できない (理由・目的)
暮らすことができませんから、

485 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、

486 pon e-koro yubi anakne
ボン エ・コロ ユビ アナクネ
小さい 汝・持つ 兄 は
年少のあなたの兄は

487 ponno boro
ボンノ ボロ
少し 大きい
少し成長し、

- 502 umurek utar ot ta
ウムレク ウタラ オト タ
夫婦 たち ところ (場所)
夫婦のところへ
- 503 tun echi-ne wa
トゥン エチ・ネ ワ
二人 汝ら・(繫辞類) (接続)
あなたを託し、
- 504 pirika chireshba
ピリカ チレシバ
よい 育てられる
あなたたちがよい養育を
- 505 echi-ekarkar-an kunine
エチ・エカラカラ・アン クニネ
汝・する・我 ように
受けられるように
- 506 echi-eitaknuiba koro
エチ・エイタクヌイバ コロ
汝ら・遺言する (同時)
言い残して、
- 507 kamui or un
カムイ オロ ウン
神 ところ (方向)
あなたの両親は神々のもとへ
- 508 baye ko
バイェ コ
行く (条件)
立ち去ったのですが、
- 509 okake ta
オカケ タ
後 (場所)
その後、
- 510 echi-keusutu
エチ・ケウストウ
汝ら・伯父
あなたたちの伯父は
- 511 sonno keutumum wem be
ソンノ ケウトウム ウェム ベ
真に 心 悪い もの
まことに性悪の者
- 512 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であり、
- 513 echi-rupne wa
エチ・ルプネ ワ
汝ら・大きくなる (接続)
あなたたちが大きくなって、
- 514 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチの
- 515 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む ところ
神の住まいに
- 516 eshikno okai
エシクノ オカイ
いっばいに ある
ぎっしりと詰まっている
- 517 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝で
- 518 echi-epirika kuni
エチ・エピリカ クニ
汝ら・よい すべきこと
あなたたちが良い思いをすることを
- 519 echi-ekeshke.
エチ・エケシケ.
汝ら・妬む
妬んだのです。
- 520 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 521 naa echi-nokan aine
ナア エチ・ノカン アイネ
まだ 汝ら・幼い (接続)
まだあなたたちが幼いうちに、
- 522 nekonka ne wa
ネコンカ ネ ワ
どうか (繫辞類) (接続)
どうにかして
- 523 echi-ronnu rusui.
エチ・ロンヌ ルスイ.
汝ら・殺す (願望)
あなたたちを殺したいと思いました。
- 524 Echi-ronnu wa
エチ・ロンヌ ワ
汝ら・殺す (接続)
あなたたちを殺して、
- 525 echi-isam wa
エチ・イサム ワ
汝ら・いない (接続)
あなたたちがいなく
- 526 ne yakne
ネ ヤクネ
(繫辞類) (条件)
なったら
- 527 kamui ewak i ini^{*7}
カムイ エワキ イニ
神 住む ところ (不明)
神の住まいを
- 528 kon rusui kusu
コン ルスイ クス
持つ (願望) (理由・目的)
手に入れたいと思い、

*7 一字抹消して ini と書かれている。この語については未詳。

金色の羽の若き姉

p. 12

- 529 mononnota*⁸
モノノタ
(不明)
(不明)
- 530 echi-ronnu i ka*⁹
エチ・ロンヌ イ カ
汝ら・殺す こと も
あなたたちを殺すことも
- 531 shitoma kusu
シトマ クス
恐れる (理由・目的)
危ぶんで、
- 532 hankeko
ハンケコ
遠く
遠く、
- 533 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 534 Shinutapka
シヌタツカ
(地名)
シヌタツカの
- 535 etoko ta
エトコ タ
前方 (場所)
源流にある
- 536 kamui wen shiri
カムイ ウェン シリ
神 悪い 断崖
険しい崖の
- 537 tapkashi ta
タツカシ タ
頂き (場所)
頂きで
- 538 echi-ekutikare kusu
エチ・エクトイカレ クス
汝ら・崖から落ちる (理由・目的)
あなたたちを崖から落とすために
- 539 echi-kokantama wa,
エチ・コカントマ ワ、
汝ら・騙す (接続)
あなたたちを欺いて、
- 540 ‘Teta irukai
‘テタ イルカイ
ここで しばらくの間
『ここでしばらく
- 541 shinot koro
シノト コロ
遊ぶ (同時)
遊んで
- 542 okai yan
オカイ ヤン
ある (命令)
いなさい、
- 543 tane ek-an
タネ エク・アン
今 来る・我
すぐに戻って来る
- 544 kusu ne.[’]
クス ネ.
(理由・目的) (繫辞類)
から。』
- 545 ari sunke koro
アリ スンケ コロ
(引用) 嘘をつく (同時)
と嘘をついて、
- 546 oyak beka
オヤク ベカ
よそ で
別の場所へ
- 547 toop
トオプ
ずっと遠く
ずっと
- 548 kira wa isam.
キラ ワ イサム.
逃げる (接続) いない
逃げてしまったのです。
- 549 Nep ka
ネプ カ
何 も
あなたたちは何も
- 550 echi-erambetek no
エチ・エラムベテク ノ
汝ら・知らない (接続)
知らずに
- 551 echi-uturashinot*¹⁰ koro
エチ・ウトウラシノト コロ
汝ら・共に遊ぶ (同時)
一緒に遊んで
- 552 echi-okai
エチ・オカイ
汝ら・いる
いた
- 553 shiri ne awan.
シリ ネ アワン.
様子 (繫辞類) のだった
のでした。
- 554 Obittano
オビトタノ
皆
私はすべてを

*⁸ この語については未詳。

*⁹ echironnui ika と書かれているが、echi-ronnu i ka と解釈する。

*¹⁰ echiutar ra shinot と書かれているが、echi-uturashinot と解釈する。

- 555 a-ramnukare.
ア・ラムヌカレ。
我・知る
見抜きました。
- 556 Naa ponno
ナア ポンノ
まだ 少し
もう少し
- 557 moire-an a yakne
モイレ・アン ア ヤクネ
遅い・我 完了 (条件)
救い出すのが遅れたら、
- 558 tun echi-ne wa
トゥン エチ・ネ ワ
二人 汝ら・(繫辞類) (接続)
あなたたちは二人で
- 559 hattar asam
ハトタラ アサム
淵 底
淵の底へ
- 560 echi-erabapse wa
エチ・エラバッセ ワ
汝ら・落ちる (接続)
落ちて
- 561 ne a yakne
ネ ア ヤクネ
(繫辞類) 完了 (条件)
しまい、
- 562 hattar asam
ハトタラ アサム
淵 底
淵の底で
- 563 echi-omunin yakka
エチ・オムニン ヤクカ
汝ら・腐る (譲歩)
腐ってしまっても
- 564 nen ka erambetek
ネン カ エラムベテク
誰 も 知らない
誰も気付かない
- 565 kush ne awan.
クシ ネ アワン。
ように (繫辞類) のだった
でしょう。
- 566 Inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 567 e-kor ainu
エ・コロ アイヌ
汝・持つ 父
あなたの父が
- 568 nomi kamui
ノミ カムイ
祈る 神
祈る神は
- 569 inne yakka
インネ ヤクカ
大勢である (譲歩)
大勢いるのですが、
- 570 shine kamui ka
シネ カムイ カ
一つの 神 も
一柱の神も、
- 571 hosari kamui
ホサリ カムイ
振り向く 神
振り向く神は
- 572 isam ruwe ne.
イサム ルウェ ネ。
いない 跡 (繫辞類)
いないのです。
- 573 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 574 aokai
アオカイ
我
私が
- 575 ebeka-an.
エベカ・アン。
向かう・我
助けに向かったのです。
- 576 Raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 577 kamui kar iwa
カムイ カラ イワ
神 つくる 岩山
神がこしらえた岩山、
- 578 iwa tapka ta
イワ タヅカ タ
岩山 頂き (場所)
その岩山の頂に、
- 579 kanto oro wa
カント オロ ワ
天 ところ (起点)
天空から
- 580 base kamui
バセ カムイ
重い 神
尊い神の
- 581 poho utari
ポホ ウタリ
息子 たち
子供たちが
- 582 shinot kusu
シノト クス
遊ぶ (理由・目的)
遊びに

金色の羽の若き姉

p. 13

- 583 rap ranke.
ラフ ランケ.
降りる (反復)
降りてくるのです。
- 584 Sui shinot kusu
スイ シノト クス
再び 遊ぶ (理由・目的)
その時もまた、遊びに
- 585 rap i ta
ラフ イ タ
降りる とき (場所)
降りてきたときに、
- 586 kanna kamui
カンナ カムイ
上 神
雷神の
- 587 pon poho
ボン ポホ
小さい 息子
年少の子供が
- 588 shino e-tureshipo
シノ エ・トゥレシポ
まことに 汝・妹
まことにあなたの妹を
- 589 eramboken
エラムボケン
憐れむ
憐れに思い、
- 590 esambehauke kasui wa
エサムベハウケ カスイ ワ
優しい心を持つ 甚だしい (接続)
いとおしく思って、
- 591 kanto or un
カント オロ ウン
天 ところ (方向)
天空へ
- 592 e-tureshipo
エ・トゥレシポ
汝・妹
あなたの妹を
- 593 tura wa
トゥラ ワ
連れる (接続)
連れて
- 594 oman hine
オマン ヒネ
行く (接続)
行って、
- 595 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神々のところで
- 596 a-ukoomap koro
ア・ウコオマフ コロ
皆に可愛がられる (同時)
可愛がられ、
- 597 a-pirikareshu koro
ア・ピリカレシュ コロ
よく育てられる (同時)
立派に育てられて
- 598 shiri an
シリ アン
様子 ある
いる
- 599 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 (繫辞類)
のです。
- 600 Naa ponno
ナア ポンノ
まだ 少し
もうしばらくして
- 601 boro yakne
ボロ ヤクネ
大きい (条件)
大きくなったら、
- 602 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 603 Shinutapka un
シヌタフカ ウン
(地名) (方向)
シヌタフカへ
- 604 a-ranke nankoro.
ア・ランケ ナンコロ.
下ろされる だろう
降ろされるでしょう。
- 605 E-eramboken-an kusu
エ・エラムボケン・アン クス
汝・憐れむ・我 (理由・目的)
私はあなたを憐れに思い、
- 606 kakkok chikap
カクコク チカフ
郭公 鳥
郭公で
- 607 a-ne a koroka
ア・ネ ア コロカ
我・(繫辞類) 完了 (逆接)
あるのですが、
- 608 tap korachi
タフ コラチ
これ ように
このように
- 609 ainu a-ne wa
アイヌ ア・ネ ワ
人間 我・(繫辞類) (接続)
人間として
- 610 e-resu-an ruwe ne.
エ・レス・アン ルウェ ネ.
汝・育てる・我 跡 (繫辞類)
あなたを育てていたのです。

- 611 Echi-wenkeusutu
エチ・ウェンケウストゥ
汝ら・悪い伯父
あなたたちの悪い伯父は
- 612 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
以前から、
- 613 tun echi-ne
トゥン エチ・ネ
二人 汝ら・(繫辞類)
あなた二人が
- 614 hattar asam
ハトタラ アサム
淵 底
淵の底へ
- 615 echi-oshma wa
エチ・オシマ ワ
汝ら・ぶつかる (接続)
落ちて
- 616 echi-rai
エチ・ライ
汝ら・死ぬ
死ぬ
- 617 ruwe ne kuni
ルウェ ネ クニ
跡 (繫辞類) ように
ことばかりを
- 618 batek ramu.
バテク ラム.
(限定) 思う
望んでいたのです。
- 619 Kamui ewak i ta
カムイ エワキ タ
神 住む ところ (場所)
神の住まいには、
- 620 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 621 pon e-koro yubi
ポン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少のあなたの兄が
- 622 ouse shinen ne
オウセ シネン ネ
ただ 一人 (繫辞類)
ただ一人で
- 623 yaikoan wa
ヤイコアン ワ
一人である (接続)
暮らして
- 624 ne yakka
ネ ヤッカ
(繫辞類) (譲歩)
いたのですが、
- 625 raike wa
ライケ ワ
殺す (接続)
殺して
- 626 isamka rusui yakka
イサムカ ルスイ ヤッカ
無くす (願望) (譲歩)
亡き者にしようと思っても、
- 627 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう
- 628 shino oramato p
シノ オラマト プ
まことに 勇気のある もの
まことに勇敢な者に
- 629 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
なりましたから、
- 630 ene raike kuni
エネ ライケ クニ
このように 殺す すべきこと
どのように殺していいか
- 631 erametek kusu
エラムベテク クス
知らない (理由・目的)
わからないので、
- 632 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカを
- 633 kosunke hine
コスンケ ヒネ
嘘をつく (接続)
騙して、
- 634 tun echi-ne
トゥン エチ・ネ
二人 汝ら・(繫辞類)
あなた二人が
- 635 echi-eikka-an
エチ・エイッカ・アン
汝ら・盗まれる
さらわれた
- 636 ruwe ne^{*11}
ルウェ ネ
跡 (繫辞類)
のだ
- 637 ari sunke.
アリ スンケ.
(引用) 嘘をつく
と嘘をつきました。

p. 14

*11 前行からこの行にかけて、echieikka An wa ruwe ne と書かれているが、echi-eikka-an ruwe ne と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 638 Nei am be
ネイ アム ベ
その ある もの
その嘘に
- 639 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 640 pon e-koro yubi
ポン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少のあなたの兄は
- 641 shino ehomatu
シノ エホマトウ
まことに 慌てる
大いに驚いて、
- 642 toikoeisokoro.
トイコエイソコロ。
確信する
本当のことだと信じました。
- 643 Echi-hunara kusu
エチ・フナラ クス
汝ら・探す (理由・目的)
あなたたちを探すために、
- 644 konep kotani ka
コネッ コタニ カ
何 村 も
どこかの村へ
- 645 chioomante yakne
チオオマンテ ヤクネ
行く (条件)
行ったならば、
- 646 okake ta
オカケ タ
後 (場所)
その後で、
- 647 kamui kor be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝の
- 648 iyotta pirika ike
イヨッタ ピリカ イケ
最も よい こと
最もよいものを
- 649 numke wa
ヌムケ ワ
選ぶ (接続)
選び出し、
- 650 eikka kuni
エイッカ クニ
盗む ように
盗み出そうと、
- 651 emina rusui
エミナ ルスイ
それを笑う (願望)
笑いそうになりながら、
- 652 ehumse koro
エフムセ コロ
声を出す (同時)
勢い込んで
- 653 shunke awa
シュンケ アワ
嘘をつく (展開)
嘘をついたところ、
- 654 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 655 chikai hekachi
チカイ ヘカチ
背負われる 子供
背負われた子供は
- 656 iwatarapbe
イワタラッベ
赤子
幼い子
- 657 ne yakka
ネ ヤクカ
(繫辞類) (譲歩)
であっても、
- 658 ramuan kuni p
ラムアン クニ ヲ
利口である すべき もの
分別のある者
- 659 kone p ne kusu
コネ ヲ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるので、
- 660 kani torat tush ari
カニ トラト トウシ アリ
金 皮 縄 (手段)
金の皮の縄で
- 661 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む ところ
神の住まいの
- 662 burai hene
ブライ ヘネ
窓 (例示)
窓も
- 663 aba hene
アバ ヘネ
簾戸 (例示)
戸口も
- 664 toikoseshke
トイコセシケ
強く閉める
しっかりと閉めて、
- 665 shina shina.
シナ シナ。
縛る 縛る
縛りました。

- 666 Orowano
オロワノ
(始点)
それから、
- 667 tu bishkan kotan
トゥ ビシカン コタン
二つの 周囲 村
二つのまわりの村、
- 668 re bishkan kotan
レ ビシカン コタン
三つの 周囲 村
三つのまわりの村を
- 669 koihunara koroka
コイフナラ コロカ
探す (逆接)
探し回りましたが、
- 670 oar
オアラ
全く
まったく
- 671 echi-ukoerambetek-an.
エチ・ウコエラムベテク・アン.
汝ら・共に知らない
行方がわかりません。
- 672 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 673 Ponyayepirka
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 674 pon e-kor yubi
ボン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少のあなたの兄は
- 675 tu rur ekari
トゥ ルル エカリ
二つの 海水 回る
二つの海をめぐり、
- 676 re rur ekari
レ ルル エカリ
三つの 海水 回る
三つの海をめぐって、
- 677 echi-hunara.
エチ・フナラ.
汝ら・探す
あなたたちを探しました。
- 678 Nei okake ta
ネイ オカケ タ
その 後 (場所)
その後で、
- 679 echi-wenkeushutu
エチ・ウエンケウシュトゥ
汝ら・悪い伯父
あなたたちの悪い伯父は、
- 680 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む こと
神の住まいの
- 681 aba hene
アバ ヘネ
簾戸 (例示)
戸口も
- 682 burai hene
ブライ ヘネ
窓 (例示)
窓も
- 683 bita kusu ne awa
ビタ クス ネ アワ
解く (理由・目的) (繫辞類) (展開)
ほどこうとしましたが、
- 684 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
まったく
- 685 bita eaikap.
ビタ エアイカプ.
解く できない
ほどこうことができません。
- 686 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 687 batek koro emush ari
バテク コロ エムシ アリ
(限定) 持つ 刀 (手段)
ただ一振りの刀で
- 688 kani torat tush
カニ トラト トウシ
金 皮 縄
金の皮の縄を
- 689 tuiba ko
トゥイバ コ
切る (条件)
切ろうとすると、
- 690 nei okai emush
ネイ オカイ エムシ
その ある 刀
その刀は
- 691 obittano
オビタノ
皆
すべて
- 692 notaku horak
ノタク ホラク
刃 倒れる
刃がごぼれ落ち、
- 693 kekke wa isam.
ケッケ ワ イサム.
折れる (接続) 無い
折れてしまいました。

金色の羽の若き姉

- 694 Batek koro notakop
バテク コロ ノタコフ
(限定) 持つ 刃物
ただ一振りの刀は
- 695 obittano
オビトタノ
皆
すべて
- 696 ikashi wa kekke.
イカシ ワ ケッケ.
上 (起点) 折れる
上から折れてしまいました。
- 697 Usa nina mukar hene
ウサ ニナ ムカラ ヘネ
(列挙) 薪を取る 斧 (例示)
薪取りの斧や
- 698 aeshukep
アエシュケフ
刃物
炊事に使う刃物、
- 699 nep ne yakka
ネフ ネ ヤッカ
何 (繫辞類) (譲歩)
何であっても
- 700 notak o kane
ノタク オ カネ
刃 ある (程度)
刃がついて
- 701 okai be
オカイ ベ
ある もの
いるものは
- 702 obittano
オビトタノ
皆
すべて
- 703 yaikowente wa okere.
ヤイコウエンテ ワ オケレ.
自ら壊す (接続) (完了)
壊してしまいました。
- 704 Sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 705 keutumu wem be
ケウトウム ウェム ベ
心 悪い もの
性悪である者
- 706 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 707 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
以前から、
- 708 arbakekai ka
アラバケカイ カ
粗末な器 も
粗末な器の一つも、
- 709 shirakkari*¹² ka
シラッカリ カ
過ぎる も
それ以上のものも、
- 710 somo a-nukar be
ソモ ア・ヌカラ ベ
(否定) 見られる もの
見たことがない者
- 711 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であり、
- 712 nep ka pirika p
ネフ カ ピリカ フ
何 も よい もの
何かよいことも
- 713 shinep ka isam.
シネフ カ イサム.
一つ も 無い
一つもないのです。
- 714 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
それで、
- 715 batek kor be
バテク コロ ベ
(限定) 持つ もの
ただ一振りの刀も
- 716 obitta
オビトタ
皆
すべて
- 717 yaikowente okere.
ヤイコウエンテ オケレ.
自ら壊す (完了)
壊してしまったのです。
- 718 Shino irushka
シノ イルシカ
まことに 怒る
大いに怒りましたが、
- 719 ene wa ka
エネ ワ カ
このように (接続) も
どのように
- 720 iki i ka
イキ イ カ
する こと も
すればよいのか

*¹² shirakkarire の誤記の可能性があるが、原ノートの表記のままとする。

721 erambetek.
エラムベテク。
知らない
わかりません。

2.4 戦いの発端

722 Tam be kusu
タム ベ クス
このもの（理由・目的）
そこで、

723 tu rebum moshiri
トゥ レブム モシリ
二つの沖にある 国土
二つの沖の国、

724 re rebum moshiri
レ レブム モシリ
三つの沖にある 国土
三つの沖の国が

725 obumbuni.
オブムブニ。
起き上る
起ち上がりました。

726 inishuk
イニシュク
招く
それを招き寄せて、

727 Tomisambechi
トミサムベチ
（地名）
トミサンペチの

728 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む ところ
神の住まいに

729 kotumisanke wa,
コトゥミサンケ ワ、
戦闘を起こす（接続）
戦いを巻き起こして、

730 ‘Kamui ewak i
‘カムイ エワキ
神 住む ところ
『神の住まいの

731 abaha buraye
アバハ ブライエ
戸口 窓
戸口や窓を

732 bita eashkai kuru
ビタ エアシカイ クル
解く できる 人
ほどくことができる者が

733 an wa ne yakne
アン ワ ネ ヤクネ
ある（接続）（繫辞類）（条件）
いたら、

734 Tomisambechi
トミサムベチ
（地名）
トミサンペチの

735 bentapkashi
ベンタナカシ
頂き
頂きの上に、

736 kanto or wano
カント オロ ワノ
天 ところ（起点）
天空から、

737 kamui oro wano
カムイ オロ ワノ
神 ところ（起点）
神々のところから

738 a-orapte
ア・オラフテ
下ろされる
降ろされた

739 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝を

740 arobittano
アロビッタノ
すべて
すべて

741 rebunkuru moshiri
レブンクル モシリ
沖の人 国土
レブンクルの国土へ

742 a-ose wa
ア・オセ ワ
我・背負う（接続）
運んで、

743 ne yakne
ネ ヤクネ
（繫辞類）（条件）
そうしたならば、

744 bes or un chashi
ベシ オロ ウン チャシ
断崖 ところ ある チャシ
断崖にある館の

745 upsororke
ウツソロロケ
懐の中
中で

746 a-emokonno
ア・エモコンノ
我・よく眠る
よく眠る

747 korachi ne
コラチ ネ
ように（繫辞類）
ように安心できる

p. 16

金色の羽の若き姉

- 748 ruwe tab an.
ルウェ タバン:
跡 これ ある
のだ。』
- 749 ari irenka sanke.
アリ イレンカ サンケ。
(引用) 意図 出す
と計略をめぐらせたのです。
- 750 Ne wa am be
ネ ワ アム ベ
(繫辞類) (接続) ある もの
その計略に
- 751 inne utar
インネ ウタラ
大勢である 人々
大勢の者たちが
- 752 shino ramuoshma
シノ ラムオシマ
まことに 同意する
賛成し、
- 753 eunubetnere.
エウヌベトネレ。
喜ぶ
歓喜したのです。
- 754 Kim kush tumi
キム クシ トウミ
山 通る 戦い
山を通る戦いは
- 755 shinnai kane
シンナイ カネ
異なる (程度)
別のものとして、
- 756 rep kush tumi
レブ クシ トウミ
沖 通る 戦い
沖を通る戦いは
- 757 shinnai kane
シンナイ カネ
異なる (程度)
別のものとして
- 758 yap ko
ヤブ コ
上陸する (条件)
上陸すると、
- 759 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 760 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 761 shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
またとない勇者は
- 762 makan okai i ta
マカン オカイ イ タ
どのように ある ところ (場所)
あるところでは
- 763 a-koyaibasui
ア・コヤイバスイバ
頭を振らされる
何度も頭を振らされ*13
- 764 a-koshiyante wa
ア・コシヤンテ ワ
腹を立てさせられる (接続)
腹を立てさせられ、
- 765 pon ram orowano
ポン ラム オロワノ
小さい 心 (始点)
幼少の頃から
- 766 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 (限定)
戦いばかり、
- 767 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 (限定)
戦闘ばかりの
- 768 eritne shikup
エリトネ シクプ
つらい 成長
歳月を
- 769 ki aine
キ アイネ
する (接続)
おくり、
- 770 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今はようやく
- 771 tumi suikere
トウミ スイケレ
戦い 終わらせる
戦いを終わらせ、
- 772 wem be suikere wa
ウエム ベ スイケレ ワ
悪い もの 終わらせる (接続)
凶事を終わらせて
- 773 yan.
ヤン。
上陸する
上陸しました。
- 774 Koekarino
コエカリノ
巡り合わせて
まさにその時に、

*13 この解釈については未詳。

- 775 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 776 Shinutapkashi
シヌタツカシ
(地名)
シヌタツカに
- 777 oyap tumi
オヤツ トウミ
上陸する 戦い
上陸する戦いに、
- 778 ru hontom ta
ル ホントム タ
道 途中 (場所)
道の途中で
- 779 koekari.
コエカリ.
出会う
遭遇したのです。
- 780 Oro ta eashiri
オロ タ エアシリ
ところ (場所) それこそ
そこでようやく、
- 781 echi-keushutu
エチ・ケウシュトゥ
汝ら・伯父
あなたたちの伯父が
- 782 echi-eikasui
エチ・エイカスイ
汝ら・手助けする
あなたたちの援助をした
- 783 arwem bito
アラウエム ビト
極悪の 人
性悪の人間、
- 784 arhoiyop
アラホイヨフ
乱心者
邪心を抱く人間
- 785 ne katu
ネ カトゥ
(繫辞類) 様子
であることを
- 786 eraman wa
エラマン ワ
知る (接続)
知って、
- 787 taban tumunchi
タバン トウムンチ
この 戦争
その戦いは、
- 788 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチの
- 789 toop bet etoko
トオフ ベト エトコ
ずっと遠く 川 前方
ずっと川の源流の
- 790 kamui shikuma
カムイ シクマ
神 横山
神の如き横山、
- 791 kamui kar iwa
カムイ カラ イワ
神 つくる 岩山
神がこしらえた岩山、
- 792 iwa tapkashi
イワ タツカシ
岩山 頂き
その岩山の頂に
- 793 taban tumunchi
タバン トウムンチ
この 戦争
戦いの場が
- 794 koenoye wa
コエノイエ ワ
寄る (接続)
移ってきて、
- 795 tumi koro humi tap
トウミ コロ フミ タツ
戦い 持つ 音 これ
戦闘する物音を
- 796 tun a-ne
トゥン ア・ネ
二人 我・(繫辞類)
私たち二人は
- 797 a-nu humi ne.
ア・ヌ フミ ネ.
我・聞く 音 (繫辞類)
聞いたのです。
- 798 E-keushutu
エ・ケウシュトゥ
汝・伯父
あなたの伯父は
- 799 okkai bakno
オクカイ バクノ
男 まで
一人前の男に
- 800 e-shikup chiki
エ・シクフ チキ
汝・成長する (条件)
あなたが育ったならば、
- 801 e-ehayok
エ・エハヨク
汝・武装する
あなたが武装し、
- 802 e-eshibopke p
エ・エシボツケ ヲ
汝・身に着ける もの
身を固めるもの、

金色の羽の若き姉

- 803 imut hene
イムト ヘネ
腰に差す (例示)
腰に差すものも、
- 804 amip hene
アミフ ヘネ
着物 (例示)
着物も
- 805 nep ne yakka
ネフ ネ ヤクカ
何 (繫辞類) (譲歩)
何もかも、
- 806 kanto oro wano
カント オロ ワノ
天 ところ (起点)
天空から、
- 807 kamui oro wano
カムイ オロ ワノ
神 ところ (起点)
神々のところから
- 808 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチの
- 809 bentapkashi
ベンタフカシ
頂き
頂きの上に
- 810 a-orapteba kuni p
ア・オラプテバ クニ フ
下ろされる すべき もの
降ろされたものを
- 811 kani karauto
カニ カラウト
金 唐櫃
金の唐櫃に
- 812 oro o wa
オロ オ ワ
ところ 入れる (接続)
入れて
- 813 e-koshikkashima*¹⁴ ambe
エ・コシクカシマ アムベ
汝・守る あること
あなたのためにとっておいた物
- 814 ne yakka
ネ ヤクカ
(繫辞類) (譲歩)
であつても、
- 815 obittano
オビトタノ
皆
すべて
- 816 eikka wa
エイッカ ワ
盗む (接続)
盗み出し、
- 817 anihi mi kane
アニヒ ミ カネ
彼 着る (程度)
自分が着て
- 818 an ruwe ne.
アン ルウェ ネ.
ある 跡 (繫辞類)
いるのです。
- 819 Ouse e-eshibopke p
オウセ エ・エシボフケ フ
ただ 汝・身に着ける もの
あなたの装束は
- 820 e-shiyuk
エ・シユク
汝・身に着ける
あなたが身に着けて
- 821 kushkeraibo
クシケライボ
おかげで
こそ
- 822 pirika apkoro
ピリカ アフコロ
よい ように
美しいように
- 823 a-nukar
ア・ヌカラ
我・見る
思い
- 824 ruwe ne.
ルウェ ネ.
跡 (繫辞類)
ます。
- 825 Tap nahun
タフ ナフン
これ たった今
たった今、
- 826 arhorebashi
アラホレバシ
沖から
遙か沖から
- 827 yan wa
ヤン ワ
上陸する (接続)
上陸して、
- 828 a-koro pon etubok bakno
ア・コロ ポン エトウボク バクノ
我・持つ 小さい 軒 まで
私たちの小さな家の軒まで
- 829 ek be anakne
エク ベ アナクネ
来る ものは
やって来た者は、

*¹⁴ ekoshikkashishimare と書かれているが、e-koshikkashima と解釈する。なお、koshikkashimare という動詞を認めるべきかは、検討の余地がある。

- 830 **atuikorokamui**
アトゥイコロカムイ
海の神
海の神、
- 831 **base kamui**
バセ カムイ
重い 神
尊い神であり、
- 832 **ainu kotan**
アイヌ コタン
人間 村
人間の村、
- 833 **yaunkuru kotan**
ヤウンクル コタン
内地人 村
ヤウンクルの村に
- 834 **eyan kusu**
エヤン クス
上陸する (理由・目的)
上陸して、
- 835 **i-koasuranu kusu**
イ・コアスラヌ クス
我・知らせる (理由・目的)
私たちに知らせを持って
- 836 **ek humi ne.**
エク フミ ネ.
来る 音 (繫辞類)
きたのです。
- 837 **Ponyayepirika**
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 838 **pon e-koro yubi**
ポン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少のあなたの兄は
- 839 **hushkotoi wano**
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
長い間、
- 840 **tumunchi batek**
トゥムンチ バテク
戦争 (限定)
戦いばかり、
- 841 **rorumbe batek**
ロルムベ バテク
戦闘 (限定)
戦闘ばかりの
- 842 **eritne shikup be**
エリトネ シクプ ベ
つらい 成長する もの
歳月をおくったもの
- 843 **ne kusu**
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 844 **tane anakne**
タネ アナクネ
今 は
今はもう、
- 845 **oar shinki wa**
オアラ シンキ ワ
全く 疲れる (接続)
ひどく疲れて、
- 846 **tumunchi hontom**
トゥムンチ ホントム
戦争 途中
戦いの途中で
- 847 **a-eapte kotomno**
ア・エapte コトムノ
危ぶまれる ように
敗れてしまいそうに
- 848 **iramu-an na.**
イラム・アン ナ.
思われる ぞ
思われます。
- 849 **Neino ne yakne**
ネイノ ネ ヤクネ
ように (繫辞類) (条件)
ですから、
- 850 **tu rebumbe**
トゥ レブムベ
二つの 沖の人
悪人のレブンペ
- 851 **utar orke**
ウタラ オロケ
たち ところ
たちは
- 852 **uinnere p**
ウインネレ プ
大勢である もの
大勢いるもの
- 853 **ne kusu**
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 854 **yaunkuru kotan**
ヤウンクル コタン
内地人 村
ヤウンクルの村が
- 855 **a-eyam ruwe ne na.**
ア・エyam ルウェ ネ ナ.
心配される 跡 (繫辞類) ぞ
心配です。
- 856 **‘Orotunashno**
‘オロトゥナシノ
一刻も早く
『はやく、
- 857 **kakkok tonomat**
カクコク トノマト
郭公 婦人
郭公の女神、

金色の羽の若き姉

- 858 ainu okkaipo
アイヌ オッカイポ
人間 男の子
人間の男の子、
- 859 chikatunashka
チカトウナシカ
急いで助ける
急いで駆けつけて
- 860 ekarkar wa kore
エカラカラ ワ コレ
する (接続) 与える
いただきたい
- 861 kunak ramu yan.
クナク ラム ヤン.
(引用) 思う (命令)
のです。
- 862 Shine kamui ka
シネ カムイ カ
一つの 神 も
一柱の神も
- 863 hosarba kamui
ホサラバ カムイ
振り向く 神
振り向く神は
- 864 isam kotomno
イサム コトムノ
いない ように
いないように
- 865 iramu-an na.
イラム・アン ナ.
思われる ぞ
『思われます。』
- 866 ari base kamui
アリ バセ カムイ
(引用) 重い 神
と尊い神が
- 867 hawean.
ハウェアン.
言う
言いました。
- 868 Tam be kusu
タム ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 869 taban tewano
タバン テワノ
この これから
これから、
- 870 pon e-koro yubi
ポン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少のあなたの兄の
- 871 kon rorumbe
コン ロルムベ
持つ 戦闘
戦いに、
- 872 tumunchi kurka
トゥムンチ クルカ
戦争 上
戦闘に、
- 873 a-koikaobash
ア・コイカオバシ
我・救援する
私は駆けつける
- 874 ruwe ne
ルウェ ネ
跡 (繫辞類)
ことに
- 875 kusu ne na.
クス ネ ナ.
(理由・目的) (繫辞類) ぞ
します。
- 876 Nekona hawash hene
ネコナ ハワシ ヘネ
どのように 言われる (例示)
どのような声や
- 877 humash hene
フマシ ヘネ
音がする (例示)
物音が
- 878 ki a yakka
キ ア ヤクカ
する 完了 (譲歩)
したとしても、
- 879 iteki moimoike no
イテキ モイモイケ ノ
(禁止) 動く (接続)
決して動かずに
- 880 teta an wa
テタ アン ワ
ここで いる (接続)
ここにいて
- 881 i-kore.
イ・コレ.
我・与える
ください。
- 882 Tumunchi oka
トゥムンチ オカ
戦争 後
戦いが終わった
- 883 an wa ne yakne
アン ワ ネ ヤクネ
ある (接続) (繫辞類) (条件)
ならば、
- 884 ouse
オウセ
ただ
ただ
- 885 irukai batek
イルカイ バテク
しばらくの間 (限定)
しばらくの間だけでも、

- 886 unukar-an nankoro.
ウヌカラ・アン ナンコロ。
会う・我 だろう
会うことができるでしょう。
- 887 Aokai anakne
アオカイ アナクネ
我 は
私は
- 888 nani kamui or un
ナニ カムイ オロ ウン
すぐに 神 ところ (方向)
すぐに神々のもとへ
- 889 oman-an
オマン・アン
行く・我
立ち去る
- 890 kusu ne.
クス ネ。
(理由・目的) (繫辞類)
つもりです。
- 891 Kamui a-ne kusu
カムイ ア・ネ クス
神 我・(繫辞類) (理由・目的)
私は神ですから、
- 892 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神々のところで
- 893 itomnukar kuni p
イトムヌカラ クニ プ
結婚する すべき もの
結婚すべき者
- 894 a-ne.
ア・ネ。
我・(繫辞類)
であるのです。
- 895 Kamui ot ta
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神々のところに
- 896 an-an yakka
アナン ヤクカ
いる・我 (譲歩)
いても、
- 897 nei ta bakno
ネイ タ バクノ
いつ (場所) まで
いつまで
- 898 ne yakka
ネ ヤクカ
(繫辞類) (譲歩)
も、
- 899 usetara
ウセタラ
はつきり
変わることなく、
- 900 e-nukara-an kane
エ・ヌカラ・アン カネ
汝・見る・我 (程度)
あなたを見守りながら
- 901 an-an kusu ne.
アナン クス ネ。
いる・我 (理由・目的) (繫辞類)
いるつもりです。
- 902 Inan hembara
イナン ヘムバラ
どの いつ
いつどんなときも、
- 903 nep ka
ネプ カ
何 も
何か
- 904 e-erannak be
エ・エランナク ベ
汝・心配する もの
気にかかることが
- 905 an i ta
アニ タ
ある とき (場所)
あるときには、
- 906 ramma
ラムマ
いつも
いつも
- 907 chikatunashka
チカトウナシカ
急いで助ける
私は急いで駆けつける
- 908 e-ekarkar-an
エ・エカラカラ・アン
汝・する・我
つもり
- 909 kusu ne.
クス ネ。
(理由・目的) (繫辞類)
です。
- 910 Okkai bakno
オクカイ バクノ
男 まで
あなたが一人前の男に
- 911 e-shikup chiki
エ・シクフ チキ
汝・成長する (条件)
成長したら、
- 912 e-tekekar inau
エ・テケカラ イナウ
汝・作る 木幣
あなたが削った木幣、
- 913 sat shirari boka
サト シラリ ボカ
乾く 麴 さえ
乾いた酒粕でも

金色の羽の若き姉

- 914 tura e-i-y-enomi
トウラ エ・イ・イエノミ
ともに 汝・我・祭る
私を祭って
- 915 ko anakne
コ アナクネ
(条件) は
くれたら、
- 916 bakno a-eyaikobuntek be
バクノ ア・エヤイコブンテク ベ
まで 我・喜ぶ もの
それ以上嬉しいことは
- 917 isam ruwe ne na.
イサム ルウェ ネ ナ.
無い 跡 (繫辞類) ぞ
ありません。
- 918 Tane oar
タネ オアラ
今 全く
今はまだ、
- 919 e-pon kasui.
エ・ボン カスイ.
汝・幼い 甚だしい
あなたは幼すぎます。
- 920 Hayok sakno
ハヨク サクノ
武装 無くて
武装なしに
- 921 tumunchi ot ta
トゥムンチ オト タ
戦争 ところ (場所)
戦いの場に
- 922 e-itura yakka
エ・イトウラ ヤクカ
汝・同行する (譲歩)
あなたがついてきたとしても、
- 923 nep ka raka ka
ネプ カ ラカ カ
何 も 収穫 も
何にも
- 924 isam ruwe ne.
イサム ルウェ ネ.
無い 跡 (繫辞類)
なりません。
- 925 Sonno iyaikipte
ソンノ イヤイクipte
真に 危ない
まことに危険
- 926 ruwe ne na.
ルウェ ネ ナ.
跡 (繫辞類) ぞ
です。
- 927 Pirikano teta
ピリカノ テタ
良く ここで
おとなしく、ここで
- 928 yaishikkashima kane an."
ヤイシクカシマ カネ アン."
自らを守る (程度) ある
避難していなさい。」
- 929 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (程度)
姉はこのように言って、
- 930 i-eshikari.
イ・エシカリ.
我・つかまえる
私を抱きかかえた。
- 931 "Akpo." ari
"アクポ." アリ
弟 (引用)
「弟よ。」と、
- 932 "Sambe." ari
"サムベ." アリ
心臓 (引用)
「心臓よ。」と
- 933 itak kane
イタク カネ
言う (程度)
言って、
- 934 otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 こそ
二回、
- 935 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 こそ
三回と
- 936 i-shikoruye.
イ・シコルイエ.
我・撫でる
私を引き寄せて撫でた。
- 937 A-sannankashi
ア・サンナンカシ
我・顔の上
私の顔に
- 938 i-echopnure
イ・エチヨブヌレ
我・接吻する
口づけをして、
- 939 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
私の上に
- 940 tu nubur nube
トゥ ヌブル ヌベ
二つの 濃い 涙
二つの濃い涙、
- 941 re nubur nube
レ ヌブル ヌベ
三つの 濃い 涙
三つの濃い涙を

- 942 oranke kane.
オランケ カネ。
下るす (程度)
落とした。
- 943 Inu ne wa
イヌ ネ ワ
聞く (繫辞類) (接続)
ただ聞いて
- 944 a-ki p ne koroka
ア・キ ヲ ネ コロカ
我・するもの (繫辞類) (逆接)
ただけではあるが、
- 945 konepkeukata
コネツケウカタ
何ということか
何ということか、
- 946 konepkashita
コネツカシタ
何としたことか
何としたことか、
- 947 eboso kusu
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
なるほど、
- 948 okai-an ruwe
オカイ・アン ルウェ
いる・我 跡
私たちが暮らしている有様を
- 949 a-oyamokte
ア・オヤモクテ
我・不思議に思う
私は不思議に思って
- 950 humi okai rok awa
フミ オカイ ロク アワ
気配 ある (完了) (展開)
いたが、
- 951 sonnoboka
ソンノボカ
本当に
まことに、
- 952 tantebota
タンテボタ
たった今
この場所で、
- 953 ainu a-kor sapo
アイヌ ア・コロ サポ
人間 我・持つ 姉
人間の姉、
- 954 shine tuyor
シネ トウヨロ
一つの 中
同じ腹から
- 955 esap wa
エサツ ワ
出る (接続)
生まれて
- 956 i-reshba p
イ・レシバ ヲ
我・育てるもの
私を育てていた者
- 957 hetap ne
ヘタツ ネ
(疑問) (繫辞類)
こそが、
- 958 kani rap noka
カニ ラツ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 959 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉
- 960 ne ruwe ne kuni
ネ ルウェ ネ クニ
(繫辞類) 跡 (繫辞類) ように
であると
- 961 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 962 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 963 tapne tapne
タツネ タツネ
このように このように
そのような
- 964 ikkewe okai kusu
イクケウエ オカイ クス
元 ある (理由・目的)
理由があつて、
- 965 kakkok sapo
カクコク サポ
郭公 姉
郭公の姉が
- 966 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
私の命を救い、
- 967 chipirikareshu
チピリカレシュ
立派に育てること
私を立派に育てて
- 968 i-y-ekarkar wa
イ・イエカラカラ ワ
我・する (接続)
くれた
- 969 hawash chiki,
ハワシ チキ,
言われる (条件)
ということなので、

金色の羽の若き姉

- 970 “Sapo ohai.”
 “サポ オハイ”
 姉 (感嘆)
 「姉さんよ。」と
- 971 a-raikotenke.
 ア・ライコテンケ。
 我・泣き叫ぶ
 私は泣き喚いた。
- 972 A-chishhaukonna
 ア・チシハウコンナ
 我・泣く声
 私の泣き声が
- 973 tununitara.
 トゥヌニタラ。
 美しい音が響く
 響いた。
- 974 Tane
 タネ
 今
 姉もまた、
- 975 chishekot anke
 チシエコト アンケ
 泣いて倒れる しようとする
 泣いて死んでしまいそうなほど、
- 976 i-kurkashike
 イ・クルカシケ
 我・上
 私の上で
- 977 onoyoise.
 オノヨイセ。
 泣く
 号泣した。
- 978 Tu pirika kuni p
 トウ ピリカ クニ プ
 二つの よい すべき もの
 二つのよいこと、
- 979 re pirika kuni p
 レ ピリカ クニ プ
 三つの よい すべき もの
 三つのよいことを
- 980 i-ebakashnu.
 イ・エバカシヌ。
 我・言い聞かせる
 私に教えた。
- 981 Tap orowa
 タプ オロワ
 これ (始点)
 それから、
- 982 chisoyekatta
 チソイエカトタ
 飛び出す
 家の外に飛び出し、
- 983 uraike tapka
 ウライケ タプカ
 戦場 頂き
 戦いの場へ、
- 984 tumunchi tapka
 トゥムンチ タプカ
 戦争 頂き
 戦闘の場へ
- 985 kohumterkere.
 コフムテレケレ。
 音を走らせる
 音を走らせて飛んでいった。
- 986 Oarar isam
 オアララ イサム
 全く いない
 姉が立ち去った
- 987 okake ta
 オカケ タ
 後 (場所)
 後で、
- 988 a-yaikotuima-
 ア・ヤイコトウイマ・
 我・自ら遠く
 私はあれこれと
- 989 shiramsuye.
 シラムスイエ。
 自分の心を揺らす
 物思いにふけた。
- 990 Oyoyobota
 オヨヨボタ
 (感嘆)
 いまいましい、
- 991 nekona shiko p
 ネコナ シコ プ
 どのように 目がついている もの
 いかなる生まれの者、
- 992 nekona baro p
 ネコナ バロ プ
 どのように 口がついている もの
 いかなる育ちの者が
- 993 tapne a-wenkeushutu
 タプネ ア・ウェンケウシュトゥ
 このように 我・悪い伯父
 悪い伯父、
- 994 a-otuiike ne wa
 ア・オトウイイケ ネ ワ
 我・尻の切れた者 (繫辞類) (接続)
 尻の切れた奴であるのか、
- 995 konep ikkewe
 コネプ イクケウェ
 何 元
 何の理由が
- 996 eonebare
 エオネバレ
 ために
 あって、
- 997 shine chise ta
 シネ チセ タ
 一つの 家 (場所)
 同じ家であるのに、

- 998 shine utat ta
シネ ウタト タ
一つの 人々 (場所)
同じ一族であるのに、
- 999 chiukokeshke
チウコケシケ
嫉まれる
私を嫉むことを
- 1000 i-y-ekarkar*¹⁵
イ・イエカラカラ
我・する
する
- 1001 hawe okai chiki
ハウエ オカイ チキ
声 ある (条件)
なのであろうか、
- 1002 irushka*¹⁶ keutum
イルシカ ケウトウム
怒る 心
と怒りの気持ちを
- 1003 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・持つ
私は抱いた。
- 1004 Nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついているもの
いかなる生まれの者、
- 1005 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついているもの
いかなる育ちの者が、
- 1006 tapne
タプネ
このように
その、
- 1007 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 1008 pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄であるのか、
- 1009 inunukashki
イヌヌカシキ
可哀想に
かわいそうに、
- 1010 a-koiki hawe
ア・コイキ ハウエ
攻撃される 声
攻撃を受けている
- 1011 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
というので、
- 1012 a-chishhaukonna
ア・チシハウコンナ
我・泣く声
私の泣き声が
- 1013 waise kane.
ワイセ カネ.
響く (程度)
響いた。
- 1014 A-matkosanu*¹⁷
ア・マトコサヌ
我・パッと立ち上がる
私はさっと立ち上がり、
- 1015 soyoterke-an.
ソヨテレケ・アン.
外に飛び出す・我
外へ飛び出した。

p. 21

*¹⁵ この語の後に ka と書かれているが、線で抹消されている。*¹⁶ この語の後に keuk と書かれているが、線で抹消されている。*¹⁷ matkosanu に a-が接合する理由については未詳。

第3章

戦闘

3.1 岩山の戦場

- 1016 **Kenash so ka ta**
ケナシ ソ カ タ
木原 平面 上 (場所)
木原の上を、
- 1017 **bashno karip**
バシノ カリフ
よく走る 投げ輪
よく走る投げ輪
- 1018 **a-shikobayar**
ア・シコバヤラ
我・見せかける
のように、
- 1019 **terke-an kane**
テレケ・アン カネ
跳ねる・我 (程度)
私は跳びはねながら
- 1020 **bash-an kane**
バシ・アン カネ
走る・我 (程度)
走って
- 1021 **oman-an aine**
オマン・アン アイネ
行く・我 (接続)
いき、
- 1022 **a-ye manu**
ア・イエ マヌ
言われる という
噂に聞いた
- 1023 **kamui kar iwa**
カムイ カラ イワ
神 つくる 岩山
神のこしらえた岩山、
- 1024 **iwa choroboke**
イワ チョロボケ
岩山 下
その岩山のふもとに
- 1025 **a-koshireba.**
ア・コシレバ.
我・到着する
到着した。
- 1026 **Iwa tapka un**
イワ タフカ ウン
岩山 頂き (方向)
岩山の頂で、
- 1027 **taban tumunchi**
タバン トウムンチ
この 戦争
敵との戦い、
- 1028 **taban rorumbe**
タバン ロルムベ
この 戦闘
敵との戦闘、
- 1029 **oroneambe**
オロネアムベ
そのもの
その音が
- 1030 **koturimimse.**
コトゥリミムセ.
響き渡る
鳴り響いた。
- 1031 **Chish-an hawe**
チシ・アン ハウエ
泣く・我 声
私の泣く声が
- 1032 **kamui riwak ne**
カムイ リワク ネ
神 帰る (繫辞類)
神の昇天のように
- 1033 **uwetunuisse koro**
ウウェトウヌイセ コロ
美しく響く (同時)
響き、
- 1034 **iwa turashi**
イワ トウラシ
岩山 沿って
岩肌に沿って
- 1035 **tek chikirbo**
テク チキリボ
手 足
手足で
- 1036 **a-ereye kane**
ア・エレイエ カネ
我・這う (程度)
這うようにして

金色の羽の若き姉

- 1037 hemesu-an aine
ヘメス・アン アイネ
上る・我 (接続)
私は上り、
- 1038 toop rik ta
トオプ リク タ
ずっと遠く 高所 (場所)
ずっと高いところへ
- 1039 hemesu-an wa
ヘメス・アン ワ
上る・我 (接続)
上って
- 1040 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
眺めたところ、
- 1041 tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
まさしく、
- 1042 nei ta ambe
ネイ タ アムベ
どこ (場所) あること
どこの者たちが
- 1043 koiki*¹ kuni p
コイキ クニ プ
攻撃する ように もの
攻撃をかけているのか、
- 1044 kikir basushke
キキリ バスシケ
虫 湧く
虫が湧き出る
- 1045 ekannayukar.
エカンナユカラ.
ようである
かのような集団である。
- 1046 Num teksam ta
ヌム テクサム タ
集団 すぐそば (場所)
集団の傍らに、
- 1047 kani rap noka
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 1048 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉がおり、
- 1049 tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
まさしく、
- 1050 tumi ne kuni p
トゥミ ネ クニ プ
戦い (繫辞類) すべき もの
戦いというもので
- 1051 kokurkakonna-
コクルカコンナ・
頭の上
頭の上の髪が
- 1052 charke kane.
チャラケ カネ.
散らばる (程度)
乱れている。
- 1053 Teksam ta
テクサム タ
すぐそば (場所)
その傍らで、
- 1054 pon urar tapkop
ボン ウララ タプコフ
小さい 霧 小山
小さな霧の小山が
- 1055 etamani.
エタマニ.
斬りつける
刀を振るっている。
- 1056 Tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 元
二つの霧の中心、
- 1057 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 元
三つの霧の中心を
- 1058 a-kocharikar
ア・コチャリカラ
我・散らす
私は目で散らして見ようとしたが、
- 1059 naani tu sui
ナアニ トウ スイ
まさに 二つの 回
二度、
- 1060 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三度、見ようとしても、
- 1061 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿を
- 1062 a-kar eaikap.
ア・カラ エアイカフ.
我・する できない
見定めることができない。
- 1063 Hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
長い間、

p. 22

*¹ koikip と書かれているが、koiki と解釈する。

- 1064 a-kar aine
ア・カラ アイネ
我・する (接続)
見定めようとしたあげく、
- 1065 urar tum ta
ウララ トウム タ
霧 中 (場所)
霧の中心で
- 1066 a-shiketoko
ア・シケトコ
我・目先
私の目の前が
- 1067 raikosanu.
ライコサヌ.
くらむ
急に暗くなった。
- 1068 A-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
噂に聞いた
- 1069 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 1070 pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄、
- 1071 naa boro p
ナア ボロ プ
まだ 大きい もの
もっと成長した者の
- 1072 hetap ne
ヘタプ ネ
(疑問) (繫辞類)
ことを
- 1073 a-ye hawe
ア・イエ ハウエ
言われる 声
言っている
- 1074 ne kuni
ネ クニ
(繫辞類) ように
のだと
- 1075 a-ramu rokwa
ア・ラム ロクワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 1076 tam ba ne wa
タム バ ネ ワ
この 年 (繫辞類) (接続)
今年あたりに
- 1077 ponno
ポンノ
少し
少し
- 1078 i-turkasuno
イ・トゥルカスノ
我・以上
私を越えて
- 1079 chishikupka p
チシクフカ プ
成長する もの
成長した者であり、
- 1080 kani kosonte
カニ コソソテ
金 小袖
金の小袖を
- 1081 arutomechIU.
アルトメチウ.
身にまとう
身にまとっている。
- 1082 Uwok kani kut
ウウオク カニ クト
引っかけあう 金 帯
金具の付いた帯を
- 1083 etumamkokur-
エトウマムコクル・
胴
胴に
- 1084 saiba kane.
サイバ カネ.
巻く (程度)
巻きつけている。
- 1085 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から拝受した刀で
- 1086 etembokkonna-
エテムボクコンナ・
脇の下
脇の下が
- 1087 chashnatara.
チャシナタラ.
きらびやかである
あざやかに目立っている。
- 1088 Kani pon kasa
カニ ポン カサ
金 小さい 笠
金の小さな兜、
- 1089 kasa rantubep
カサ ラントウベプ
笠 垂れた紐
その兜の紐を
- 1090 yaikoyubu.
ヤイコユブ.
締める
きつく締めている。
- 1091 Kasa kepsam ta
カサ ケプサム タ
笠 端 (場所)
兜の縁で

金色の羽の若き姉

- 1092 **nannubeki**
ナンヌベキ
顔の光
顔が光り、
- 1093 **komaknatara.**
コマクナタラ.
輝いている
明るく輝いている。
- 1094 **Shinki rui be**
シンキ ルイ ベ
疲れる 激しい もの
ひどく疲れている
- 1095 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
らしく、
- 1096 **ibottum konna**
イボトトウム コンナ
顔色 は
顔色は
- 1097 **koshumnatara.**
コシュムナタラ.
萎れている
生気を失っている。
- 1098 **Hushkotoi wano**
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
長い間、
- 1099 **eanno iki p**
エアンノ イキ プ
激しく する もの
激しく戦っていたもの
- 1100 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1101 **ramkobashtep**
ラムコバシテプ
宝刀
宝刀の
- 1102 **sannip kashi**
サンニプ カシ
刀の柄 上
柄の上に
- 1103 **hushko ush be**
フシコ ウシ ベ
以前 付く もの
古く付いた血は
- 1104 **kunne ushi ne**
クンネ ウシ ネ
黒い ところ (繫辞類)
黒い血糊となって
- 1105 **chikochubu.**
チコチュブ.
覆う
柄を覆っている。
- 1106 **Ashiri ush be**
アシリ ウシ ベ
新しい 付く もの
新しく付いた血は
- 1107 **hure ushi*2 ne**
フレ ウシ ネ
赤い ところ (繫辞類)
赤い血糊となって
- 1108 **chikochubu kane.**
チコチュブ カネ.
覆う (程度)
柄を覆っている。
- 1109 **Tumi ne kuni p**
トゥミ ネ クニ プ
戦い (繫辞類) すべき もの
戦いというもので、
- 1110 **kokurkakonna-**
コクルカコンナ・
頭の上
頭の上の髪が
- 1111 **charke kane.**
チャラケ カネ.
散らばる (程度)
乱れている。
- 1112 **Utar sermak ta**
ウタラ セレマク タ
人々 背後 (場所)
軍勢の背後に、
- 1113 **a-ye manu**
ア・イエ マヌ
言われる という
噂に聞いた
- 1114 **a-wenkeushutu**
ア・ウェンケウシュトゥ
我・悪い伯父
悪い伯父、
- 1115 **a-otuiike**
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
尻の切れた奴がおり、
- 1116 **okutchi urar**
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめた霧、
- 1117 **urar tumu**
ウララ トウム
霧 中
その霧の中を
- 1118 **a-shikechari**
ア・シケチャリ
我・目で散らす
私は目で散らして

p. 23

*2 始め ushbe と書かれたが、ush に訂正されている。ush は ushi の誤記とみられる。

- 1119 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 1120 boro shikup kuru
ボロ シクフ クル
大きい 成長する 人
大きな成人の男が
- 1121 kani kosonte
カニ コソソテ
金 小袖
金の小袖を着ており、
- 1122 kotbar ka ta
コトバラ カ タ
襟元 上 (場所)
小袖の襟元と
- 1123 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 (場所)
裾には、
- 1124 sep birankani
セフ ビランカニ
幅広い 平金
幅の広い平金が
- 1125 chiekarbare.
チエカラバレ.
取り囲む
取り付けられている。
- 1126 Birankani kashi
ビランカニ カシ
平金 上
平金の上は
- 1127 tu kani shiriki
トゥ カニ シリキ
二つの 金 模様
二つの金の模様、
- 1128 re kani shiriki
レ カニ シリキ
三つの 金 模様
三つの金の模様で
- 1129 chietomte.
チエトムテ.
輝いている
輝いている。
- 1130 Tabup^{*3} ka wa
タブフ カ ワ
肩 上 (起点)
肩の上から
- 1131 ratki etor
ラトキ エトロ
垂れ下がる 木鈴
垂れ下がった木鈴が、
- 1132 imi noshki
イミ ノシキ
着物 真中
着物の真中で
- 1133 chikoetuiba
チコエトウイバ
切られる
切り揃えたように並び、
- 1134 imi noshki wa
イミ ノシキ ワ
着物 真中 (起点)
着物の真中から
- 1135 ratki etor
ラトキ エトロ
垂れ下がる 木鈴
垂れ下がった木鈴が、
- 1136 imi chinki ka
イミ チンキ カ
着物 裾 上
着物の裾の上を
- 1137 chikoesaiba p
チコエサイバ フ
取り巻いている もの
取り巻いている衣装を
- 1138 imikanere.
イミカネレ.
上に着る
上に着ている。
- 1139 Uwok kani kut
ウウオク カニ クト
引っかかりあう 金 帯
金具の付いた帯を
- 1140 tumam kosaiba.
トゥマム コサイバ.
胴体 巻く
胴に巻きつけている。
- 1141 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から拝受した刀は
- 1142 shirika tanne-
シリカ タンネ・
表面 長く
鞘が長く
- 1143 teshba kane.
テシバ カネ.
反らせる (程度)
反っている。
- 1144 Shirika ka ta
シリカ カ タ
表面 上 (場所)
鞘の上には、
- 1145 kanna kamui
カンナ カムイ
上 神
雷神の

^{*3} tabup は tapuk (他方言の takup に対応する形) の誤記とされる (ユ集 II, p.204) が、原ノートの表記のままとする。

金色の羽の若き姉

- 1146 umurek kamui
ウムレク カムイ
夫婦 神
夫婦の神が
- 1147 usaikonoiba.
ウサイコノイバ.
絡み合う
絡みついている。
- 1148 Binne kamui
ビンネ カムイ
雄 神
男神は
- 1149 seppa rar kan
セツパ ララ カン
鏝 縁 上
鏝の縁の上に
- 1150 kokiraurikikur-
コキラウリキクル・
角を高く
角を高々と
- 1151 bumba kane
ブムバ カネ
上げる (程度)
あげ、
- 1152 matne kamui
マトネ カムイ
雌の 神
女神は
- 1153 konotomare
コノトマレ
顎を差し交わす
それに顎を載せ、
- 1154 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 光
神光が
- 1155 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
明るく輝いている。
- 1156 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私はそれを好ましく
- 1157 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ.
我・思う
思った。
- 1158 Shirika noshki ta
シリカ ノシキ タ
表面 真中 (場所)
鞞の真中には、
- 1159 kani pon horkeu
カニ ボン ホロケウ
金 小さい 狼
金の小さな狼がおり、
- 1160 kani kishki
カニ キシキ
金 毛
金の毛皮、
- 1161 kishki kurka
キシキ クルカ
毛 上
その毛皮の表面は
- 1162 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 1163 eshimaka ko
エシマカ コ
輝く (条件)
輝いており、
- 1164 sar otuima-
サラ オトウイマ・
尾 遠く
尻尾を長く
- 1165 anu kane.
アヌ カネ.
置く (程度)
伸ばしている。
- 1166 Shiknu kamui ne
シクヌ カムイ ネ
生きている 神 (繫辞類)
生きている神のように
- 1167 yayewakte.
ヤイエワクテ.
居座る
居座っている。
- 1168 Shirika kesh ta
シリカ ケシ タ
表面 末端 (場所)
鞞の端では、
- 1169 satkimotbe
サトキモトベ
夏の狐
夏の狐が
- 1170 kep ne tumam
ケプ ネ トウマム
裸毛 (繫辞類) 胴体
毛の抜けた身体を
- 1171 iyeunu.
イイエウヌ.
付ける
付けている。
- 1172 Tumam kashike
トウマム カシケ
胴体 上
身体の上には、
- 1173 tu kap koiriri
トゥ カプ コイリリ
二つの 皮 波
二つの皮の皺、

- 1174 re kap koiriri
レ カフ コイリリ
三つの皮波
三つの皮の皺が
- 1175 tu sakma kunne
トゥ サクマ クンネ
二つの横木 ように
二つの横木のように、
- 1176 re sakma kunne
レ サクマ クンネ
三つの横木 ように
三つの横木のように
- 1177 chishiturbare.
チシトゥルバレ.
伸びる
伸びている。
- 1178 Bokna nirushi
ボクナ ニルシ
下方の 歯茎
下の歯茎が
- 1179 kanna nirushi
カンナ ニルシ
上 歯茎
上の歯茎を
- 1180 chiekasure.
チエカスレ.
凌ぐ
過ぎて交叉している。
- 1181 Kep ne kisara
ケフ ネ キサラ
裸毛 (繫辞類) 耳
毛の抜けた耳、
- 1182 kisar etupshi
キサラ エトゥプシ
耳 先端
その耳の先端には、
- 1183 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 1184 chiekotbakar.
チエコトバカラ.
付く
抜け残っている。
- 1185 Shiknu kamui ne
シクヌ カムイ ネ
生きている 神 (繫辞類)
生きている神のように、
- 1186 shik tum konna
シク トウム コンナ
目 中 は
目の中は
- 1187 kunaibe tom ne.
クナイベ トム ネ.
クナイベ 色 (繫辞類)
正気ではない。
- 1188 Sar motochi
サラ モトチ
尾 脊髄
尻尾の付け根にも、
- 1189 sar etupshi
サラ エトゥプシ
尾 先端
尻尾の先端にも、
- 1190 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 1191 chiekote kane.
チエコテ カネ.
結びついている (程度)
抜け残っている。
- 1192 Shiknu kamui
シクヌ カムイ
生きている 神
生きている神として
- 1193 chiewakte.
チエワクテ.
居座る
居座っている。
- 1194 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私はそれを好ましく
- 1195 a-uwesuye.
ア・ウウェスイエ.
我・思う
思った。
- 1196 Kabarbe kasa
カバラベ カサ
薄造りの物 笠
伯父は薄造りの兜、
- 1197 kasa rantubep^{*4}
カサ ラントゥベフ
笠 垂れた紐
その兜の紐を
- 1198 yaikoyubu.
ヤイコユブ.
締める
きつく締めている。
- 1199 A-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
噂に聞いた
- 1200 aeshibopkep
アエシボフケフ
装束
装束は

*4 この語の前に ka と書かれているが、線で抹消されている。

金色の羽の若き姉

- 1201 irayapka
イラヤツカ
人を感じさせる
何と
- 1202 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しいこと
- 1203 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
かと、
- 1204 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚きの気持ちを
- 1205 a-yaikore kane.
ア・ヤイコレ カネ。
我・持つ (程度)
私は抱いた。
- 1214 Homatpa rui be
ホマトパ ルイ ベ
驚く 激しい もの
ひどく驚いたもの
- 1215 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
だから、
- 1216 inkan ruwe konna
インカン ルウェ コンナ
見る 跡 は
こちらを見て、
- 1217 chainatara.
チャイナタラ。
目を見開いている
大きく目を見開いた。
- 1218 Pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1219 konep kamuye
コネプ カムイェ
何 神
いかなる神、
- 1220 konep bitoho
コネプ ビトホ
何 人
いかなる貴人を
- 1221 koshikraiba p
コシクライバ プ
目撃する もの
目撃したの
- 1222 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ
する だろう (疑問)
だろうか、
- 1223 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 元
二つの霧の中心、
- 1224 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 元
三つの霧の中心を
- 1225 i-kocharikar.
イ・コチャリカラ。
我・払う
私に対して散らした。
- 1226 Naani tu sui
ナアニ トウ スイ
まさに 二つの 回
二度、
- 1227 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三度、散らしても、

3.2 ポイヤウンペの参戦

- 1206 A-chishhaukonna
ア・チシハウコンナ
我・泣く声
私の泣き声が
- 1207 tununitara.
トゥヌニタラ。
美しい音が響く
響いた。
- 1208 Ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 1209 pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄と、
- 1210 kani rap noka
カニ ラッ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 1211 pon a-koro sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は
- 1212 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に
- 1213 i-kohosarba.
イ・コホサラバ。
我・振り返る
私の方へ振り向いた。

p. 25

- 1228 ainu kat ne
アイヌ カト ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿として
- 1229 i-kar eaikap.
イ・カラ エアイカプ.
我・する できない
私を見定めることができない。
- 1230 Hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
長い間、
- 1231 i-kar aine
イ・カラ アイネ
我・する (接続)
私を見定めようとしたあげく、
- 1232 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神、
- 1233 ene am bito
エネ アム ビト
このように ある 人
このような貴人が
- 1234 hem shiehose
ヘム シエホセ
(否定) 自分をさしおく
自らを差し置いて、
- 1235 konep kamuye
コネプ カムイェ
何 神
いかなる神、
- 1236 konep bito
コネプ ビト
何 人
いかなる貴人を
- 1237 reka kuni p
レカ クニ プ
褒める すべき もの
称賛するもの
- 1238 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ
する だろう (疑問)
であろうか、
- 1239 i-tukaribo
イ・トゥカリボ
我・前
私の手前へ
- 1240 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を低く
- 1241 atte kane.
アトテ カネ.
たたせる (程度)
落としている。
- 1242 Huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 (起点)
隅々まで
- 1243 i-uwambare kane.
イ・ウワムバレ カネ.
我・調べる (程度)
私を眺めた。
- 1244 Pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は、
- 1245 terke tuika ta
テレケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
跳ね回りながら、
- 1246 ene itak i:—
エネ イタキ:—
このように 言う こと
このように言った。
- 1247 “Usaine tap sui
“ウサイネ タッ スイ
(呼びかけ) これ 再び
「これはこれは、
- 1248 a-reshu akpo
ア・レシュ アクポ
我・育てる 弟
私が育てた弟、
- 1249 kamui ne am be
カムイ ネ アム ベ
神 (繫辞類) ある もの
神である者、
- 1250 chikoitakkashi*⁵
チコイタクカシ
言葉に背く
言い付けに背くことを
- 1251 i-y-ekarkar shiri
イ・イエカラカラ シリ
我・する 様子
するの
- 1252 okai be ne ya.
オカイ ベ ネ ヤ.
ある もの (繫辞類) (疑問)
ですか。
- 1253 Sonno
ソンノ
真に
まことに
- 1254 ene hetap ne
エネ ヘタッ ネ
このように (疑問) (繫辞類)
驚きました、

*⁵ chiko itakashi と書かれているが、chikoitakkashi と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 1255 e-bakashnu*⁶
エ・バカシヌ
汝・言い聞かせる
あなたを教え諭した
- 1256 hawe an awa
ハウエ アン アワ
声 ある (展開)
のに、
- 1257 nani i-oshi
ナニ イ・オシ
すぐに 我・後
すぐに私の後から
- 1258 e-ek wa
エ・エク ワ
汝・来る (接続)
やって来て
- 1259 ene*⁷ shiriki i
エネ シリキ イ
このように そのような有様である こと
このようにするの
- 1260 tam be ne ya.
タム ベ ネ ヤ.
この もの (繫辞類) (疑問)
ですか。
- 1261 Shibopke sakno
シボプケ サクノ
着る物 無くて
装束を着ることもなく、
- 1262 hayok sakno
ハヨク サクノ
武装 無くて
武装することもなく、
- 1263 chikai hekachi
チカイ ヘカチ
背負われる 子供
背負われた子供、
- 1264 chikai teinep
チカイ テイネプ
背負われる 赤子
背負われた幼児である
- 1265 e-ne wa
エ・ネ ワ
汝・(繫辞類) (接続)
あなたが、
- 1266 taban
タババン
この
この
- 1267 yupke tumunchi ot ta
ユプケ トムンチ オト タ
強い 戦争 ところ (場所)
激しい戦いの場に
- 1268 e-ek wa
エ・エク ワ
汝・来る (接続)
やって来て、
- 1269 nekona e-iki kusu.
ネコナ エ・イキ クス.
どのように 汝・する (理由・目的)
どうするというのでしょうか。
- 1270 Oar iyaikipte na.
オアラ イヤイキプテ ナ
全く 危ない ぞ.
とても危険です。
- 1271 Hetak hoshibi
ヘタク ホシビ
さあ 帰る
さあ帰り
- 1272 kunak ramu yan.
クナク ラム ヤン.
(引用) 思う (命令)
なさい。
- 1273 Sonno iyaikipte.
ソンノ イヤイキプテ.
真に 危ない
まことに危険です。
- 1274 Chikeure iwa turashi
チケウレ イワ トウラシ
削られる 岩山 沿って
削られた険しい岩に沿って、
- 1275 nekona e-iki wa
ネコナ エ・イキ ワ
どのように 汝・する (接続)
どのようにして
- 1276 e-hemesu
エ・ヘメス
汝・上る
上ってきた
- 1277 ruwe ta an.”
ルウェ タ アン.”
跡 これ ある
のですか。」
- 1278 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (程度)
姉はこのように言って、
- 1279 shino
シノ
まことに
とても
- 1280 iyokunure koroka
イヨクヌレ コロカ
驚く (逆接)
驚いたが、
- 1281 ashba kisar
アシバ キサラ
聞こえない 耳
私は聞こえない

p. 26

*⁶ e-bakashnu-an の誤記の可能性があるが、原ノートの表記のままとする。

*⁷ この語の前に ish と書かれているが、線で抹消されている。

- 1282 a-itudanure.
ア・イトウタヌレ。
我・向ける
ふりをした。
- 1283 Tu utar kama
トゥ ウタラ カマ
二つの 人々 越える
二つの集団の背後から、
- 1284 re utar kama
レ ウタラ カマ
三つの 越える 越える
三つの集団の背後から、
- 1285 a-wenkeushutu
ア・ウェンケウシュトゥ
我・悪い伯父
悪い伯父に対して
- 1286 a-koyairire*⁸
ア・コヤイリレ
我・背を高くする
私は背を伸ばしたり、
- 1287 a-koyairamte.
ア・コヤイラムテ。
我・自らを低くする
背を低くしたりした。
- 1288 A-chishhaukonna
ア・チシハウコンナ
我・泣く声
私の泣き声
- 1289 tununitara.
トゥヌニタラ。
美しい音が響く
響いた。
- 1290 A-wenkeusutu*⁹
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父は、
- 1291 i-koshikraiba p
イ・コシクライバ プ
我・見る もの
私を目撃すると、
- 1292 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 (起点)
隅々まで
- 1293 i-uwambare.
イ・ウワムバレ。
我・調べる
私を眺めた。
- 1294 Katu*¹⁰ ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 (繋辞類) (程度)
あたりまえに、
- 1295 i-ehomatu p
イ・エホマトウ プ
我・驚く もの
私に驚くもの
- 1296 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (条件)
であるならば、
- 1297 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 1298 inkan ruwe konna
インカン ルウェ コンナ
見る 跡 は
こちらを見て
- 1299 chainatara.
チャイナタラ。
目を見開いている
大きく目を見開いた。
- 1300 Inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である すべき もの
大勢の者たちが
- 1301 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
私の方へ
- 1302 shikomareba.
シコマレバ。
見つめる
目を向けた。
- 1303 Yayan pon kasa
ヤヤン ボン カサ
普通の 小さい 笠
並みの小さな兜を
- 1304 a-yaikoante
ア・ヤイコアンテ
我・脱ぐ
私は脱いで、
- 1305 a-wenkeusutu
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父の
- 1306 kobake un wa
コバケ ウン ワ
方向 (方向) (起点)
方へ向かって
- 1307 a-tuimabaru
ア・トゥイマバル
我・遠く扇ぐ
遠く扇ぎ、

*⁸ akoyairiri と書かれているが、a-koyairire と解釈する。*⁹ awen kusutu と書かれているが、a-wenkeusutu と解釈する。*¹⁰ kutu と書かれているが、katu と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 1308 a-hankebaru.
ア・ハンケバル.
我・近く扇ぐ
近く扇いだ。
- 1309 Iki-an awa
イキ・アン アワ
する・我 (展開)
すると、
- 1310 a-wenkeusutu
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父の
- 1311 tumam kashike ta
トゥマム カシケ タ
胴体 上 (場所)
胴の上で、
- 1312 uwok*¹¹ kani kut
ウウオク カニ クト
引っかけあう 金 帯
金具の付いた帯が
- 1313 ochibita humi
オチビタ フミ
ほどける 音
ほどける音、
- 1314 usura humi
ウスラ フミ
互いを離す 音
離れる音が
- 1315 naikosanu.
ナイコサヌ.
鳴り響く
金属の響きをたてた。
- 1316 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から拝受した刀、
- 1317 kabarbe kasa
カバラベ カサ
薄造りの物 笠
薄造りの兜は
- 1318 renka i ne
レンカ イ ネ
意向 こと (繫辞類)
みずからの意志に従って
- 1319 chiebittekka.
チエビトテッカ.
外れる
身体から外れた。
- 1320 Kani kosonte
カニ コソント
金 小袖
金の小袖
- 1321 ne yakka
ネ ヤッカ
(繫辞類) (護歩)
も、
- 1322 renka i ne
レンカ イ ネ
意向 こと (繫辞類)
みずからの意志に従って
- 1323 chihobunire yak
チホブニレ ヤク
起きる と
起き立ったように
- 1324 a-ramu.
ア・ラム.
我・思う
私は思った。
- 1325 A-tumamka ta
ア・トゥマムカ タ
我・胴の上 (場所)
私の胴の上で、
- 1326 yayan kut
ヤヤン クト
普通の 帯
並みの帯が
- 1327 tuitui humi
トゥイトウイ フミ
切れる 音
切れる音が
- 1328 chaukosanu.
チャウコサヌ.
鳴る
鳴った。
- 1329 Yayan kosonte
ヤヤン コソント
普通の 小袖
並みの小袖が
- 1330 an-etobake wa
アネトバケ ワ
我・身体 (接続)
私の身体から
- 1331 chiebittekka.
チエビトテッカ.
外れる
離れた。
- 1332 Onitasa
オニタサ
交代して
それと入れ替わって、
- 1333 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
私の身体の上には、
- 1334 kani kosonte
カニ コソント
金 小袖
金の小袖の

*¹¹ 始め wwok と書かれたが、wok に訂正されている。wok は uwok の誤記とみられる。

- 1335 boro konniki
ボロ コンニキ
大きい 畳んだもの
大きな布が
- 1336 chiebirasa.
チエビラサ.
広がる
ひろがった。
- 1337 Uwok kani kut
ウウォク カニ クト
引っかけあう 金 帯
金具の付いた帯が
- 1338 a-tumamkashi
ア・トゥマムカシ
我・胴の上
私の胴に
- 1339 chikosaiba.
チコサイバ.
取り巻く
巻きついた。
- 1340 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から拝受した刀を
- 1341 a-kutbokechiutek
ア・クトボケチウテク
我・帯に差す
私はさっと帯に差し、
- 1342 kabarbe kasa
カバラベ カサ
薄造りの物 笠
薄造りの兜、
- 1343 kasa rantubep^{*12}
カサ ラントウベパ
笠 垂れた紐
その兜の紐を
- 1344 a-yaikoyubu kane.
ア・ヤイコユブ カネ.
我・体に締める (程度)
きつく締めた。
- 1345 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 1346 hoshki am be
ホシキ アム ベ
先に ある もの
以前よりも
- 1347 poombepo ne
ポオムベポ ネ
ほんの少し (繫辞類)
なお一層、
- 1348 tane^{*13} iyotta
タネ イヨッタ
今 最も
今は、最も
- 1349 pirika-an kotom ne
ピリカ・アン コトム ネ
美しい・我 ようである (繫辞類)
美しさを備えているらしく、
- 1350 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめた霧、
- 1351 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
その霧の中に
- 1352 a-yayomare.
ア・ヤヨマレ.
我・自らを入れる
私は身体を入れている。
- 1353 I-bishkanike
イ・ビシカニケ
我・周囲
私の周囲では、
- 1354 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 1355 eshimaka.
エシマカ.
輝く
明るく輝いている。
- 1356 A-keusutu
ア・ケウストウ
我・伯父
伯父は
- 1357 atusa numi
アトウサ ヌミ
裸である 身体
裸の身体になり、
- 1358 horewewe kane
ホレウェウエ カネ
尻を曲げる (程度)
尻を曲げて
- 1359 utar sembirke
ウタラ セムビリケ
人々 陰
集団の陰へ
- 1360 yainuinanuina.
ヤイヌイナヌイナ.
隠れる
隠れた。

*12 rantube と書かれているが、rantubep と解釈する。

*13 この語の後に bor と書かれているが、誤記とみなす。

金色の羽の若き姉

- 1361 **Rauki mina**
 ラウキ ミナ
 密かに 笑う
 ひそかな笑い、
- 1362 **rauki sapse**
 ラウキ サフセ
 密かに 笑う
 ひそかな嘲笑を
- 1363 **a-uwesuye.**
 ア・ウエスイエ.
 我・思う
 私は浮かべた。
- 1364 **Tanebo konna**
 タネボ コンナ
 今 は
 今はもう、
- 1365 **a-kor chish**
 ア・コロ チシ
 我・持つ 泣くこと
 私は泣くのを
- 1366 **a-tuye.**
 ア・トゥイエ.
 我・切る
 止めた。
- 1367 **Pon a-kor yubi**
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・持つ 兄
 年少の兄、
- 1368 **pon a-koro sapo**
 ポン ア・コロ サポ
 小さい 我・持つ 姉
 年少の姉は
- 1369 **sonno**
 ソンノ
 真に
 まとこに
- 1370 **shiyorba kuni p**
 シヨロバ クニ プ
 驚嘆する すべき もの
 感嘆したもの
- 1371 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 (繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
 だから、
- 1372 **i-kurkashike**
 イ・クルカシケ
 我・上
 私の方へ
- 1373 **shikomarba.**
 シコマラバ、
 目を向ける
 目を向けている。
- 1374 **Pon a-koro sapo**
 ポン ア・コロ サポ
 小さい 我・持つ 姉
 年少の姉は
- 1375 **terke tuika ta**
 テレケ トウイカ タ
 跳ねる 上 (場所)
 跳ね回りながら、
- 1376 **otu henkuror**
 オトゥ ヘンクロロ
 二つの うなづくこと
 二つのうなづき、
- 1377 **ore henkuror**
 オレ ヘンクロロ
 三つの うなづくこと
 三つのうなづきを
- 1378 **i-koanukar kane.**
 イ・コアナカラ カネ.
 我・置く (程度)
 私に繰り返した。
- 1379 **shietuuina**
 シエトゥウイナ
 鼻を押さえる
 姉は鼻を押さえ、
- 1380 **shibaruina kane:—**
 シバルイナ カネ:—
 口を押さえる (程度)
 口を押さえた。
- 1381 **“Sonno hetap ne**
 “ソンノ ヘタッ ネ
 真に (疑問) (繫辞類)
 「これは現実のことでしょうか、
- 1382 **e-benubur be hene**
 エ・ベヌブル ベ ヘネ
 汝・霊能力が強い もの (例示)
 あなたは霊能力にすぐれた者
- 1383 **ne rok be kusu.**
 ネ ロク ベ クス.
 (繫辞類) (完了) もの (理由・目的)
 なのですね。
- 1384 **Ene bak okai be**
 エネ バク オカイ ベ
 このように まで ある もの
 このような者が、
- 1385 **ituren hetap ne**
 イトゥレン ヘタッ ネ
 憑くこと (疑問) (繫辞類)
 憑き神の力のためか、
- 1386 **konep tap teta**
 コネッ タッ テタ
 何 これ ここで
 何ということでしょう、
- 1387 **ki shiri**
 キ シリ
 する 様子
 このようなことを、
- 1388 **iyoshserkere**
 イヨシセレケレ
 恐るべきことだ
 驚いたことに、

p. 28

- 1389 okai be ne ya.
オカイ ベ ネ ヤ.
あるもの (繫辞類) (疑問)
するのでしょうか。
- 1390 Konep ne kusu
コネプ ネ クス
何 (繫辞類) (理由・目的)
どうして、
- 1391 kamui ari
カムイ アリ
神 (引用)
私は神と
- 1392 a-borose p
ア・ボロセ プ
呼ばれるもの
呼ばれる者
- 1393 a-ne orowa
ア・ネ オロワ
我・(繫辞類) (始点)
なのですが、
- 1394 tuima shit ta
トウイマ シト タ
遠い 場所 (場所)
とても、
- 1395 a-reshu akpo
ア・レシュ アクポ
我・育てる 弟
私が育てた弟の
- 1396 koro ituren
コロ イトゥレン
持つ 憑くこと
憑き神の力には
- 1397 a-mombokashte
ア・モムボカシテ
我・技に劣る
及ばない
- 1398 ruwe ne.”
ルウェ ネ.”
跡 (繫辞類)
のですね。」
- 1399 ari hawokai kane.
アリ ハウオカイ カネ.
(引用) 言う (程度)
姉はこのように言った。
- 1400 Pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1401 tane tane
タネ タネ
今 今
今はもう、
- 1402 i-eshikari anki*14
イ・エシカリ アンキ
我・つかまえる しそうになる
私を抱きかかえそうな
- 1403 iki koroka
イキ コロカ
する (逆接)
様子であるが、
- 1404 montabi p ne kusu
モンタビ プ ネ クス
忙しいもの (繫辞類) (理由・目的)
戦いに忙しいので、
- 1405 i-nukar chiki
イ・ヌカラ チキ
我・見る (条件)
私を見ただけであるが、
- 1406 shik shut konna
シク シュト コンナ
目 根元 こそ
目元に
- 1407 kobuyuse kane.
コブユイセ カネ.
湿らせる (程度)
涙を浮かべている。
- 1408 Kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神から拝受した刀の
- 1409 shirika kese
シリカ ケセ
表面 末端
鞘の末端を
- 1410 a-otuimakur-
ア・オトウイマクル・
我・遠く
私は遠く
- 1411 nimba kane.
ニムバ カネ.
引きずる (程度)
引きずった。
- 1412 A-tumba mai kan
ア・トゥムバ マイ カン
我・鏢 音 上
私の刀の鏢の音が
- 1413 tununitara.
トゥヌニタラ.
美しい音が響く
鳴り響いた。
- 1414 Tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそは、
- 1415 tumi ne manu p
トゥミ ネ マヌ プ
戦い (繫辞類) というもの
戦いというものを

*14 anke と書かれることが多く、幌別方言において anki という語形を認めるべきかは、検討の余地がある。

金色の羽の若き姉

- 1416 a-yaiamkire.
ア・ヤイアムキレ。
我・知る
私は理解した。
- 1417 Pon a-koro sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉の
- 1418 teksamke*15
テクサムケ
傍ら
傍らに
- 1419 a-i-y-ebashte.
ア・イ・イエバシテ。
我・走らされる
私は神の力で走らされた。
- 1420 Inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である すべき もの
大勢の者たちが
- 1421 a-etametoko
ア・エタメトコ
我・その刀の先
私の刀の先で
- 1422 sennatara.
センナタラ。
ズバツと鳴り響く
音を立てて斬られた。
- 1423 Koeramno
コエラムノ
同時に
それと同時に、
- 1424 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 1425 konep kamuye
コネプ カムイエ
何 神
いかなる神、
- 1426 konep bitoho
コネプ ビトホ
何 人
いかなる貴人が
- 1427 i-turen rok wa
イ・トゥレン ロク ワ
我・憑く (完了) (接続)
私に憑いて
- 1428 humash nankor a
フマシ ナンコラ
心配がする だろう (疑問)
いるのか、
- 1429 i-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
私の上空で
- 1430 yashkosanu.
ヤシコサヌ。
裂ける
轟音が鳴った。
- 1431 Tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
二柱の尊い神、
- 1432 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
三柱の尊い神が
- 1433 tu nishte humi
トゥ ニシテ フミ
二つの かたい 音
二つの強固な音、
- 1434 re nishte humi
レ ニシテ フミ
三つの かたい 音
三つの強固な音を
- 1435 i-enka otte
イ・エンカ オトテ
我・上 あらしめる
私の上空で鳴らした。
- 1436 sarekot mawe
サレコト マウエ
尾が付いている 風
尾のついたような風、
- 1437 tu shupne rera
トゥ シュプネ レラ
二つの 渦になっている 風
二つの旋風、
- 1438 re*16 shupne rera
レ シュプネ レラ
三つの 渦になっている 風
三つの旋風が
- 1439 uraike tapka
ウライケ タツカ
戦場 頂き
戦場の上に
- 1440 chiesurure*17
チエスルレ
覆う
吹き荒れた。
- 1441 inne kuni p
インネ クニ プ
大勢である すべき もの
大勢の者たち、

p. 29

*15 teksamake と書かれることが多く、teksamke という語形を認めるべきかは、検討の余地がある。

*16 re は後から書き加えられている。

*17 chesurure と書かれているが、chiesurure と解釈する。

- 1442 hayok wa koshne p
ハヨク ワ コシネ プ
武装する (接続) 軽い もの
武装の軽い者たちは
- 1443 rera etoko
レラ エトコ
風 前方
風の前で
- 1444 komam baru
コマム バル
枯葉 吹き飛ばす
枯れ葉が吹き飛ばされる
- 1445 ekannayukar.
エカンナユカラ.
ようである
かのようなのである。
- 1446 Orhetobo
オロヘトボ
もと来た方へ
そして、今度は逆に、
- 1447 tuima iwa
トゥイマ イワ
遠い 岩山
遠くの岩山、
- 1448 hanke iwa
ハンケ イワ
近い 岩山
近くの岩山、
- 1449 tuima kenash
トゥイマ ケナシ
遠い 木原
遠くの木原、
- 1450 hanke kenash
ハンケ ケナシ
近い 木原
近くの木原の
- 1451 kurkashike
クルカシケ
上
上に
- 1452 chierapte.
チエラapte.
落下している
落とされた。
- 1453 Iwa erai be
イワ エライ ベ
岩山 死ぬ もの
岩で死ぬ者、
- 1454 ni erai be
ニ エライ ベ
木 死ぬ もの
木で死ぬ者、
- 1455 tu kamui rai hum
トゥ カムイ ライ フム
二つの 神 死ぬ 音
二つの神の死ぬ音、
- 1456 re kamui rai hum
レ カムイ ライ フム
三つの 神 死ぬ 音
三つの神の死ぬ音が
- 1457 arukesure.
アルケスレ.
続く
絶え間なく続いた。
- 1458 Oroneambe
オロネアムベ
そのもの
その音が
- 1459 bokna moshiri
ボクナ モシリ
下方の 国土
冥界で
- 1460 koturimimse.
コトゥリミムセ.
響き渡る
鳴り響いた。
- 1461 Pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄、
- 1462 pon a-koro sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は、
- 1463 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 (繫辞類) (程度)
あたりまえに
- 1464 oshserke p
オシセレケ プ
驚く もの
驚くもの
- 1465 ne wa ne yak ne
ネ ワ ネ ヤク ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件) (繫辞類)
であるならば
- 1466 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 1467 shino shino
シノ シノ
まことに まことに
まことに
- 1468 iyokunurba
イヨクヌルバ
驚く
仰天した
- 1469 noine okai.
ノイネ オカイ.
らしく ある
様子である。

金色の羽の若き姉

- 1470 **Inne kuni p^{*18}**
 インネ クニ プ
 大勢である すべき もの
 大勢の者たちは
- 1471 **i-kurkashike**
 イ・クルカシケ
 我・上
 私の上を
- 1472 **uwambare.**
 ウワムバレ.
 見て調べる
 眺め回した。
- 1473 **Tu urar ikkeu**
 トウ ウララ イクケウ
 二つの 霧 元
 二つの靄の中心、
- 1474 **re urar ikkeu**
 レ ウララ イクケウ
 三つの 霧 元
 三つの靄の中心を
- 1475 **i-kocharikarba yakka**
 イ・コチャリカラバ ヤッカ
 我・散らす (譲歩)
 私に対して散らしたが、
- 1476 **an-etobake ka**
 アネトバケ カ
 我・身体 も
 私の身体を
- 1477 **somo nukara.**
 ソモ ヌカラ.
 (否定) 見る
 見ることはできない。
- 1478 **Tekkakibo**
 テクカキボ
 かざした手
 大勢の者たちは手を
- 1479 **rikunruke**
 リクンルケ
 高くかざす
 高くかざし、
- 1480 **raunruke**
 ラウンルケ
 低くかざす
 低くかざし、
- 1481 **ukooshserke hau**
 ウコオシセレケ ハウ
 皆でたまげる 声
 互いに驚きの声
- 1482 **kari kane**
 カリ カネ
 回す (程度)
 を上げて、
- 1483 **shietuuina**
 シエトウウイナ
 鼻を押さえる
 鼻を押さえ、
- 1484 **shibaruina kane:—**
 シバルイナ カネ:—
 口を押さえる (程度)
 口を押さえた。
- 1485 **“Konep tap teta**
 “コネプ タプ テタ
 何 これ ここで
 「何ということか、
- 1486 **Ponyaumbe**
 ポンヤウムベ
 (人名)
 ポイヤウンペ
- 1487 **ari a-borose p**
 アリ ア・ボロセ プ
 (引用) 呼ばれる もの
 と呼ばれる者は
- 1488 **hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 (起点)
 ずっと以前に
- 1489 **a-raike wa**
 ア・ライケ ワ
 殺される (接続)
 殺されて
- 1490 **isam ari**
 イサム アリ
 いない (引用)
 しまったと
- 1491 **hawash awa**
 ハワシ アワ
 言われる (展開)
 いうが、
- 1492 **konewa ek be tapta**
 コネワ エク ベ タプタ
 どこから 来る もの こそ
 どこから来た者が
- 1493 **ibeoko an wa**
 イベオコ アン ワ
 僅かである ある (接続)
 僅かな者で、
- 1494 **ituren hetap**
 イトゥレン ヘタプ
 憑くこと (疑問)
 憑き神の力のためか、
- 1495 **shimoiba hetap**
 シモイバ ヘタプ
 働き (疑問)
 奮戦すること、
- 1496 **moimoike hetap ne**
 モイモイケ ヘタプ ネ
 動き (疑問) (繫辞類)
 奮闘することを、

p. 30

*18 kuni nip と書かれているが kuni p と解釈する。

- 1497 **iramkursere**
イラムクルセレ
恐ろしい
恐ろしいことに、
- 1498 **iramtoinere**
イラムトイネレ
驚く
驚いたことに、
- 1499 **ki shiri okai.”**
キ シリ オカイ.”
する 様子 ある
するのであろうか。」
- 1500 **ari haweokai kane**
アリ ハウエオカイ カネ
(引用) 言う (程度)
大勢の者たちはこのように言って、
- 1501 **uhautaroise.**
ウハウタロイセ.
声が騒がしい
騒いだ。
- 1502 **Makan okai be**
マカン オカイ ベ
どのように ある もの
ある者は
- 1503 **woroma kombu**
ウオロマ コムブ
水に長く漬かった 昆布
水に浸した昆布
- 1504 **shikobayar.**
シコバヤラ.
さながらである
のように顔色を失った。
- 1505 **Yayashish hawe**
ヤヤシシ ハウエ
自ら悔む 声
みずから悔しがる声、
- 1506 **uashish hawe**
ウアシシ ハウエ
互いに悔む 声
互いに悔しがる声
- 1507 **kari kane.**
カリ カネ.
回す (程度)
を出した。
- 1508 **Kurkashike**
クルカシケ
上
その者たちに向かって
- 1509 **a-etuiba**
ア・エトウイバ
斬られる
私は斬りかかり、
- 1510 **a-etata kane.**
ア・エタタ カネ.
我・切り刻む (程度)
斬り刻んだ。
- 1511 **Rametok sak be**
ラメトク サク ベ
勇者 欠く もの
勇者のいない集団、
- 1512 **utarpa sak be**
ウタラパ サク ベ
首領 欠く もの
頭領のいない集団
- 1513 **kone p ne kusu**
コネ プ ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1514 **irukai ne ko**
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繋辞類) (条件)
しばらくすると、
- 1515 **moyo utan ne**
モヨ ウタン ネ
わずかの 人々 (繋辞類)
私は敵の集団を少数に
- 1516 **a-kar.**
ア・カラ.
我・する
した。
- 1517 **A-kar aine**
ア・カラ アイネ
我・する (接続)
そのようにして、
- 1518 **seta kikiri**
セタ キキリ
犬 虫
犬にたかる虫さえも、
- 1519 **toi kikiri**
トイ キキリ
土 虫
土に群がる虫さえも
- 1520 **a-kokerkeri.**
ア・コケレケリ.
削られる
私は残らず殺した。
- 1521 **Tumunchi oka**
トゥムンチ オカ
戦争 後
戦いの後、
- 1522 **rorumbe oka**
ロルムベ オカ
戦闘 後
戦闘の後、
- 1523 **chakkosanu.**
チャクコサヌ.
静まり返る
周囲は静まり返った。

3.3 伯父の最期

- 1524 **Tumunchi mintar**
トウムンチ ミンタラ
戦争 広場
戦場の
- 1525 **kesh ta**
ケシ タ
末端 (場所)
端に、
- 1526 **a-wenkeusutu**
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父がおり、
- 1527 **oar atusa**
オアラ アトウサ
全く 裸である
裸身をさらして、
- 1528 **woroma kombu**
ウオロマ コムブ
水に長く漬かった 昆布
水に浸した昆布
- 1529 **shikobayar.**
シコバヤラ。
さながらである
のように顔色を失っている。
- 1530 **Hottur ka ta**
ホトトウル カ タ
前額 上 (場所)
前額が
- 1531 **kotususatki**
コトウスサトキ
ブルブル震える
ふるえており、
- 1532 **oahuntaiba wa**
オアフンタイバ ワ
腰を抜かす (接続)
腰を抜かして
- 1533 **okai.**
オカイ。
ある
いる。
- 1534 **A-kotetterke awa**
ア・コテテレケ アワ
我・駆け付ける (展開)
私がそこに駆け寄ると、
- 1535 **tu wan onkami**
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 拝礼
二十の拝礼、
- 1536 **re wan onkami**
レ ワン オンカミ
三つの 十の 拝礼
三十の拝礼を
- 1537 **arukakushte.**
アルカクシテ。
重ねる
重ねた。
- 1538 **Tusushke tura**
トウスシケ トウラ
ふるえる ともに
ふるえながら、
- 1539 **itak uturu**
イタク ウトウル
言葉 間
話の途中に
- 1540 **mushish kane.**
ムシシ カネ。
むせる (程度)
むせかえった。
- 1541 **Itak uturu**
イタク ウトウル
言葉 間
話の途中に
- 1542 **rakup kane.**
ラクパ カネ。
途切れる (程度)
咽喉を詰まらせた。
- 1543 **Chish turanno**
チシ トウランノ
泣く ともに
泣きながら
- 1544 **ene itak i:—**
エネ イタキ:—
このように 言う こと
このように言った。
- 1545 **“Koninkar kusu**
“コニンカラ クス
さて (理由・目的)
「これはこれは、
- 1546 **a-karku tono**
ア・カラク トノ
我・甥 殿
私の甥よ、
- 1547 **konep kamuye**
コネプ カムイエ
何 神
いかなる神、
- 1548 **konep bitoho**
コネプ ビトホ
何 人
いかなる貴人に
- 1549 **a-shikatkare kusu**
ア・シカトカレ クス
我・惑わされる (理由・目的)
私は惑わされたのか、
- 1550 **ene an wem buri**
エネ アン ウェム プリ
このように ある 悪い 行い
悪いおこない

- 1551 ne yakka
ネ ヤッカ
(繫辞類) (譲歩)
にしても、
- 1552 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
ただならぬことを
- 1553 a-ki shiri
ア・キ シリ
我・する 様子
した
- 1554 okai yakka
オカイ ヤッカ
ある (譲歩)
のだが、
- 1555 kamui bak buri
カムイ バク ブリ
神 罰する 行い
神が罰するおこない
- 1556 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であったので、
- 1557 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもう、
- 1558 sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 1559 wen chibanakte p
ウェン チバナクテ プ
悪い 罰せられる もの
私はひどい懲らしめを受けた者
- 1560 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・(繫辞類) (理由・目的)
であり、
- 1561 e-koro ituren
エ・コロ イトゥレン
汝・持つ 憑くこと
あなたの憑き神、
- 1562 e-ki shimoye
エ・キ シモイエ
汝・する 働き
あなたの奮戦には、
- 1563 tuima shit ta
トゥイマ シト タ
遠い 場所 (場所)
遠く
- 1564 a-mombokashte.
ア・モムボカシテ.
我・技に劣る
及ばなかった。
- 1565 Sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 1566 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今は、
- 1567 yayababu-an
ヤヤバブ・アン
謝罪する・我
非を認めて、
- 1568 yayunashke-an na.
ヤユナシケ・アン ナ.
謝る・我 ぞ
罪を詫びる。
- 1569 Tane rai kuni p
タネ ライ クニ プ
今 死ぬ すべき もの
私はもう死ぬべき者、
- 1570 tane onne kuni p
タネ オンネ クニ プ
今 老いる すべき もの
年老いた者
- 1571 a-ne na
ア・ネ ナ
我・(繫辞類) ぞ
であるから、
- 1572 i-eramboken wa
イ・エラムボケン ワ
我・憐れむ (接続)
私を憐れに思って、
- 1573 nekona irushka kuni p
ネコナ イルシカ クニ プ
どのように 怒る ように もの
いかにあなたが怒りの気持ちを
- 1574 e-ne a yakka
エ・ネ ア ヤッカ
汝・(繫辞類) 完了 (譲歩)
抱いていたとしても、
- 1575 chishiknukoiki
チシクヌコイキ
生きて罰を受ける
命だけは
- 1576 i-y-ekarkar wa
イ・イエカラカラ ワ
我・する (接続)
奪わないで
- 1577 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える (引用)
くれ
- 1578 ramu yan.”
ラム ヤン.”
思う (命令)
ないか。」

金色の羽の若き姉

- 1579 **ari hawash chiki**
 アリ ハワシ チキ
 (引用) 言われる (条件)
 伯父がこのように言うと、
- 1580 **turush kinra ne**
 トウルシ キンラ ネ
 激しい 狂気 (繫辞類)
 激しい狂気が
- 1581 **i-kohtari.**
 イ・コヘタリ.
 我・頭を上げる
 こみあげてきた。
- 1582 **Tan arka itak**
 タン アラカ イタク
 この 痛い 言葉
 罵りの言葉、
- 1583 **beure itak**
 ベウレ イタク
 若い 言葉
 若々しい言葉、
- 1584 **irushka itak**
 イルシカ イタク
 怒る 言葉
 怒りの言葉を、
- 1585 **iotke shinne**
 イオトケ シンネ
 人を刺す のように
 ものを突くように、
- 1586 **ituye shinne**
 イトウイエ シンネ
 人を斬る のように
 ものを切るように
- 1587 **a-ehautumkonna-**
 ア・エハウトゥムコンナ・
 我・声
 私は声に出し、
- 1588 **tununitara:—**
 トウヌニタラ:—
 響く
 その声が響いた。
- 1589 **“Honebeta**
 “ホネベタ
 何と
 「何を言うのか、
- 1590 **tu sui ye yan**
 トウ スイ イェ ヤン
 二つの 回 言う (命令)
 二回言ってみなさい、
- 1591 **re sui ye yan.**
 レ スイ イェ ヤン.
 三つの 回 言う (命令)
 三回言ってみなさい。
- 1592 **A-nu kusu ne na**
 ア・ヌ クス ネ ナ
 我・聞く (理由・目的) (繫辞類) ぞ
 聞いてあげます。
- 1593 **Achikarata**
 アチカラタ
 いやなことだ
 何と汚らわしいことでしょう、
- 1594 **ayakannata**
 アヤカンナタ
 ろくでもないことだ
 何と忌々しいことでしょう、
- 1595 **a-wenkeusutu**
 ア・ウェンケウストウ
 我・悪い伯父
 悪い伯父、
- 1596 **a-otuiike**
 ア・オトウイイケ
 我・尻の切れた者
 尻の切れた奴、
- 1597 **konep ikkewe**
 コネプ イクケウエ
 何 元
 何の理由が
- 1598 **eonebare**
 エオネバレ
 ために
 あって、
- 1599 **shinrit itak**
 シンリト イタク
 先祖 言葉
 先祖の言葉、
- 1600 **chihoppa itak**
 チホッパ イタク
 残される 言葉
 残された言葉、
- 1601 **itak kurka**
 イタク クルカ
 言葉 上
 その言葉を
- 1602 **kamui turanno**
 カムイ トウランノ
 神 とともに
 神々とともに
- 1603 **e-oterke**
 エ・オテレケ
 汝・踏む
 踏みにじり、
- 1604 **kashike un**
 カシケ ウン
 上 (方向)
 さらには、
- 1605 **kamui ewak i**
 カムイ エワキ
 神 住む ところ
 神の住まいを
- 1606 **e-wente kusu**
 エ・ウェンテ クス
 汝・壊す (理由・目的)
 壊すために、

- 1607 **taban tumunchi**
 タバン トゥムンチ
 この 戦争
 戦いを、
- 1608 **taban rorumbe**
 タバン ロルムベ
 この 戦闘
 戦闘を
- 1609 **Tomisambechi**
 トミサムベチ
 (地名)
 トミサンペチ
- 1610 **Shinutapkashi**
 シヌタツカシ
 (地名)
 シヌタツカに
- 1611 **e-oyanke.**
 エ・オヤンケ.
 汝・上陸する
 巻き起こしたのですか。
- 1612 **Hunabakun sui**
 フナバクン スイ
 いつまで 再び
 幸いにも、
- 1613 **base kamui**
 バセ カムイ
 重い 神
 尊い神が
- 1614 **i-erambokemba kusu**
 イ・エラムボケムバ クス
 我・憐れむ (理由・目的)
 私を憐れに思い、
- 1615 **usa i-reshba-an**
 ウサ イ・レシバ・アン
 (譲歩) 我・育てられる
 私は神に育てられ、
- 1616 **shiknu-an ruwe an.**
 シクヌ・アン ルウェ アン.
 生きている・我 跡 ある
 生きているのです。
- 1617 **Tane bak i ta**
 タネ バク イ タ
 今 まで とき (場所)
 今さら、
- 1618 **tap korachi**
 タツ コラチ
 これ ように
 あなたがそのようなことを
- 1619 **e-hawean yakka**
 エ・ハウエアン ヤッカ
 汝・言う (譲歩)
 言っても、
- 1620 **ponno ka**
 ポンノ カ
 少し も
 何にも
- 1621 **raka isam**
 ラカ イサム
 収穫 無い
 なり
- 1622 **ruwe ne.**
 ルウェ ネ.
 跡 (繫辞類)
 ません。
- 1623 **Hokure inkar yan.**
 ホクレ インカラ ヤン.
 早く 見る (命令)
 さあ、ご覧なさい。
- 1624 **Pirika keutum**
 ピリカ ケウトウム
 よい 心
 よい心、
- 1625 **kamui buri**
 カムイ ブリ
 神 行い
 よいおこないを
- 1626 **e-ki a yakne**
 エ・キ ア ヤクネ
 汝・する 完了 (条件)
 あなたがしていたら、
- 1627 **ona shiri ne**
 オナ シリ ネ
 父 様子 (繫辞類)
 父のように
- 1628 **chipirikanunuke**
 チピリカヌヌケ
 大事にされる
 丁重に
- 1629 **e-ekarkar-an**
 エ・エカラカラ・アン
 汝・される
 扱われ
- 1630 **yakne**
 ヤクネ
 (条件)
 て、
- 1631 **kamui onne**
 カムイ オンネ
 神 古い
 神の如き晩年、
- 1632 **pirika onne**
 ピリカ オンネ
 よい 古い
 よい晩年を
- 1633 **e-ki nankoro be**
 エ・キ ナンコロ ベ
 汝・する だろう もの
 過ごすことができたでしょうが、
- 1634 **tane anakne**
 タネ アナクネ
 今 は
 今はもう、

金色の羽の若き姉

- 1635 e-ki wem buri
エ・キ ウェム ブリ
汝・する 悪い 行い
あなたには悪いおこないが
- 1636 an kusu
アン クス
ある (理由・目的)
あったのですから、
- 1637 rai ne yakka
ライ ネ ヤクカ
死ぬ (繫辞類) (譲歩)
死ぬにしても、
- 1638 e-kotom ruwe
エ・コトム ルウェ
汝・ふさわしい 跡
あなたにふさわしい死を
- 1639 nukar.”
ヌカラ.”
見る
ご覧なさい。」
- 1640 ari itak-an kane.
アリ イタク・アン カネ.
(引用) 言う・我 (程度)
私はこのように言った。
- 1641 Tui rukhumi
トウイ ルクフミ
切れる 断片
伯父の切られた残骸が
- 1642 a-usatchari.
ア・ウサトチャリ.
散乱する
乱れ散った。
- 1643 Inot^{*19} orke
イノト オロケ
死霊 ところ
死霊の
- 1644 hobuni humi
ホブニ フミ
起きる 音
昇る音が
- 1645 keurototke.
ケウロトトケ.
響く
鳴り響いた。
- 1646 Wen rok be kusu
ウェン ロク ベ クス
悪い (完了) もの (理由・目的)
悪人であるので、
- 1647 turem be base wa
トゥレム ベ バセ ワ
憑く もの 重い (接続)
憑き神が重い
- 1648 humash nankor a.
フマシ ナンコラ.
気配がする だろう (疑問)
のであろうか。
- 1649 Kohumokake
コフモカケ
音の後
その音が響いた後、
- 1650 chakkosanu.
チャクコサヌ.
静まり返る
あたりは静かになった。

*19 ino と書かれているが、inot と解釈する。

第4章

別れと帰還

4.1 姉との別れ

- 1651 Okake ta
オカケ タ
後 (場所)
その後で、
- 1652 pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄と、
- 1653 kani rap noka
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 1654 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は、
- 1655 i-ukoeshikarba
イ・ウコエシカラバ
我・共に抱きかかえる
一緒になって私を抱きかかえ、
- 1656 i-euwomko-
イ・エウオムコ・
我・半分
半ば
- 1657 chishkar kane.
チシカラ カネ.
泣く (程度)
泣いている。
- 1658 Pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1659 tanebo konna,
タネボ コンナ,
今 は
今はようやく、
- 1660 “Akpo.” ari
“アッポ” アリ
弟 (引用)
「弟よ。」と
- 1661 “Sambe.” ari
“サムベ” アリ
心臓 (引用)
「心臓よ。」と
- 1662 itak kane
イタク カネ
言う (程度)
言って、
- 1663 i-shikoruye.
イ・シコルイエ.
我・撫でる
私を引き寄せて撫でた。
- 1664 Shisak rametok
シサク ラメトク
またとない 勇者
またとない勇者が、
- 1665 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
私の上へ
- 1666 tu kishnu nube
トゥ キシヌ ヌベ
二つの 僅かな 涙
二つの濃い涙、
- 1667 re kishnu nube
レ キシヌ ヌベ
三つの 僅かな 涙
三つの濃い涙を
- 1668 eranke kane.
エランケ カネ.
落とす (程度)
落とした。
- 1669 Kamui a-kor sapo
カムイ ア・コロ サポ
神 我・持つ 姉
兄は神である姉にも
- 1670 koyairaike
コヤイライケ
感謝する
感謝の意を表し、
- 1671 tu wan onkami
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 拝礼
二十の拝礼、

金色の羽の若き姉

- 1672 re wan onkami
レ ワン オンカミ
三つの 十の 拝礼
三十の拝礼を
- 1673 arukakushte.
アルカクシテ.
重ねる
重ねた。
- 1674 Kani rap noka
カニ ラッ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 1675 pon a-koro sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉は、
- 1676 otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 こそ
二度も、
- 1677 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 こそ
三度も
- 1678 i-shikoruye.
イ・シコルイェ.
我・撫でる
私を引き寄せて撫でた。
- 1679 Tu pirika kuni p
トゥ ビリカ クニ プ
二つの よい すべき もの
二つのよいこと、
- 1680 re pirika kuni p
レ ビリカ クニ プ
三つの よい すべき もの
三つのよいことを
- 1681 i-ebakashnu koro,
イ・エバカシヌ コロ,
我・言い聞かせる (同時)
私に教え諭して、
- 1682 “Tane bakno
“タネ バクノ
今 まで
「これからは
- 1683 e-i-nukara
エ・イ・ヌカラ
汝・我・見る
あなたが私を見守る
- 1684 kun i tab an.”*1
クニ タバン.”
べき こと これ ある
のですよ。」
- 1685 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (程度)
と言って、
- 1686 chish a chish a.
チシ ア チシ ア.
泣く 完了 泣く 完了
泣きに泣いた。
- 1687 “Pon a-kor sapo
“ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
「姉さんよ、
- 1688 kamui a-koro sapo.”
カムイ ア・コロ サポ.”
神 我・持つ 姉
神の姉さんよ。」
- 1689 ari itak-an kane
アリ イタク・アン カネ
(引用) 言う・我 (程度)
と私は言って
- 1690 a-toikokishma.
ア・トイコキシマ.
我・強く抑える
姉を強く抱きしめた。
- 1691 Iki-an chiki
イキ・アン チキ
する・我 (条件)
私がそうすると、
- 1692 i-henkotba koro
イ・ヘンコトバ コロ
我・愛撫する (同時)
姉は私を撫でて、
- 1693 otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 こそ
二回、
- 1694 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 こそ
三回と
- 1695 i-echopnure kane.
イ・エチヨブヌレ カネ.
我・接吻する (程度)
私に口づけをした。
- 1696 A-kishma humi
ア・キシマ フミ
我・抑える 気配
私は姉を強く
- 1697 yupke rok be
ユプケ ロク ベ
強い (完了) もの
抱きしめていたが、
- 1698 rarak konru ne
ララク コンル ネ
滑らかである 氷 (繫辞類)
姉はなめらかな氷のように、

*1 この引用句の解釈については未詳。

- 1699 a-tekbosore.
ア・テッボソレ。
我が手から抜け落ちる
私の腕の中を抜けて、
- 1700 Kamui nish ka
カムイ ニシ カ
神 空 上
天空へ
- 1701 korikoshma.
コリコシマ。
飛び上がる
駆け上がった。
- 1702 Inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 (展開)
私が見ると、
- 1703 tap ainu kat ne
タプ アイヌ カト ネ
これ 人間 姿 (繫辞類)
これまでは人間の姿
- 1704 okai rok be
オカイ ロク ベ
ある (完了) もの
であったのに、
- 1705 a-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
いわゆる
- 1706 kakkok kamui
カクコク カムイ
郭公 神
郭公の神となり、
- 1707 kani chikap
カニ チカプ
金 鳥
金の鳥、
- 1708 kani rabu
カニ ラブ
金 羽
その金の羽の
- 1709 kurkashike
クルカシケ
上
上には、
- 1710 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 1711 eshimaka.
エシマカ。
輝く
明るく輝いている。
- 1712 Kani amihi
カニ アミヒ
金 爪
金の爪は
- 1713 koenchayaike.
コエンチャヤイケ。
突き出す
鋭く突き出している。
- 1714 Chikap ne koroka
チカプ ネ コロカ
鳥 (繫辞類) (逆接)
鳥ではあるが、
- 1715 pon shikihi wa
ボン シキヒ ワ
小さい 目 (起点)
小さな目から
- 1716 ranke nube
ランケ ヌベ
下ろす 涙
落とす涙が
- 1717 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
私の上に
- 1718 apto shin ne
アプト シン ネ
雨 様子 (繫辞類)
雨のように
- 1719 chierapte.
チエラプテ。
落下する
落ちてきた。
- 1720 I-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
私の上で、
- 1721 moire shirappa
モイレ シラパパ
遅い 羽ばたき
静かな羽ばたきを
- 1722 koyaikurka-
コヤイクルカ・
自らの上
繰り返し
- 1723 oma kane
オマ カネ
ある (程度)
おこなった。
- 1724 toop rikin ko
トオプ リキン コ
ずっと遠く 昇る (条件)
ずっと上空に飛んでいくと、
- 1725 pon a-koro yubi tura
ボン ア・コロ ユビ トウラ
小さい 我・持つ 兄 ともに
私は年少の兄とともに、
- 1726 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
二人で

金色の羽の若き姉

- 1727 **nei bakno**
ネイ バクノ
いつ まで
いつまで
- 1728 **ne yakka**
ネ ヤクカ
(繫辞類) (讓歩)
も、
- 1729 **kani kakkok kamui oshi**
カニ カクコク カムイ オシ
金 郭公 神 後から
金の郭公の神の後へ、
- 1730 **tu wan onkami**
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 拝礼
二十の拝礼、
- 1731 **re wan onkami**
レ ワン オンカミ
三つの 十の 拝礼
三十の拝礼を
- 1732 **chish turanno**
チシ トウランノ
泣く ともに
泣きながら
- 1733 **a-utasare.**
ア・ウタサレ.
我・交換する
繰り返した。
- 1734 **Toop toop**
トオプ トオプ
ずっと遠く ずっと遠く
郭公はずっと
- 1735 **oshirimukukke wa**
オシリムクukke ワ
消える (接続)
かなたに消えて
- 1736 **isam.**
イサム.
いない
しまった。
- 1740 **kamui nish ka**
カムイ ニシ カ
神 空 上
天空へ
- 1741 **korikoshma.**
コリコシマ.
飛び上がる
駆け上がった。
- 1742 **Ikakashi**
イカカシ
すぐ後に続いて
私はその後
- 1743 **a-yairarire.**
ア・ヤイラリレ.
我・自らを押しつける
ついて行った。
- 1744 **Tumisukere-an**
トゥミスイケレ・アン
戦闘を終結させる・我
私たちは戦いを終わらせ、
- 1745 **wembesukere-an wa**
ウェムベスイケレ・アン ワ
戦闘を終わらせる・我 (接続)
戦闘を終わらせて、
- 1746 **Tomisambechi**
トミサムベチ
(地名)
トミサンペチの
- 1747 **bet besh rera**
ベト ベシ レラ
川 沿う 風
川に沿って流れる風を
- 1748 **a-yaiturare**
ア・ヤイトウラレ
我・自ら連れる
伴い、
- 1749 **sap-an hum konna**
サプ・アン フム コンナ
下る・我 音 こそ
私たちが下っていく音が
- 1750 **keurototke.**
ケウロトトケ.
響く
鳴り響いた。
- 1751 **Shietok un wa**
シエトク ウン ワ
自分の行く手 (方向) (起点)
行く手を
- 1752 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 1753 **a-ye manu**
ア・イエ マヌ
言われる という
噂に聞いた

4.2 シヌタプカの神居

- 1737 **Okake ta**
オカケ タ
後 (場所)
その後で、
- 1738 **pon a-koro yubi**
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1739 **i-yaikoshiren**
イ・ヤイコシレン
我・自ら誘う
一緒に来るようにと言い、

- 1754 an-ewak shiroro
アネワク シロロ
我・住む 場所
私たちの住まい、
- 1755 Tomisambechi
トミサムベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 1756 Shinutapka
シヌタプカ
(地名)
シヌタプカの
- 1757 kamui ekaichish*²
カムイ エカイチシ
神 頂上の平らな岩山
頂きの平らな岩山が
- 1758 chiekantoor-
チエカントオロ・
天
天空を
- 1759 suiba kane.
スイバ カネ.
揺する (程度)
揺らしてそびえている。
- 1760 Noshki bakno
ノシキ バクノ
真中 まで
山の中腹まで、
- 1761 kunne urar
クンネ ウララ
黒い 霧
黒い霧、
- 1762 buyatek urar
ブヤテク ウララ
もやもやとする 霧
濃い霧が
- 1763 chikonoiba kane.
チコノイバ カネ.
たなびく (程度)
たなびいている。
- 1764 Soy un yakura
ソイ ウン ヤクラ
外 ある 櫓
外にある櫓、
- 1765 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
その櫓の上に
- 1766 an-i-y-erapte wa
アニ・イエラッテ ワ
我・下ろされる (接続)
私たちは降ろされて、
- 1767 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
眺めると、
- 1768 tapkop ka ta
タプコプ カ タ
小山 上 (場所)
丸い小山の上に、
- 1769 kani chise
カニ チセ
金 家
金の家、
- 1770 kani chashi
カニ チャシ
金 チャシ
金の柵が
- 1771 uworeroshki.
ウウオレロシキ.
重なって立つ
重なり合って建っている。
- 1772 Tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
まさしく、
- 1773 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 (起点)
隅々まで、
- 1774 a-reka kashba
ア・レカ カシバ
我・褒める 甚だしい
言葉に尽くせないほど
- 1775 a-tomte kashba.
ア・トムテ カシバ.
輝いている 甚だしい
美しく飾られている。
- 1776 Chashi kar be
チャシ カラ ベ
チャシ する もの
柵にあたる風は
- 1777 kosebebatki
コセババトキ
鳴る
ばたばたと鳴り、
- 1778 toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 する もの
地面にあたる風は
- 1779 koturimimse.
コトゥリミムセ.
響き渡る
轟音を立てる。
- 1780 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私をそれを好ましく

p. 35

*² ekai と書かれているが、ekaichish と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 1781 a-uwesuye
ア・ウウエスイエ
我・思う
思い、
- 1782 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚きの気持ちを
- 1783 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・持つ
抱いた。
- 1784 Ainu ewak i anakne
アイヌ エワキ アナクネ
人間 住む ところ は
まったく人間の住まいでは
- 1785 oar somo ne
オアラ ソモ ネ
全く (否定) (繫辞類)
ないようであり、
- 1786 kamui ewak i
カムイ エワキ
神 住む ところ
神の住まいを
- 1787 chiekasure.
チエカスレ.
凌ぐ
凌ぐほど美しい。
- 1788 Ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このような様子
- 1789 ne wa
ネ ワ
(繫辞類) (接続)
であるから、
- 1790 ebosoun
エボソウン
成程
なるほど、
- 1791 hushkotoi wano
フシコトイ ワノ
以前 (起点)
以前から思っていたが、
- 1792 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
いかなる生まれの者、
- 1793 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
いかなる育ちの者が
- 1794 tapne a-koro ainu
タップネ ア・コロ アイヌ
このように 我・持つ 父
父と
- 1795 a-koro tutto ne wa
ア・コロ トット ネ ワ
我・持つ 母 (繫辞類) (接続)
母であって、
- 1796 a-ekeshke kusu.
ア・エケシケ クス.
ねたまれる (理由・目的)
妬み嫉みを受けたのか。
- 1797 Naa uben aine
ナア ウベン アイネ
まだ 若い (接続)
まだ若いうちに、
- 1798 kamui or un
カムイ オロ ウン
神 ところ (方向)
両親が神々のもとへ
- 1799 baye hawe
バイエ ハウエ
行く 声
立ち去る
- 1800 okai ko
オカイ コ
ある (条件)
と、
- 1801 sui a-wenkeushutu
スイ ア・ウェンケウシュトゥ
再び 我・悪い伯父
再び悪い伯父、
- 1802 a-otuiike
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
尻の切れた奴が、
- 1803 sui i-ekeshke ushike
スイ イ・エケシケ ウシケ
再び 我・妬む ところ
私たちを酷い目に遭わせた場所は
- 1804 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
何と美しいこと
- 1805 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
かと、
- 1806 a-keutumkashi
ア・ケウトウムカシ
我・心の上
私は心の中で
- 1807 chishkot kane.
チシコト カネ.
泣く (程度)
泣き崩れた。
- 1808 Sonnoboka
ソンノボカ
本当に
話に聞いた通り、

p. 36

- 1809 burai hene
ブライ ヘネ
窓 (例示)
窓も
- 1810 aba hene
アバ ヘネ
簾戸 (例示)
戸口も
- 1811 kani torat tush ari
カニ トラト トウシ アリ
金 皮 縄 (手段)
金の皮の縄で
- 1812 a-shinashina kane.
ア・シナシナ カネ.
縛られる (程度)
縛られていた。
- 1813 Shiran ko
シラン コ
有様である (条件)
すると、
- 1814 nei choroboki ta
ネイ チョロボキ タ
その 下 (場所)
その下に、
- 1815 chiwente emush hene
チウエンテ エムシ ヘネ
壊れる 刀 (例示)
壊れた刀や
- 1816 nep notakop hene
ネプ ノタコプ ヘネ
何 刃物 (例示)
何かの刃物の
- 1817 notak sak be
ノタク サク ベ
刃 欠く もの
刃のこぼれたものが、
- 1818 chikekke shiri
チケッケ シリ
折れる 様子
折れて
- 1819 nuburi shin ne
ヌブリ シン ネ
山 様子 (繫辞類)
山のように
- 1820 boro ikiri
ボロ イキリ
大きい 列
積み重なって
- 1821 an kane.
アン カネ.
ある (程度)
いた。
- 1822 Shiran chiki
シラン チキ
有様である (条件)
そして、
- 1823 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚きの気持ちを
- 1824 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・持つ
私は抱いた。
- 1825 Pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1826 chakke hau kan
チャッケ ハウ カン
はじける 声 上
気合いを
- 1827 kari kane
カリ カネ
回す (程度)
入れて
- 1828 burai bitatba
ブライ ビタトバ
窓 ほどく
窓の縄をほどき、
- 1829 aba bitatba.
アバ ビタトバ.
簾戸 ほどく
戸口の縄をほどいた。
- 1830 Mosem tuyor
モセム トウヨロ
玄関納屋 中
私たちは玄関の納屋に
- 1831 an-eshikirba.
アネシキリバ.
我・回る
入った。
- 1832 Kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
神の匂い、
- 1833 ikoro hura
イコロ フラ
宝物 匂い
宝物の匂いが
- 1834 rui*³ rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 (繫辞類)
激しい風となって、
- 1835 i-emakna-
イ・エマクナ・
我・背後
私たちは

*³ この語の前に iemakna kur と書かれているが、誤記とみなす。

金色の羽の若き姉

- 1836 raiba*4 kane.
ライバ カネ、
移動させる (程度)
倒れそうになるほどだった。
- 1837 Kani abaotbe*5
カニ アバオトベ
金 簾戸
金の簾戸が
- 1838 ratki ruwe konna
ラトキ ルウェ コンナ
垂れ下がった 跡 は
垂れ下がる様子は
- 1839 tonnatara.
トンナタラ。
光っている
光り輝いている。
- 1840 A-omausuibare
ア・オマウスイバレ
我・そよがせる
私たちはそれをそよがせて、
- 1841 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に、
- 1842 imeru tura
イメル トウラ
光 とともに
光とともに、
- 1843 urar tura
ウララ トウラ
霧 とともに
靄とともに
- 1844 rutkosamba-an wa
ルトコサムバ・アン ワ
押し入る・我 (接続)
さっと入った。
- 1845 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 1846 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白い靄、
- 1847 kunne urar
クンネ ウララ
黒い 霧
黒い靄が
- 1848 chise upsoro
チセ ウァソロ
家 内部
家の中に
- 1849 eetushnatki kane.
エエトウシナトキ カネ、
満ちる (程度)
満ちている。
- 1850 Ponno
ボンノ
少し
しばらく
- 1851 shirantek ko
シランテク コ
時がたつ (条件)
すると、
- 1852 urar hechawe.
ウララ ヘチャウエ。
霧 弾ける
靄が薄くなった。
- 1853 Iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
何ということか、
- 1854 tanebo tapne
タネボ タパネ
今 このように
今はじめて
- 1855 a-un chise
ア・ウン チセ
我・いる 家
私たちの家の
- 1856 upsoro ho
ウァソロホ
内部
中の様子を
- 1857 a-yaiamkire kusu.
ア・ヤイアムキレ クス。
我・知る (理由・目的)
私は知った。
- 1858 Tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 1859 aman emboki
アマン エムボキ
棟木 下
棟木の下に、
- 1860 chiibiyere
チイビイエレ
すきまなく
ぎっしりと、
- 1861 rorunso ba ta
ロルンソ バ タ
上座 上 (場所)
上座の上に、
- 1862 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
神宝、

*4 emakna raiba と書かれているが、i-を補って解釈する。

*5 abautbe と書かれているが、abaotbe と解釈する。

- 1863 kani shintoko
カニ シントコ
金 ほかい
金の行器、
- 1864 yayan shintoko
ヤヤン シントコ
普通の ほかい
並みの行器、
- 1865 kani shiyop
カニ シヨフ
金 箱
金の箱、
- 1866 yayan shiyop
ヤヤン シヨフ
普通の 箱
並みの箱が
- 1867 urutkoboye.
ウルトコボイエ.
入り交じる
入り交じって並んでいる。
- 1868 Ram besh kunne
ラム ベシ クンネ
低い 崖 ように
それらは低い崖のように
- 1869 chishiturire.
チシトゥリレ.
伸びる
伸びている。
- 1870 Enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 (場所)
宝列の上の方には、
- 1871 nishpa mut be
ニシパ ムト ベ
長者 差す もの
長者の差す刀、
- 1872 utarpa mut be
ウタラパ ムト ベ
首領 差す もの
頭領の差す刀の
- 1873 otu san tuka
オトゥ サン トウカ
二つの くだる 柄頭
二つの柄頭、
- 1874 ore san tuka
オレ サン トウカ
三つの くだる 柄頭
三つの柄頭が
- 1875 chieunruke
チエウンルケ
整列
並び、
- 1876 ukorambusa-
ウコラムプサ・
垂れた房
それらの刀は刀飾りを
- 1877 suiba kane.
スイバ カネ.
揺する (程度)
揺らしている。
- 1878 Iyoikir kurka
イヨイキリ クルカ
宝列 上
宝列の上で、
- 1879 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 1880 eshimaka.
エシマカ.
輝く
明るく輝いている。
- 1881 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私はそれを好ましく
- 1882 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ.
我・思う
思った。
- 1883 Kani so kurka
カニ ソ クルカ
金 平面 上
金の床の表面は
- 1884 komaknatara.
コマクナタラ.
輝いている
照り輝いている。
- 1885 Kani inumbe
カニ イヌムベ
金 炉縁
金の炉縁木が
- 1886 baye ruwe*⁶ konna
バイエ ルウエ コンナ
行く 跡 は
伸びる様子は
- 1887 tonnatara.
トンナタラ.
光っている
光り輝いている。
- 1888 Shiso sam ta
シソ サム タ
右座 そば (場所)
右座の傍らで、
- 1889 iyoikir kesh wano
イヨイキリ ケシ ワノ
宝列 末端 (起点)
宝列の端から続く

*⁶ bayer we と書かれているが、bayer ruwe と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 1890 kani matchuyop
カニ マトチュヨフ
金 女持ちの手函
金の女持ちの手函の
- 1891 boro ikirihi
ボロ イキリヒ
大きい 列
大きな列が
- 1892 uturun shikkeu
ウトウルン シッケウ
火尻座 隅
下座の隅へ
- 1893 chieushi.
チエウシ.
とどく
連なっている。
- 1894 Nei kotchake
ネイ コトチャケ
その 前
その手前には、
- 1895 menoko mukru
メノコ ムクル
女 枕
女の枕、
- 1896 kani mukru
カニ ムクル
金 枕
金の枕が
- 1897 chieshituri.
チエシトゥリ.
伸びている
伸びている。
- 1898 Enkashike ta
エンカシケ タ
離れた上 (場所)
その上の方に、
- 1899 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
いかなる生まれの者、
- 1900 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
いかなる育ちの者が
- 1901 tekekar kuni p
テケカラ クニ プ
作る すべき もの
作ったもの
- 1902 ne nankor a
ネ ナンコラ
(繫辞類) だろう (疑問)
であろうか、
- 1903 kani chikirbe
カニ チキリベ
金 刺繍衣
金の刺繍衣、
- 1904 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
神々しい刺繍衣があり、
- 1905 rikun kakenchai
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
その重みで上の掛け竿、
- 1906 ranke kakenchai
ランケ カケンチャイ
下の 掛け竿
下の掛け竿が
- 1907 eereweuse.
エエレウェウセ.
曲がる
たわんでいる。
- 1908 Kurkashike
クルカシケ
上
刺繍衣の表面は
- 1909 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュブキ
二つの 神 光
二つの神々しい光、
- 1910 re kamui chupki
レ カムイ チュブキ
三つの 神 光
三つの神々しい光で
- 1911 eshimaka.
エシマカ.
輝く
明るく輝いている。
- 1912 Anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私はそれを好ましく
- 1913 a-uwesuye.
ア・ウウエスイエ.
我・思う
思った。
- 1914 Ikit tukari
イキト トウカリ
列 手前
宝列の手前には
- 1915 kani amset
カニ アムセト
金 寝台
金の寝台、
- 1916 chituye amset
チトウイエ アムセト
切れた 寝台
仕切られた寝台が
- 1917 chishiturire.
チシトゥリレ.
伸びる
伸びている。

- 1918 **Kurkashike**
 クルカシケ
 上
 その表面には
- 1919 **kamui imeru**
 カムイ イメル
 神 光
 神光が
- 1920 **eshimaka.**
 エシマカ.
 輝く
 明るく輝いている。
- 1921 **Anramasu***7
 アンラマス
 まったく好ましい
 私はそれを好ましく
- 1922 **a-uwesuye.**
 ア・ウウエスイエ.
 我・思う
 思った。
- 1923 **Sonno**
 ソンノ
 真に
 まことに、
- 1924 **kamui ewak i**
 カムイ エワキ
 神 住む ところ
 神の住まいを
- 1925 **an-ekasure.**
 アネカスレ.
 凌ぐ
 凌ぐほど美しい。
- 1926 **Shiyoro keutum**
 シヨロ ケウトウム
 驚く 心
 驚きの気持ちを
- 1927 **a-yaikore.**
 ア・ヤイコレ.
 我・持つ
 私は抱いた。
- 4.3 兄との暮らし**
- 1928 **Hushkotoi wano**
 フシコトイ ワノ
 以前 (起点)
 長い間、
- 1929 **abe sak kuni p**
 アベ サク クニ プ
 火 欠く すべき もの
 火が焚かれていなかったもの
- 1930 **kone p ne kusu**
 コネ プ ネ クス
 (繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
 であるから、
- 1931 **kamui ewak i**
 カムイ エワキ
 神 住む ところ
 神の住まいの
- 1932 **upsoroho**
 ウァソロホ
 内部
 中は
- 1933 **korainatara kane.**
 コライナタラ カネ.
 死んでいる (程度)
 静まり返っている。
- 1934 **Pon a-koro yubi**
 ポン ア・コロ ユビ
 小さい 我・持つ 兄
 年少の兄は
- 1935 **chise upsoro**
 チセ ウァソロ
 家 内部
 家の中を
- 1936 **tuima baru**
 トウイマ バル
 遠い 掃く
 遠く掃き、
- 1937 **hanke baru**
 ハンケ バル
 近い 掃く
 近く掃き、
- 1938 **munuiba**.*8
 ムヌイバ.
 掃除する
 塵を取り除いた。
- 1939 **tap orowa**
 タプ オロワ
 これ (始点)
 それから、
- 1940 **otu ni temkoro**
 オトゥ ニ テムコロ
 二つの 木 腕で抱える
 二つの薪を抱え、
- 1941 **ore ni temkoro**
 オレ ニ テムコロ
 三つの 木 腕で抱える
 三つの薪を抱えて、
- 1942 **ukaerura.**
 ウカエルラ.
 積みあげて運ぶ
 積み重なるほど薪を運んだ。
- 1943 **Chinuina abe**
 チヌイナ アベ
 隠される 火
 埋もれた火、

*7 aramasu と書かれているが、anramasu と解釈する。

*8 他方言の mun nuiba に相当する語形とみられる。

金色の羽の若き姉

- 1944 **abe kanriki-**
アベ カンリキ・
火 高く
その火を高く
- 1945 **bumba kane**
ブムバ カネ
上げる (程度)
掻き上げて、
- 1946 **ruirui abe**
ルイルイ アベ
強い 火
火をあかあかと
- 1947 **ebarsere.**
エバラセレ.
広げる
燃やした。
- 1948 **Tap orowa**
タフ オロワ
これ (始点)
それから、
- 1949 **pirika shuke**
ピリカ シュケ
よい 炊事する
よい炊事を
- 1950 **koyairikta-**
コヤイリクタ・
おのれより高く
手際良く
- 1951 **ante kane.**
アンテ カネ.
あらしめる (程度)
おこなった。
- 1952 **Shu chi wa**
シュ チ ワ
鍋 煮える (接続)
鍋が煮えると
- 1953 **yapte**
ヤフテ
火から下ろす
それを下ろし、
- 1954 **kabarbe ochike**
カバラベ オチケ
薄造りの物 膳
薄造りの御膳、
- 1955 **kabarbe itanki**
カバラベ イタンキ
薄造りの物 御椀
薄造りの御椀を
- 1956 **sanasapte.**
サナサフテ.
取り出す
取り出した。
- 1957 **Pirika aep**
ピリカ アエフ
よい 食物
よい食物、
- 1958 **rai sonabi**
ライ ソナビ
死ぬ 高盛の椀
大きな山盛りの飯、
- 1959 **herashi iyo i**
ヘラシ イヨ イ
下へ 入る ところ
底の方に入るものは
- 1960 **pon kane**
ボン カネ
小さい (程度)
小さくなり、
- 1961 **herikashi iyo i**
ヘリカシ イヨ イ
上へ 入る ところ
上の方に盛られているものは
- 1962 **boro kane**
ボロ カネ
大きい (程度)
大きくなっているものを
- 1963 **i-koibuni.**
イ・コイブニ.
我・食事を出す
私に差し出した。
- 1964 **A-uina wa**
ア・ウイナ ワ
我・取る (接続)
私はそれを受け取って、
- 1965 **a-raunruke**
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
低くかざし、
- 1966 **a-rikunruke**
ア・リクンルケ
我・高きさしあげる
高くかざし、
- 1967 **a-koonkami wa**
ア・コオンカミ ワ
我・拝礼する (接続)
拝礼して
- 1968 **ibe-an.**
イベ・アン.
食事する・我
食べた。
- 1969 **Ibebo mashkin**
イベボ マシキン
食物 ますます
あまりに食物が無く、
- 1970 **a-ekot anke**
ア・エコト アンケ
我・死ぬ しようとする
倒れそうな気が
- 1971 **yainu-am be**
ヤイヌ・アム ベ
考える・我 もの
していたもの

- 1972 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1973 pirika aep
ピリカ アエフ
よい 食物
よい食物、
- 1974 keran aep
ケラン アエフ
おいしい 食物
おいしい食物で
- 1975 a-esambe*⁹ ba wa
ア・エサムベ バ ワ
我・心臓 上 (起点)
心臓の上から
- 1976 a-esambe kesh wa
ア・エサムベ ケシ ワ
我・心臓 末端 (起点)
心臓の下まで
- 1977 koshituriri.
コシトゥリリ.
のびのびとする
落ち着いた気持ちになった。
- 1978 Sonno
ソンノ
真に
まことに
- 1979 sambeshituri-an.*¹⁰
サムベシトゥリ・アン.
心臓が伸びる
伸び伸びした気持ちになった。
- 1980 pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄
- 1981 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤクカ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (譲歩)
も、
- 1982 yaikoibuni.
ヤイコイブニ.
自分に食事を出す
自ら食事を盛りつけた。
- 1983 Ibe-an
イベ・アン
食事する・我
私たちは食事をして、
- 1984 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
その食事の最中に、
- 1985 pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 1986 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 (場所)
成長するまでの間に
- 1987 nukar be
ヌカラ ベ
見る もの
見たこと、
- 1988 nu kuni p
ヌ クニ プ
聞く すべき もの
聞いたこと、
- 1989 ene ene
エネ エネ
このように このように
以前に
- 1990 a-koro ainu
ア・コロ アイヌ
我・持つ 父
父と
- 1991 a-koro tutto
ア・コロ トット
我・持つ 母
母が
- 1992 haweokai i hene
ハウエオカイ イ ヘネ
言う こと (例示)
話していたことなど、
- 1993 eshikarun i
エシカルニ
思い出す こと
思いだすこと
- 1994 obittano
オビトタノ
皆
すべてを、
- 1995 ye wa i-nure.
イエ ワ イ・ヌレ.
言う (接続) 我・聞かせる
私に話して聞かせた。
- 1996 Makan ne ko
マカン ネ コ
どのように (繋辞類) (条件)
あるときは、
- 1997 a-nanka konna
ア・ナンカ コンナ
我・顔 は
私の表情は
- 1998 korapnatara
コラフナタラ
落ち込んでいる
暗く沈み、

*⁹ この形式の解釈については未詳。*¹⁰ 原ノートでは、i が脱落した sambesh turi an という形で表記されている。

金色の羽の若き姉

- 1999 tu beken nube
トウ ベケン ヌベ
二つの 明るい 涙
二つの澄んだ涙、
- 2000 re beken nube
レ ベケン ヌベ
三つの 明るい 涙
三つの澄んだ涙を
- 2001 a-yaikoranke.
ア・ヤイコランケ。
我・自ら流す
流した。
- 2002 Pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄
- 2003 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤクカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 2004 yainubeko-
ヤイヌベコ・
自らの涙
自ら涙を
- 2005 rapte kane.
ラプテ カネ。
下ろす (程度)
流した。
- 2006 Konepkeukata
コネプケウカタ
何ということか
何ということか、
- 2007 konepkashita
コネプカシタ
何としたことか
何としたことか、
- 2008 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
いかなる生まれの者、
- 2009 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
いかなる育ちの者が、
- 2010 tapne a-kor ainu
タプネ ア・コロ アイヌ
このように 我・持つ 父
父と、
- 2011 kamui a-koro totto
カムイ ア・コロ トトト
神 我・持つ 母
神である母
- 2012 ne wa
ネ ワ
(繫辞類) (接続)
であるのか、
- 2013 a-nukar boka
ア・ヌカラ ボカ
我・見る さえ
私は会うことも
- 2014 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
かなわずに、
- 2015 ainu moshiri ka ta
アイヌ モシリ カ タ
人間 国土 上 (場所)
人間の国土の上で、
- 2016 mashkino
マシキノ
あまりに
あまりにも
- 2017 ramubekamam
ラムベカマム
悲しい思いをする
苦勞が
- 2018 kasui kusu.
カスイ クス。
甚だしい (理由・目的)
絶えなかったのか。
- 2019 A-wenkeushutu
ア・ウェンケウシュトゥ
我・悪い伯父
悪い伯父に
- 2020 koitaknuiba
コイタクヌイバ
遺言する
言葉を残して、
- 2021 pirika kunine
ピリカ クニネ
よい ように
よいように
- 2022 ki wa
キ ワ
する (接続)
計らって、
- 2023 kamui or un
カムイ オロ ウン
神 ところ (方向)
神々のもとへ
- 2024 baye hawe
バイエ ハウエ
行く 声
立ち去る
- 2025 okai ko
オカイ コ
ある (条件)
と、
- 2026 okake ta
オカケ タ
後 (場所)
その後で、

- 2027 a-wenkeusutu
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父が
- 2028 chihoiyore
チホイヨレ
乱心する
乱心し、
- 2029 chibauchikore
チバウチコレ
乱心する
邪心を抱くに
- 2030 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
しても、
- 2031 orsaureko ki.
オロサウレコ キ.
とんでもなく する
ただならぬことをしたのだ。
- 2032 Oman ikiri
オマン イキリ
行く 列
その経緯から、
- 2033 pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄
- 2034 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 2035 chikai hekachi
チカイ ヘカチ
背負われる 子供
背負われた子供、
- 2036 chikai teinep
チカイ テイネプ
背負われる 赤子
背負われた幼児
- 2037 korachi am be
コラチ アム ベ
ように ある もの
であるかのような者が、
- 2038 shukup sambe ka
シュクプ サムベ カ
成長する 心臓 上
幼い心を
- 2039 yaikoshitnere kane
ヤイコシトネレ カネ
自ら苦しめる (程度)
悩ませて、
- 2040 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 (限定)
戦いばかり、
- 2041 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 (限定)
戦闘ばかりに
- 2042 koash kane.
コアッ カネ.
立ち向かう (程度)
立ち向かったのだ。
- 2043 I-hunara
イ・フナラ
我・探す
私を探している
- 2044 kurkashike
クルカシケ
上
間に
- 2045 a-ekoiki ruwe
ア・エコイキ ルウェ
攻撃される 跡
攻撃を仕掛けられたのだ
- 2046 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
と、
- 2047 eashka
エアシカ
ほんとうに
まことに、
- 2048 ikemnu keutum
イケムヌ ケウトウム
憐れむ 心
憐れみの気持ちを
- 2049 a-yaikore.
ア・ヤイコレ.
我・持つ
私は抱いた。
- 2050 Tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
私たちは二人で、
- 2051 tu okne itak
トゥ オクネ イタク
二つの 悲しむ 言葉
二つの悲しみの言葉、
- 2052 re okne itak
レ オクネ イタク
三つの 悲しむ 言葉
三つの悲しみの言葉を
- 2053 a-utasare.
ア・ウタサレ.
我・交換する
交わした。
- 2054 A-wenkeusutu
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
兄は悪い伯父を

金色の羽の若き姉

p. 41

- 2055 ohaike kara.
オハイケ カラ.
(不明) つくる
罵った。
- 2056 Pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 2057 inumbe oshmak
イヌムベ オシマク
炉縁 後
炉縁木の背後を
- 2058 otetterke,
オテテテレケ,
踏みつける
踏みつけて、
- 2059 “Achikarata
“アチカラタ
いやなことだ
「何と汚らわしいことか、
- 2060 ayakannata
アヤカンナタ
ろくでもないことだ
何と忌々しいことか、
- 2061 a-wenkeusutu
ア・ウェンケウストウ
我・悪い伯父
悪い伯父が
- 2062 hemanta ye p
ヘマンタ イェ プ
何 言う もの
愚にもつかぬことを言って、
- 2063 ene katkoro
エネ カトコロ
このように 振舞う
あのようなことをした
- 2064 shiri okai.
シリ オカイ.
様子 ある
のか。
- 2065 Orowa
オロワ
(始点)
それから、
- 2066 rai ne yakka
ライ ネ ヤクカ
死ぬ (繫辞類) (譲歩)
死ぬにしても、
- 2067 sem katu ne
セム カトウ ネ
(強調) 様子 (繫辞類)
無惨な死に方を
- 2068 ki shiri okai.
キ シリ オカイ.
する 様子 ある
したのだな。
- 2069 Nekona tapne
ネコナ タプネ
どのように このように
どのように
- 2070 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 ところ (場所)
神々のところへ
- 2071 oman wa
オマン ワ
行く (接続)
行って、
- 2072 ramu a-ye
ラム ア・イエ
心 言われる
ねぎらわれている
- 2073 ruwe okai ya.”
ルウェ オカイ ヤ.”
跡 ある (疑問)
ことだろうか。」
- 2074 ari itak kane
アリ イタク カネ
(引用) 言う (程度)
と言い、
- 2075 toikoirushka.
トイコイルシカ.
激しく怒る
激しく怒った。
- 2076 Tapne tapne
タプネ タプネ
このように このように
このような次第で、
- 2077 kakkok sapo
カクコク サポ
郭公 姉
郭公の姉が
- 2078 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 (場所)
成長の途中で
- 2079 i-reshba katu hene
イ・レシバ カトウ ヘネ
我・育てる 様子 (例示)
私を育てた有様や、
- 2080 atuiikorokamui
アトウイコロカムイ
海の神
海の神が
- 2081 tapne
タプネ
このように
このような次第で、
- 2082 kakkok sapo
カクコク サポ
郭公 姉
郭公の姉に

- 2083 koasuranu i*¹¹ hene
コアスラヌ イ ヘネ
知らせる こと (例示)
知らせを持ってきたことなどを
- 2084 a-ye chiki
ア・イエ チキ
我・言う (条件)
私が話すと、
- 2085 pon a-koro yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 2086 shino yayiraike.
シノ ヤイライケ.
まことに 感謝
深く感謝した。
- 2087 “Okkai bakno
“オクカイ バクノ
男 まで
「一人前の男に
- 2088 shikup-an yakne
シクフ・アン ヤクネ
育つ・我 (条件)
私が成長したら、
- 2089 sake ari
サケ アリ
酒 (手段)
酒や
- 2090 tonoto ari
トノト アリ
酒 (手段)
御神酒、
- 2091 inau ari
イナウ アリ
木幣 (手段)
木幣で
- 2092 kamui utar
カムイ ウタラ
神 たち
神々を
- 2093 a-nomi kusu ne.”
ア・ノミ クス ネ.”
我・祀る (理由・目的) (繫辞類)
祭ることにしよう。」
- 2094 ari haweokai.
アリ ハウェオカイ.
(引用) 言う
と兄は言った。
- 2095 Eebaki ta
エエバキ タ
次 (場所)
そして、
- 2096 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がついている もの
いかなる生まれの者、
- 2097 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がついている もの
いかなる育ちの者が
- 2098 tapne
タフネ
このように
話に聞いた
- 2099 a-tureshipo ne wa
ア・トゥレシポ ネ ワ
我・妹 (繫辞類) (接続)
妹であるのか、
- 2100 i-kokushishno
イ・コクシシノ
我・ともに
私とともに
- 2101 naani bak be
ナアニ バク ベ
まさに まで もの
もう少しで
- 2102 a-i-karkar ko
ア・イ・カラカラ コ
我・される (条件)
死んでしまうところであったが、
- 2103 kamui ramboken
カムイ ラムボケン
神 憐れむ
神の憐れみが
- 2104 an kushkeraibo
アン クシケライボ
ある おかげで
あったからこそ、
- 2105 kanto ot ta
カント オト タ
天 ところ (場所)
天空で
- 2106 a-reshba
ア・レシバ
我・育てる
育てられて
- 2107 hawe okai.
ハウエ オカイ.
声 ある
いるのだ。
- 2108 Hetakta usa
ヘタクタ ウサ
早く (譲歩)
はやく、
- 2109 i-kotoichari okai
イ・コトイチャリ オカイ
我・土を散らす ある
土を散らして来てほしいものだ、

*¹¹ koasuranuni と書かれているが、koasuranu i と解釈する。

金色の羽の若き姉

- 2110 **ari okai be hene**
 アリ オカイ ベ ヘネ
 (引用) ある もの (例示)
 ということも
- 2111 **a-eukoitak*¹² kane.**
 ア・エウコイタク カネ.
 我・話し合う (程度)
 私たちは話した。
- 2112 **Chituye amset**
 チトウイェ アムセト
 切れた 寝台
 仕切られた寝台、
- 2113 **kani amset**
 カニ アムセト
 金 寝台
 金の寝台、
- 2114 **amset kurka**
 アムセト クルカ
 寝台 上
 その寝台の上に
- 2115 **an-ehorari.**
 アネホラリ.
 我・居る
 私は座った。
- 2116 **Pon a-koro yubi**
 ボン ア・コロ ユビ
 小さい 我・持つ 兄
 年少の兄は
- 2117 **oshiso sam ne**
 オシソ サム ネ
 右座 そば (繫辞類)
 右座の傍らに
- 2118 **ehorarba.**
 エホララバ、
 居る
 座った。
- 2119 **Kunne an ko**
 クンネ アン コ
 夜 ある (条件)
 夜になると、
- 2120 **ikon nubek**
 イコン ヌベク
 宝物 光
 宝物の光、
- 2121 **tomi nubek**
 トミ ヌベク
 財宝 光
 宝器の光が
- 2122 **tokap shikush ne**
 トカプ シクシ ネ
 昼 日差し (繫辞類)
 日光のように
- 2123 **chise upsoro**
 チセ ウツソロ
 家 内部
 家の中で
- 2124 **eemaknatara.**
 エエマクナタラ.
 輝いている
 照り輝いた。
- 2125 **Anramasu**
 アンラマス
 まったく好ましい
 私はそれを好ましく
- 2126 **a-uwesuye kane.**
 ア・ウウェスイエ カネ.
 我・思う (程度)
 思った。
- 2127 **Konepkeukata**
 コネプケウカタ
 何ということか
 何ということか、
- 2128 **konepkashita**
 コネプカシタ
 何としたことか
 何としたことか、
- 2129 **kani rap noka**
 カニ ラップ ノカ
 金 羽 形
 金の羽の形象を身にまとった
- 2130 **pon a-koro sapo**
 ボン ア・コロ サポ
 小さい 我・持つ 姉
 年少の姉が
- 2131 **i-reshba shiri**
 イ・レシバ シリ
 我・育てる 様子
 私を育てたこと、
- 2132 **i-omap shiri**
 イ・オマプ シリ
 我・可愛がる 様子
 私を可愛がってくれたことを
- 2133 **a-eshikarun ko**
 ア・エシカルン コ
 我・思い出す (条件)
 私は思い出すと、
- 2134 **kunne an ko**
 クンネ アン コ
 夜 ある (条件)
 夜中には、
- 2135 **sotki ka ta**
 ソトキ カ タ
 寝床 上 (場所)
 寝床の上で
- 2136 **a-yainubeko-**
 ア・ヤイヌベコ・
 我・自らの涙
 涙を

*¹² auko itak と書かれているが、a-eukoitak と解釈する。

- 2137 shiru kane.
シル カネ.
こする (程度)
拭った。
- 2138 A-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
妹のことを
- 2139 a-eshikarun ko
ア・エシカルン コ
我・思い出す (条件)
思い出すと、
- 2140 a-yainubeko-
ア・ヤイヌベコ・
我・自らの涙
涙を
- 2141 shiru kane.
シル カネ.
こする (程度)
拭った。
- 2142 Uturu an ko
ウトウル アン コ
間 ある (条件)
その間に、
- 2143 pon a-koro yubi tura
ポン ア・コロ ユビ トウラ
小さい 我・持つ 兄 ともに
年少の兄とともに
- 2144 shinot-an hawe
シノト・アン ハウエ
遊ぶ・我 声
遊ぶ声、
- 2145 mina-an hawe
ミナ・アン ハウエ
笑う・我 声
笑う声が
- 2146 a-un chise
ア・ウン チセ
我・いる 家
私たちの家の
- 2147 upsoroho
ウァソロホ
内部
中で
- 2148 bebunitara.
ベブニタラ.
騒がしい
にぎやかに響いた。
- 2149 Tu shukup ramkuru
トゥ シュクプ ラムクル
二つの 成長する 心
二つの若さ、
- 2150 re shukup ramkuru
レ シュクプ ラムクル
三つの 成長する 心
三つの若さを
- 2151 a-unosbare.
ア・ウノシバレ.
我・互いを追いかせさせる
競わせるように私は成長した。
- 2152 Ramma kane
ラムマ カネ
いつも (程度)
私たちはいつも
- 2153 katkoro kane
カトコロ カネ
振舞う (程度)
変わることなく
- 2154 okai-an.
オカイ・アン.
いる・我
暮らしていた。
- 2155 Pon a-koro yubi hene
ポン ア・コロ ユビ ヘネ
小さい 我・持つ 兄 (例示)
年少の兄も
- 2156 aokai hene
アオカイ ヘネ
我 (例示)
私も、
- 2157 uweebaki un
ウウェエバキ ウン
次々に (方向)
少しずつではあるが、
- 2158 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
ますます
- 2159 pirika-an kotom ne
ピリカ・アン コトム ネ
美しい・我 ようである (繫辞類)
美しくなるようであり、
- 2160 arutashba
アルタシバ
互いに
お互いに
- 2161 an-etobake
アネトバケ
我・身体
相手の身体を
- 2162 somo a-nukara.
ソモ ア・ヌカラ.
(否定) 我・見る
見ることができない。
- 2163 Okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめた霧、
- 2164 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
その霧の中に

金色の羽の若き姉

- 2165 a-yayomarba.
ア・ヤヨマラバ.
我・身を入れる
私たちは身体を入れている。
- 2166 Utashba bakno
ウタシバ バクノ
互いに まで
私たちはお互いに、
- 2167 ureka-an kane.
ウレカ・アン カネ.
褒め合う・我ら (程度)
称賛の言葉を口にしている。
- p. 43 2168 Pon a-koro yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は、
- 2169 hese attom
ヘセ アトトム
息 中
息のただ中に、
- 2170 sambe attom
サムベ アトトム
心臓 中
心臓のただ中に
- 2171 i-ekote kane.
イ・エコテ カネ.
我・結び付ける (程度)
結び付けるようにして私を可愛がっている。
- 2172 Hetakta usa
ヘタクタ ウサ
早く (譲歩)
はやく、
- 2173 kani rap noka
カニ ラフ ノカ
金 羽 形
金の羽の形象を身にまとった
- 2174 pon a-koro sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・持つ 姉
年少の姉と
- 2175 atuikorokamui
アトゥイコロカムイ
海の神
海の神を
- 2176 a-nomi okai
ア・ノミ オカイ
我・祀る ある
祭りたいものだ、
- 2177 ari yainu-an kane
アリ ヤイヌ・アン カネ
(引用) 考える・我 (程度)
と私たちは思いながら
- 2178 okai-an.
オカイ・アン.
いる・我
暮らしている。
- 2179 Ari bakno.
アリ バクノ.
(引用) まで
と、ここまで。

平成 24 年度アイヌ民俗文化財調査事業「金成マツノート」翻訳整理

アイヌ民俗文化財・ユークラシシリーズ 4 4

金成マツ筆録 アイヌ英雄叙事詩「金色の羽の若き姉」

平成 25 年 3 月

発 行 北 海 道 教 育 委 員 会

札幌市中央区北 3 条西 7 丁目

委託業務受託者 社団法人北海道アイヌ協会

翻訳者 高 橋 靖 以（北海学園大学非常勤講師）